AV Center

DTX-5.8

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

主な特長

- ■ 各種サラウンド方式に対応した7.1チャンネルアンプ
- ■ ドルビー[*1]デジタルプラス、ドルビーTrueHDサラウンド再生可能
- ■ DTS[*2]-HDハイレゾリューションオーディオ、DTS-HDマスターオーディオサラウンド再生可能
- ■ AACサラウンド再生可能
- ■ ファロージャDCDiエッジエンハンサー機能搭載
- ■ 高音域が強調された劇場用サウンドをご家庭で適切なバランスに補正する「Cinema FILTER[*3]」機能
- ■ 小音量でもサラウンドを楽しめるLATE NIGHT機能（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHD時のみ）
- ■ 24ビット/192kHz D/Aコンバーター搭載
- ■ 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成するVLSC[*4]（Vector Linear Shaping Circuitry）搭載
- ■ 再生周波数の広帯域化を図るWRAT（ワイド・レンジ・アンプリファイアー・テクノロジー）
- ■ ダウンミックスによるフロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
- ■ 信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上のS/Nを向上させるオプティマム・ゲイン・ボリューム回路
- ■ デジタル音声/映像信号を1本のケーブルで伝送可能なHDMI[*5]入力2系統、出力1系統装備
- ■ ビデオコンバーター搭載[*6]〔ビデオ（コンポジット）/Sビデオ信号をD4/コンポーネント出力端子に出力、ビデオ（コンポジット）/Sビデオ/D4/コンポーネント信号をHDMI出力端子に出力〕
- ■ D4/コンポーネント映像入力端子3系統、出力端子1系統装備
- ■ S映像入力端子5系統/出力端子2系統装備
- ■ 7.1マルチチャンネル入力端子装備、DVD-Audioプレーヤーやスーパーオーディオ CDプレーヤーへの拡張性を実現
- ■ デジタル入力端子として光3系統/同軸2系統、デジタル出力端子として光1系統装備
- ■ 精度の高い高音域、低音域を実現するバイアンプ接続が可能
- ■ 音声と映像のズレを補正するAVシンクコントロール機能搭載
- ■ 付属の測定用マイクで自動スピーカー（Audyssey 2EQ[*7]）設定
- ■ モニターを見ながら、簡単設定ができるOSD（オンスクリーンディスプレイ）機能
- ■ 他機の操作を可能にするプリプログラム機能搭載のリモコン付属

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“Dolby”、“ドルビー”、“Pro Logic”およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

*2 “DTS”、“DTS-HDハイレゾリューションオーディオ”および“DTS-HDマスターオーディオ”は、DTS社の商標です。“DTS”、“DTS-ES｜Neo:6”は、DTS社の登録商標です。“96/24”は、DTS社の商標です。

*3 Cinema FILTERは、オンキヨー株式会社の商標です。

*4 VLSCは、オンキヨー株式会社の登録商標です。

*5 HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

*6 本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障されたマクロビジョンコーポレーションの許可が必要な著作権保護技術を搭載しており、改造または分解は禁止されています。
U.S.パテントNos. 4, 631, 603; 4, 577, 216; 4, 819, 098; 4, 907, 093; 5, 315, 448; 6, 516, 132

*7 Audyssey Laboratoriesからの実施権に基づき製造されています。Audyssey 2EQはAudyssey Laboratoriesの商標です。

AAC パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

目次

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⃠記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠ 警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

・煙が出ている、変なにおいや音がする
・本機を落としてしまった
・本機内部に水や金属が入ってしまった
このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ 通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの天面や底面に通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となります。
・押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
（本機の天面、横から 20cm 以上、背面から 10cm 以上のスペースをあける）
・逆さまや横倒しにして使用しない
・布やテーブルクロスをかけない
・じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。
・風呂場など湿度の高い場所では使用しない
・調理台や加湿器のそばには置かない
・雨や雪などがかかるところで使用しない
・本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

水濡れ禁止

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 電源コードを傷つけない

禁止

・電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
・傷つけたり、加工したりしない
・無理にねじったり、引っ張ったりしない
・熱器具などに近づけない、加熱しない
電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

⚠ 警告

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
・本機の通風孔から異物を入れない
・本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

電池に関するご注意

■乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
・指定以外の電池は使用しない
・新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
・電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
・コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
・極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れる

■電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

⚠ 注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■本機の上に 10kg 以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧（交流 100 ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に挿し込む

禁止

挿し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

⚠ 注意

■ぬれた手で電源プラグを抜き挿ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

■通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■音量に注意する

必ずする

突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。

■長時間大きな音でヘッドホンを使用しない

禁止

聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動時のご注意

■ 移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■ 本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。

■機器内部の点検について

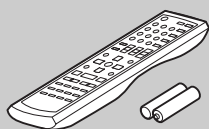
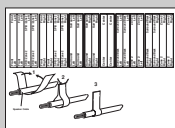
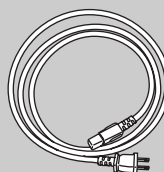
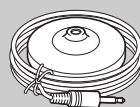
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■本機のお手入れについて

・表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
・シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

準備する

■付属品を確認する

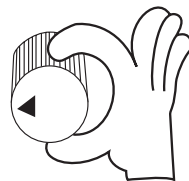
ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-683M)…(1）
乾電池（単3形、R6)…(2)

スピーカーコード用ラベル…(1）

電源コード…(1）

測定用マイク…(1）

取扱説明書（本書）…(1）
保証書…（1）

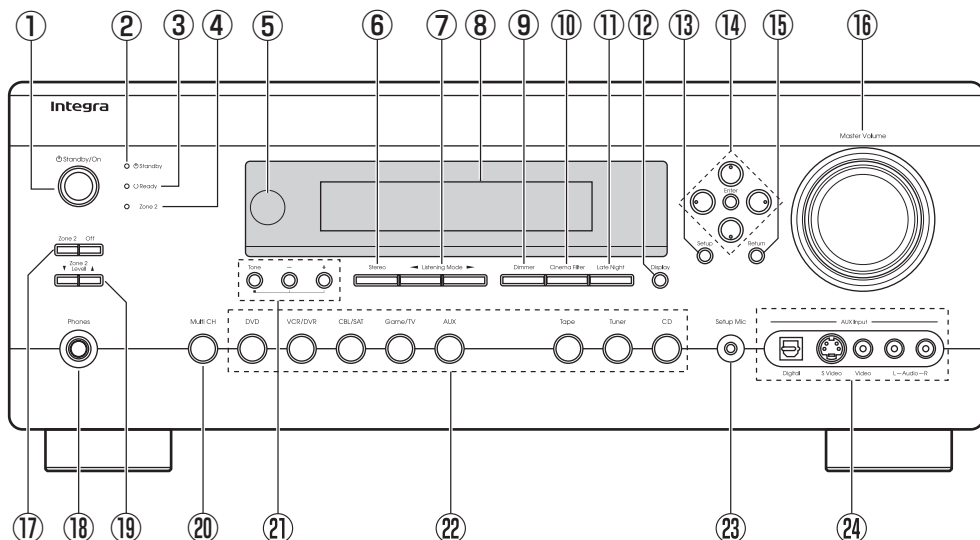
ターミナルレンチ…(1）

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　　〕内のページに主な説明があります。

① **Standby/Onボタン**〔38〕
電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

② **Standbyインジケーター**〔38〕
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

③ **Readyインジケーター** 〔78〕
HDMIのPower Control設定を「Enable」にしたとき、本機をスタンバイ状態にするとレディ状態になって点灯します。

④ **Zone 2インジケーター**〔88〕
ゾーン2（別室）への出力が「オン」のときに点灯します。

⑤ **リモコン受光部**〔15〕
リモコンからの信号を受信します。

⑥ **Stereo ボタン**〔53〕
リスニングモードをステレオにします。

⑦ **Listening Mode ◀/▶ ボタン**〔53〕
リスニングモードを選びます。

⑧ **表示部**
次ページをご覧ください。

⑨ **Dimmerボタン**〔52〕
表示部の明るさを切り換えます。

⑩ **Cinema Filterボタン**〔60〕
シネマフィルター機能をオン/オフします。

⑪ **Late Nightボタン**〔60〕
レイトナイト機能をオン/オフします。

⑫ **Displayボタン**〔62〕
表示部の情報を切り換えます。

⑬ **Setupボタン**〔45〕
本機の設定を行います。

⑭ **カーソル▲/▼/◀/▶/Enterボタン**〔45〕
設定項目を選択します。Enterボタンを押すと、選択している項目を確定します。

⑮ **Return ボタン**
設定中に1つ前の表示に戻します。

⑯ **Master Volumeつまみ**〔51〕
音量を調整します。
音量は基本的にMIN・1・2･･･98・99・MAXの範囲で調整できます。

⑰ **Zone 2/Offボタン**〔88〕
Zone 2 ボタンは、ゾーン2（別室）への出力を「オン」にするときに押します。「オフ」にするときは、Off ボタンを押します。

⑱ **Phones端子**〔52〕
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑲ **Zone 2 Level▲/▼ボタン**〔88〕
ゾーン2（別室）のスピーカー音量を調整します。

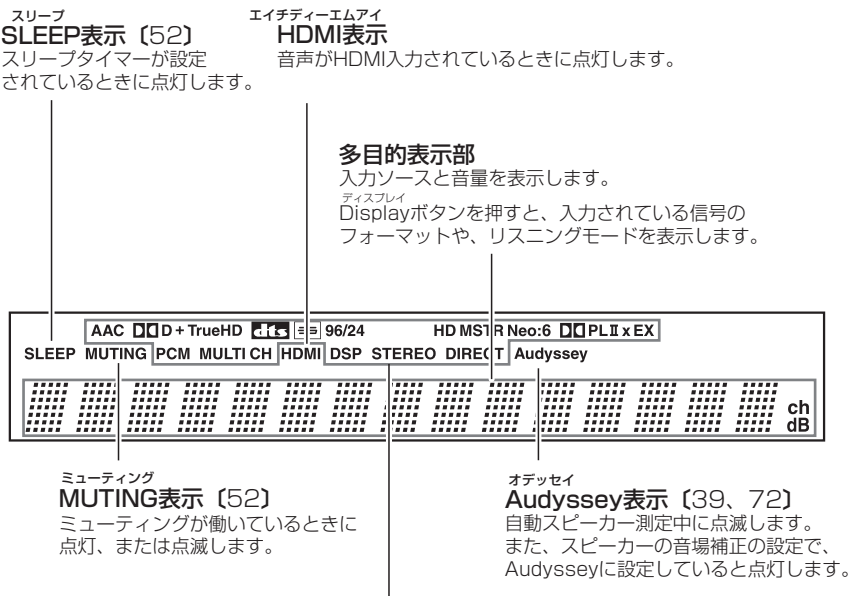
⑳ **Multi CHボタン**〔61〕
DVDの音声をマルチチャンネル入力に切り換えます。

㉑ **Tone ＋/－ボタン**〔61〕
高音、低音を調整するときに使用します。

㉒ **入力切換ボタン（DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、Game/TV、AUX、Tape、Tuner、CD）**〔51〕
再生する機器を選びます。

㉓ **Setup Mic端子**〔40〕
付属の測定用マイクを接続して、スピーカーの数や位置を検知します。

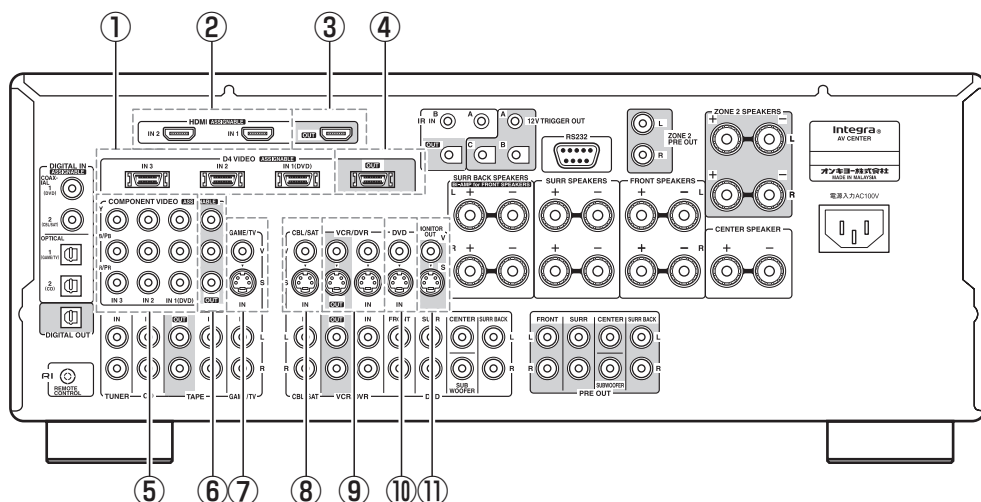
㉔ **AUX Input端子**
ビデオカメラなどを接続します。

表示部

〔　〕内のページに主な説明があります。

入力信号表示

表示	入力信号
D	Dolby Digital
dts	DTS
PCM	PCM
AAC	AAC
MULTI CH	アナログマルチチャンネル
D+	Dolby Digital Plus
TrueHD	Dolby TrueHD
dts HD	DTS-HD High Resolution Audio
dts HD MSTR	DTS-HD Master Audio

本体、リモコンボタンの名前と働き

後面パネル

① D4 VIDEO IN 1/2/3端子
接続した機器からD映像を入力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

② HDMI IN 1/2端子
接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力する端子。

③ HDMI OUT端子
本機からデジタル映像信号をテレビに出力する端子。
設定により、デジタル音声信号も同時に出力することができます。

④ D4 VIDEO OUT端子
本機からD映像を出力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

⑤ COMPONENT VIDEO IN 1/2/3端子
接続した機器からコンポーネント映像を入力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

⑥ COMPONENT VIDEO OUT端子
本機からコンポーネント映像を出力する端子。
S映像より良い画質が得られます。

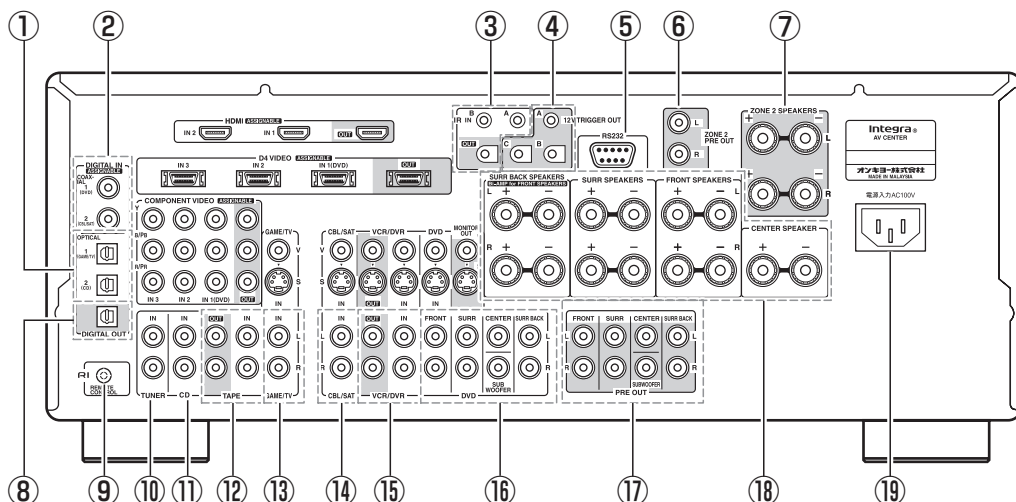
⑦ Game/TV IN端子
接続した機器からビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入力する端子。

⑧ CBL/SAT IN端子
ビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入力する端子。

⑨ VCR/DVR IN/OUT端子
ビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入出力する端子。

⑩ DVD IN端子
接続したDVDプレーヤーからビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を入力する端子。

⑪ MONITOR OUT端子
接続しているモニターやテレビにビデオ映像（VIDEO端子）、S映像（S VIDEO端子）を出力する端子。

接続については、17～37ページをご覧ください。

① DIGITAL OPTICAL IN 1/2端子
光デジタルケーブルを使用して、デジタル再生機器と音声接続する入力端子。

② DIGITAL COAXIAL IN 1/2端子
デジタル音声の入力端子。
デジタル再生機器を接続します。

③ IR IN（A/B）/OUT端子〔86〕
ゾーン2（別室）からリモコン操作したいときや本機をラックに入れたときに、リモコンセンサーを接続する端子です。（この接続には、マルチルームシステム用キットが必要です。）

④ 12V TRIGGER OUT A/B/C端子
他機の12Vトリガー入力端子と接続します。

⑤ RS232コネクター
外部のコントロール機器から本機をコントロールすることができます。

⑥ ZONE 2 PRE OUT端子〔83〕
ゾーン2（別室）で使用するアンプの音声入力端子と接続します。

⑦ ZONE 2 SPEAKERS
ゾーン2（別室）用のスピーカーを接続します。

⑧ DIGITAL OPTICAL OUT端子
デジタル音声の出力端子。
デジタル録音機器を接続します。

⑨ RI REMOTE CONTROL端子
RI端子付きインテグラ/オンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。
RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑩ TUNER IN端子
チューナーを接続します。

⑪ CD IN端子
CDプレーヤーを接続します。

⑫ TAPE IN/OUT端子
テープデッキやMDレコーダーなどの録音機器を接続します。

⑬ GAME/TV IN端子
BSチューナーなどの音声出力端子と接続します。

⑭ CBL/SAT IN端子
ビデオデッキなどの音声出力端子と接続します。

⑮ VCR/DVR IN/OUT端子
ビデオデッキなどの音声入出力端子と接続します。

⑯ DVD IN端子
DVDプレーヤーを接続します。

⑰ PRE OUT端子
本機をプリアンプとして使用する場合、パワーアンプやアンプ内蔵サブウーファーなどと接続します。

⑱ スピーカー端子
スピーカーを接続します。

⑲ 電源入力AC100V端子
付属の電源コードを接続します。

接続については、17〜37ページをご覧ください。

リモコン（RC-683M）

Remote Modeモード

このリモコンは、Remote Modeボタンを切り換えることによって、他のAV機器を操作することができます。操作する機器に合わせて、各ボタンを切り換えてください。

- 本機以外の機器を操作するには、ご使用になる機器に合わせて、あらかじめ各ボタンに4桁のリモコンコードを登録する必要があります。詳しくは90〜93ページをご覧ください。

■ AMP/Receiver/Tapeモード . 13、14ページ

本機を操作できます。また、本機とシステム連動が可能なインテグラ/オンキヨー製カセットデッキやチューナーも、RI接続*によりこのモードで操作できます。

■ DVDモード.................................94ページ

お買い上げ時の設定では、インテグラ/オンキヨー製DVDプレーヤーが登録されています。リモコンコードを変更することで、他メーカー製のDVDプレーヤー、DVDレコーダーのいずれかを操作できます。

DVD

■ CD/MD/CDR/Dockモード............95ページ

お買い上げ時の設定では、インテグラ/オンキヨー製CDプレーヤーが登録されています。リモコンコードを変更することで、オンキヨー製MDレコーダーやCDレコーダー、RI DOCK、他メーカー製の録音機器のいずれかを操作できます。

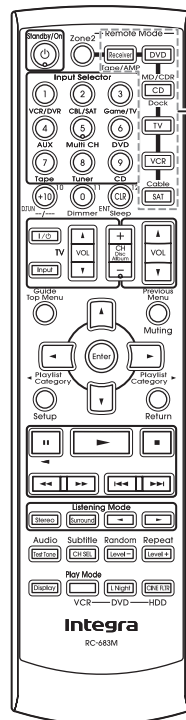
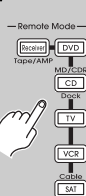
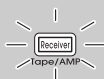
■ TVモード....................................96ページ

リモコンコードを登録することで、他メーカー製のテレビを操作できます。

■ VCRモード.................................96ページ

リモコンコードを登録することで、他メーカー製のビデオデッキを操作できます。

■ SAT/Cableモード 97ページ

リモコンコードを登録することで、他メーカー製の衛星放送チューナー、またはケーブルテレビチューナーを操作できます。

1 操作する機器にあわせて、Remote Modeボタンを切り換える

2 選択したボタンが、数秒間点灯します

操作の際も、ボタンを押すたびに、選択しているモードのボタンが点灯します。

*RI接続については36ページをご覧ください。

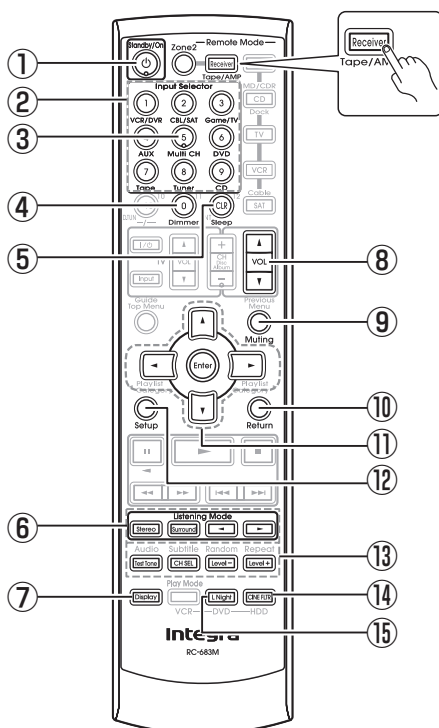
製品によっては、動作しない場合があります。

リモコン（RC-683M）

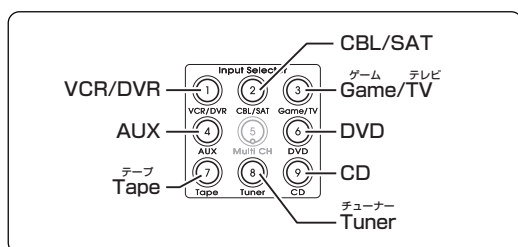
AMP/Receiver/Tapeモード

本機を操作するとき

ここでは本機を操作するAMP/Receiver/Tapeモードを選択したときに使用するボタンついて説明します。その他のモードでインテグラ/オンキヨー製品や他メーカー製のテレビ、ビデオ、AV機器などを操作するときは94〜97ページをご覧ください。

- **本機を操作するときは、まずAMP/Receiver/Tapeボタンを押してください。**

〔　　〕内のページに主な説明があります。
詳しくはそちらをご覧ください。

① **Standby/Onボタン**〔38〕
本機の電源を入れたり、スタンバイ状態にします。

② **入力切換ボタン**〔51〕
再生する機器を選びます。

③ **Multi CHボタン**〔61〕
DVDの音声をマルチチャンネル入力に切り換えます。

④ **Dimmerボタン**〔52〕
表示部の明るさを切り換えます。

⑤ **Sleepボタン**〔52〕
スリープタイマーを設定します。

⑥ **Listening Modeボタン**＊〔53〕
- **Stereoボタン**
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。
- **Surroundボタン**
Dolby DigitalやDTSなどのリスニングモードを選びます。
- **◀/▶ ボタン**
リスニングモードを選びます。

⑦ **Displayボタン**〔62〕
表示部の表示内容を切り換えます。

⑧ **VOL▲/▼ ボタン**＊〔51〕
音量を調節します。

⑨ **Mutingボタン**〔52〕
音を一時的に小さくします。

⑩ **Returnボタン**
設定中に、表示部を1つ前の表示に戻します。

⑪ **▲/▼/◀/▶/Enterボタン**〔45〕
設定中に、上下左右ボタンを押して項目を選択します。Enterボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑫ **Setupボタン**〔45〕
表示部に設定画面を表示させます。

⑬ **Test Tone/CH SEL/Level－/＋ボタン**〔61、72〕
スピーカーの音量レベルを個々に設定します。

⑭ **CINE FLTRボタン**〔60〕
シネマフィルター機能をオン/オフします。

⑮ **L Nightボタン**〔60〕
レイトナイト機能をオン/オフします。

＊⑥⑧は、AMP/Receiver/Tape以外のRemote Modeボタンを選択しているときも使用できます。

リモコン（RC-683M）

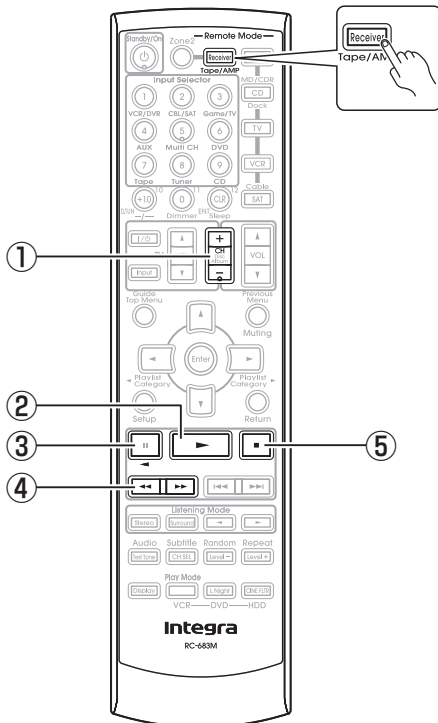
AMP/Receiver/Tapeモード 本機にRI接続したチューナー、カセットデッキを操作するとき

本機とシステム連動が可能なインテグラ/オンキヨー製カセットデッキやチューナーも、RI接続*によりAMP/Receiver/Tapeモードで操作できます。

- **本機とRI接続したチューナー、カセットデッキを操作するときは、まずAMP/Receiver/Tapeボタンを押してください。**

*RI接続については36ページをご覧ください。

ご注意

- 製品によっては、動作しない場合があります。
- インテグラ/オンキヨー製のカセットデッキを本機に接続してご使用になるときは、50ページの「入力表示を切り換える」で、入力表示を「Tape」に切り換えてください。
- お買い上げ時の設定では、入力表示は「Tape」となっています。

●チューナー操作ボタン

① CH+/−ボタン
チューナーにプリセットした放送局の番号を選びます。

●テープデッキ操作ボタン

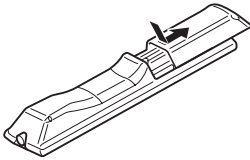
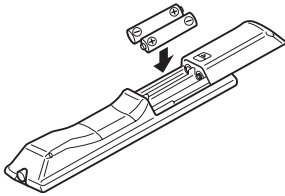
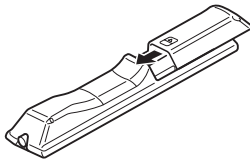
② ▶ボタン
テープの表面を再生します。

③ ◀ボタン
テープの裏面を再生します。

④ ◀◀/▶▶ボタン
巻き戻し、早送りをします。

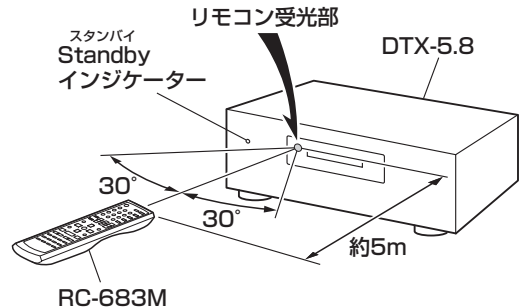
⑤ ■ボタン
再生を停止します。

乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向にずらして開ける

2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と−（マイナス）を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単3形をご使用ください。

リモコンの使いかた

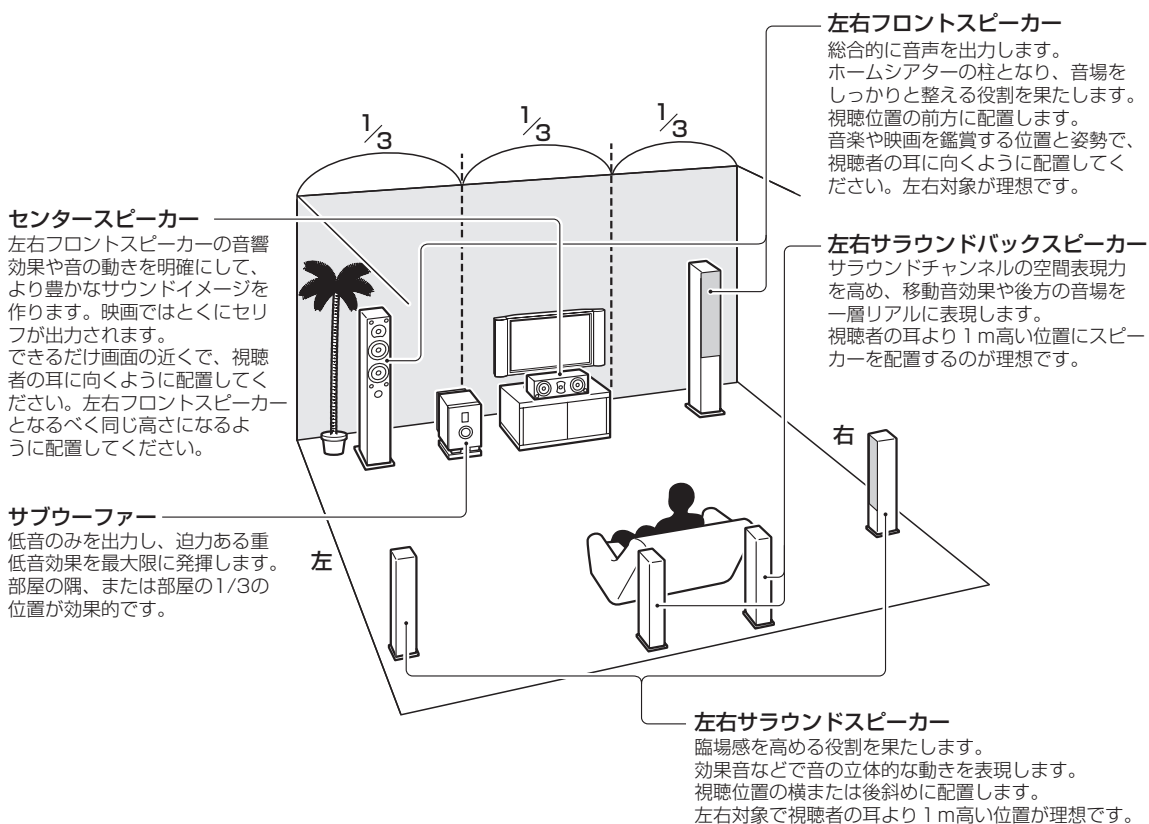
リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機のStandby（スタンバイ）インジケーターが点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていたり、装飾フィルムを貼っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

ホームシアターとは

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
再生する信号によって、DTSやドルビーデジタル再生、オンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。

スピーカーの使いかた
2つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。(2チャンネル再生)
3つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。(3チャンネルサラウンド)
4つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(4チャンネルサラウンド)
5つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(5チャンネルサラウンド)
6つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。(6チャンネルサラウンド)
7つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーとして使用します。(7チャンネルサラウンド)
サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。(○.1チャンネル再生)

- 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の測定用マイクを使って自動スピーカー設定を行ってください。(☞39ページ)

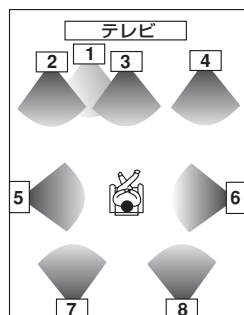
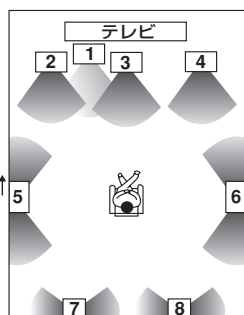
接続をする

スピーカーを接続する

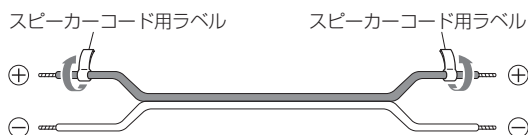
サラウンドバックスピーカーの配置について

サラウンドバックスピーカーは、Dolby（ドルビー） EX、Dolby（ドルビー） Pro（プロ） Logic（ロジック） IIx、DTS-ES Matrix（マトリックス）、DTS-ES Discrete（ディスクリート）などのリスニングモードを楽しむときに必要です。
設置例1は、一般的なスピーカーを設置した場合です。
設置例2は、ダイポール型スピーカーを設置した場合です。
ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、2つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。
ダイポール型スピーカーでは位相*を合わせるため、多くはスピーカーに矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

*位相　：正弦波の1周期（0〜360度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、＋、－の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聞きづらさがあったりします。

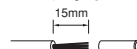
設置例1　**設置例2**

1 サブウーファー
2 左フロントスピーカー
3 センタースピーカー
4 右フロントスピーカー
5 左サラウンドスピーカー
6 右サラウンドスピーカー
7 左サラウンドバックスピーカー
8 右サラウンドバックスピーカー

スピーカーコード用ラベルの使いかた

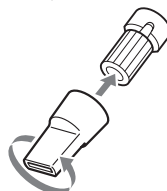
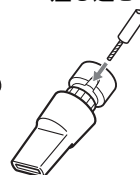
本機はスピーカー端子の⊕側を色分けして識別しやすくしています。付属のスピーカーコード用ラベルをお持ちのスピーカーコード両端のプラス⊕に貼ると識別が簡単になります。スピーカー端子は以下のように色分けしています。

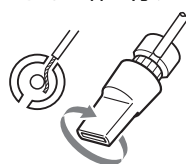
スピーカーコード用ラベル　スピーカーコード用ラベル

左フロント	：**白**	左フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に白いラベルを貼る
右フロント	：**赤**	右フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に赤いラベルを貼る
センター	：**緑**	センタースピーカーのコード両端（⊕側）に緑のラベルを貼る
左サラウンド	：**青**	左サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に青いラベルを貼る
右サラウンド	：**灰**	右サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に灰色のラベルを貼る
左サラウンドバック	：**茶**	左サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）に茶色のラベルを貼る
右サラウンドバック	：**ベージュ**	右サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）にベージュのラベルを貼る

スピーカーコードの接続

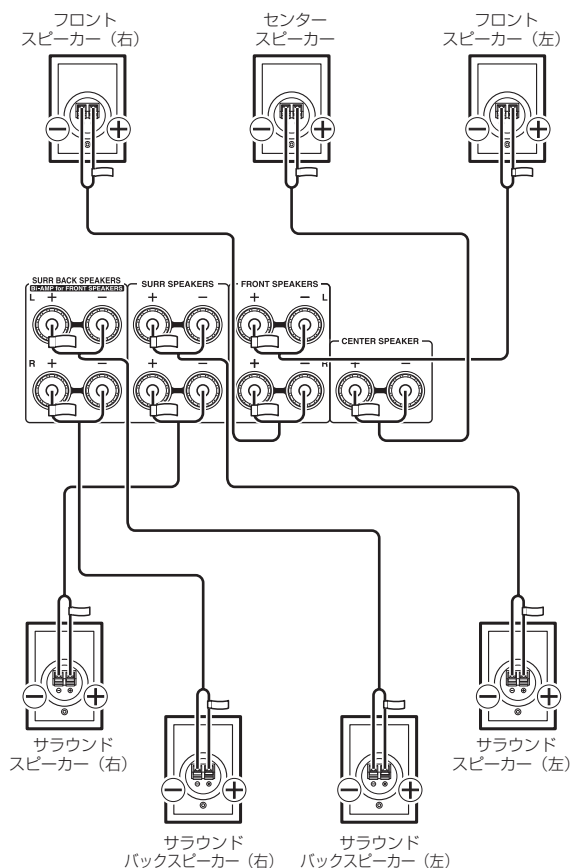
本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子にラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。本機のスピーカー端子のマイナスとスピーカーのマイナス端子とをラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

① スピーカーコードの被覆を15mmカットする

② 芯線の先端をしっかりとよじる

③ 付属のターミナルレンチを使って、ねじをゆるめる

④ 芯線を差し込む

⑤ 付属のターミナルレンチを使って、ねじを締め付ける

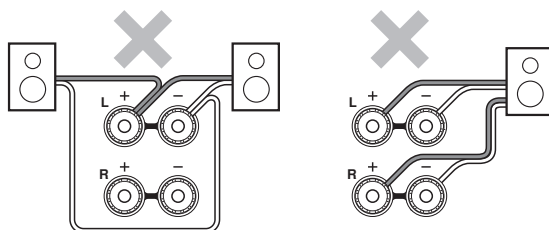
ご注意

芯線はしっかりとよじり、後面パネルなどの金属に接触しないようにしてください。

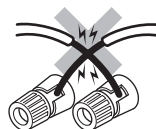
接続をする

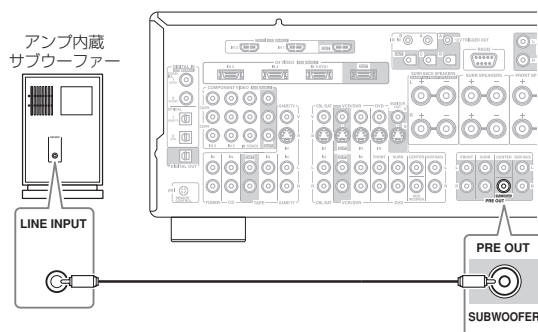
スピーカーの配置については「ホームシアターとは」（☞16ページ）および「サラウンドバックスピーカーの配置について」（☞17ページ）をご覧ください。
本機にはインピーダンスが4Ω～16Ωのスピーカーを接続してください。ただし、インピーダンスが4Ω以上6Ω未満のスピーカーを1台でも接続するときは、49ページで「スピーカーインピーダンス」を4Ωに設定してください。

サラウンドバックスピーカーを１つだけ使用する場合は、SURR BACK SPEAKERS（L）端子に接続してください。

5.1chの場合は、FRONT SPEAKERS（L/R）、CENTER SPEAKER、SURR SPEAKER（L/R）端子に接続してください。

ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- １台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、１台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。

サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーをSUBWOOFER PRE OUT端子に接続します。

！ヒント

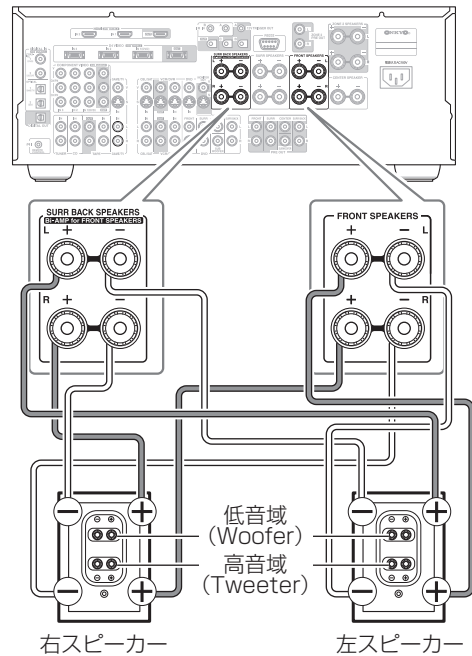
- 再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または1/3の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。
- サブウーファー側で設定ができる場合、音量を上げてください。また、カットオフフィルター切換スイッチは「DIRECT」にしてください。カットオフフィルタースイッチがなく、カットオフ周波数調整ツマミがある場合は、周波数を最大にしてください。

バイアンプ接続をする

FRONT SPEAKERS（L/R）端子とSURR BACK SPEAKERS（L/R）端子は、フロントスピーカーとサラウンドバックスピーカーそれぞれに接続したり、高音用と低音用の2組の入力端子のあるバイアンプ接続対応のスピーカーに接続して使用することができます。

- バイアンプ接続では、FRONT SPEAKERS（L/R）端子へフロントスピーカーの高音用端子を接続します。また、SURR BACK SPEAKERS（L/R）端子へフロントスピーカーの低音用端子を接続します。
- 以下手順でバイアンプ接続をしたあとに、スピーカータイプの設定を「Bi-Amp」にする必要があります（☞49ページ)。

ご注意

- バイアンプ接続をする場合は、高音用端子と低音用端子をつないでいるショート金具を必ず取り外してください。

バイアンプスピーカーを接続する

1 本機のFRONT SPEAKERS（R）のプラス（+）端子と、右スピーカーの高音域用プラス（+）端子を接続してください。また、本機のFRONT SPEAKERS（R）のマイナス（−）端子と、右スピーカーの高音域用マイナス（−）端子を接続してください。

2 本機のSURR BACK SPEAKERS（R）のプラス（+）端子と、右スピーカーの低音域用プラス（+）端子を接続してください。また、本機のSURR BACK SPEAKERS（R）のマイナス（−）端子と、右スピーカーの低音域用マイナス（−）端子を接続してください。

3 本機のFRONT SPEAKERS（L）のプラス（+）端子と、左スピーカーの高音域用プラス（+）端子を接続してください。また、本機のFRONT SPEAKERS（L）のマイナス（−）端子と、左スピーカーの高音域用マイナス（−）端子を接続してください。

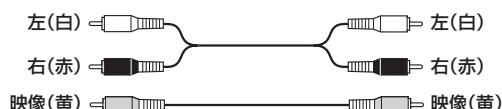
4 本機のSURR BACK SPEAKERS（L）のプラス（+）端子と、左スピーカーの低音域用プラス（+）端子を接続してください。また、本機のSURR BACK SPEAKERS（L）のマイナス（−）端子と、左スピーカーの低音域用マイナス（−）端子を接続してください。

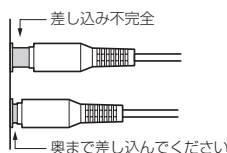
接続をする

接続の前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（Rの表示）、白いコネクターを左チャンネル（Lの表示）、黄色のコネクターをビデオチャンネル（Vの表示）に接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。

- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

光デジタル入力端子/出力端子について

本機の光デジタル端子はすべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

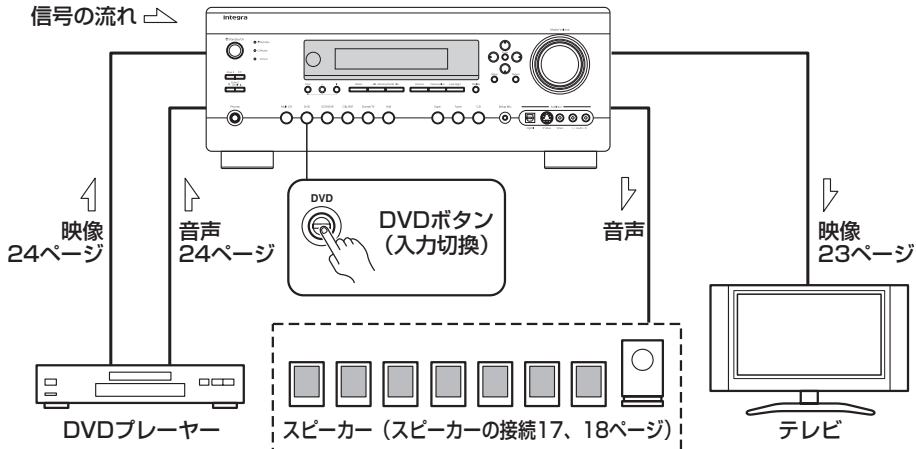
光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。
ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

映像/音声ケーブルと端子の種類について

	ケーブルと端子の種類			
	ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
映像	コンポーネントビデオコード		Y / CB/PB / CR/PR	画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
映像	D端子用接続コード		D4	画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
映像	Sビデオコード		S VIDEO	コンポジットの映像より良い画質が得られます。本機では映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
映像	ビデオコード（コンポジット）		VIDEO	標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。
音声	光デジタルケーブル（OPTICAL（オプティカル））		OPTICAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はCOAXIALと同レベルです。
音声	同軸デジタルケーブル（COAXIAL（コアキシャル））		COAXIAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はOPTICALと同レベルです。
音声	オーディオ用ピンコード		L / R	アナログ音声を伝送します。
音声	オーディオ用ピンコード	×4	FRONT / SURROUND / CENTER / SURR BACK / SUB WOOFER	DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーなどとの接続に使用します。 アナログマルチチャンネル音声を伝送します。
映像と音声	HDMIケーブル			映像と音声をデジタル伝送します。 本機はHDMI Version 1.3a規格に準拠しています。

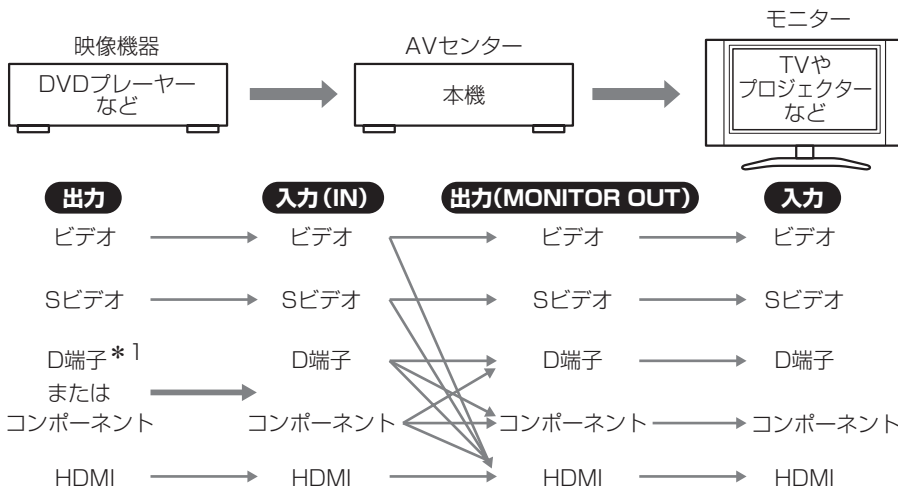
AVセンターを使う

DVDプレーヤーなど、映像機器は映像接続と音声接続を行ってください。本機の入力を切り換えるだけでその機器の映像と音声を選ぶことができます。

例：DVDプレーヤーと組み合わせる場合

映像接続のしくみ

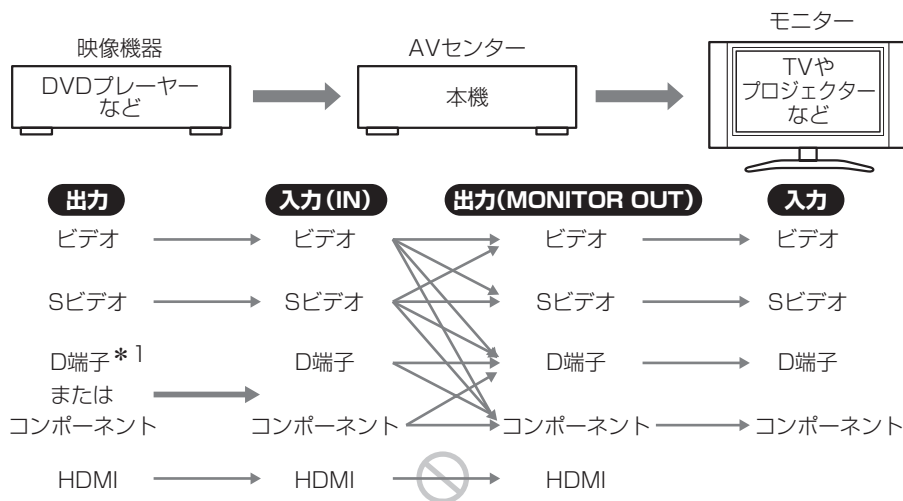
本機には5種類（ビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネント、HDMI）の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使用してください。
HDMIモニターの設定により、映像信号をアップコンバージョン（ビデオ、Sビデオ信号をD映像、コンポーネント映像出力端子に出力、ビデオ、Sビデオ、D映像、コンポーネント映像信号をHDMI出力端子に出力など）、ダウンコンバージョン（Sビデオ信号をビデオ出力端子に出力など）で出力することができます。

■HDMIモニターの設定が「Yes」の場合

HDMIモニターの設定を「Yes」にすると（☞45ページ）、映像信号の流れは以下のようになります。

＊1 映像機器の映像出力からモニターの映像入力までD端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送ることができます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

- D4 VIDEO（ビデオ） IN（イン）端子とCOMPONENT（コンポーネント） VIDEO IN端子は内部で並列になるように設計されています。1つの系統に両方を接続しないでください。たとえば、D4 VIDEO 1 IN端子に映像機器を接続した場合は、COMPONENT VIDEO 1 IN端子には何も接続しないでください。

■HDMIモニターの設定が「No」の場合

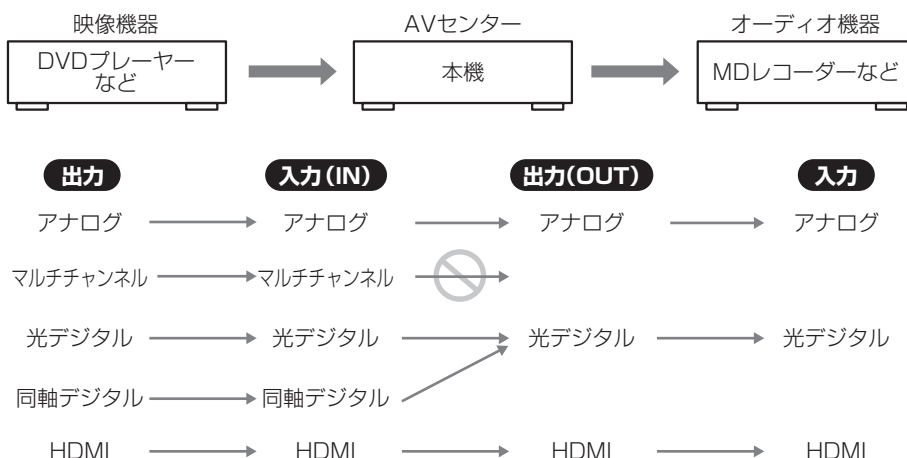
HDMIモニターの設定を「No」にすると（☞45ページ）、映像信号の流れは以下のようになります。

＊1 映像機器の映像出力からモニターの映像入力までD端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

- D4 VIDEO（ビデオ） IN（イン）端子とCOMPONENT（コンポーネント） VIDEO IN端子は内部で並列になるように設計されていますので、1つの系統に両方を接続しないでください。たとえば、D4 VIDEO 1 IN端子に映像機器を接続した場合は、COMPONENT VIDEO 1 IN端子には何も接続しないでください。

ご注意

本機の設定によっては、アップコンバージョンやダウンコンバージョンが働かない場合があります。（☞47、75ページ）

音声接続のしくみ

本機には5種類（アナログ、マルチチャンネル、光デジタル、同軸デジタル、HDMI）の音声入力端子と3種類（アナログ、光デジタル、HDMI）の音声出力端子があります。接続する機器に合わせて使用してください。

- 同軸デジタルから入力した音声は、光デジタルから出力されます。
- 音声フォーマットを変換して出力することはできません。光デジタルや同軸デジタルから入力した音声を、TAPE OUTから出力することはできません。デジタル音声はデジタル音声、アナログ音声はアナログ音声で出力されます。

テレビやプロジェクターと接続する

ステップ1：映像接続をする

A、**B**、**C** の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと映像接続をしてください。

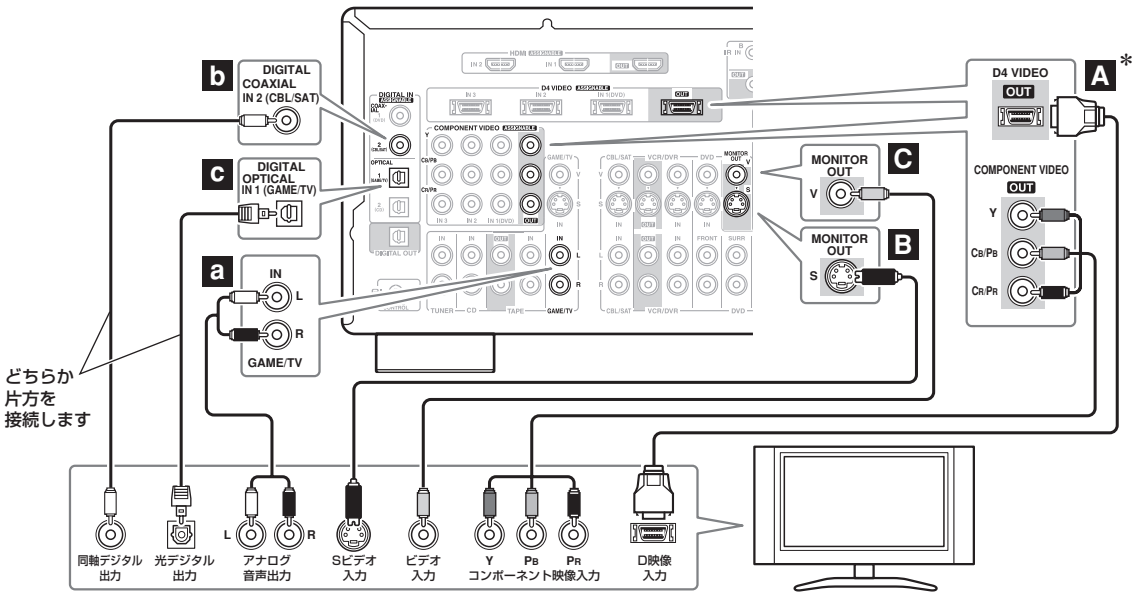
！ヒント　21～22ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ2：音声接続をする

a、**b**、**c** の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- テレビの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RIオーディオコントロール端子付テレビと連動させるときに必要です。（☞37ページ）

地上デジタルやBSデジタルのサラウンド放送を楽しみたいときは **b** または **c** の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	テレビ/プロジェクター	画質
A	D4 VIDEO OUT端子 または COMPONENT VIDEO OUT端子	➡	D映像入力端子 または コンポーネント映像入力端子	最良
B	MONITOR OUT S端子	➡	Sビデオ入力端子	良い
C	MONITOR OUT V端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子	標準
a	GAME/TV IN L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL COAXIAL IN2（CBL/SAT）端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL OPTICAL IN1（GAME/TV）端子	⬅	光デジタル出力端子	

！ヒント

テレビに音声出力端子がないときは、ビデオデッキの音声出力端子と本機のVCR/DVR IN L/R端子を接続してください。ビデオデッキに内蔵されているチューナーからテレビの音声をお楽しみいただけます。

＊ D4 VIDEO OUT端子とCOMPONENT VIDEO OUT端子はどちらか片方のみ接続してください。（☞21～22ページ）

DVDプレーヤーと接続する

ステップ1：映像接続をする

A、**B**、**C** の接続から１つ選んでDVDプレーヤーと映像接続をしてください。

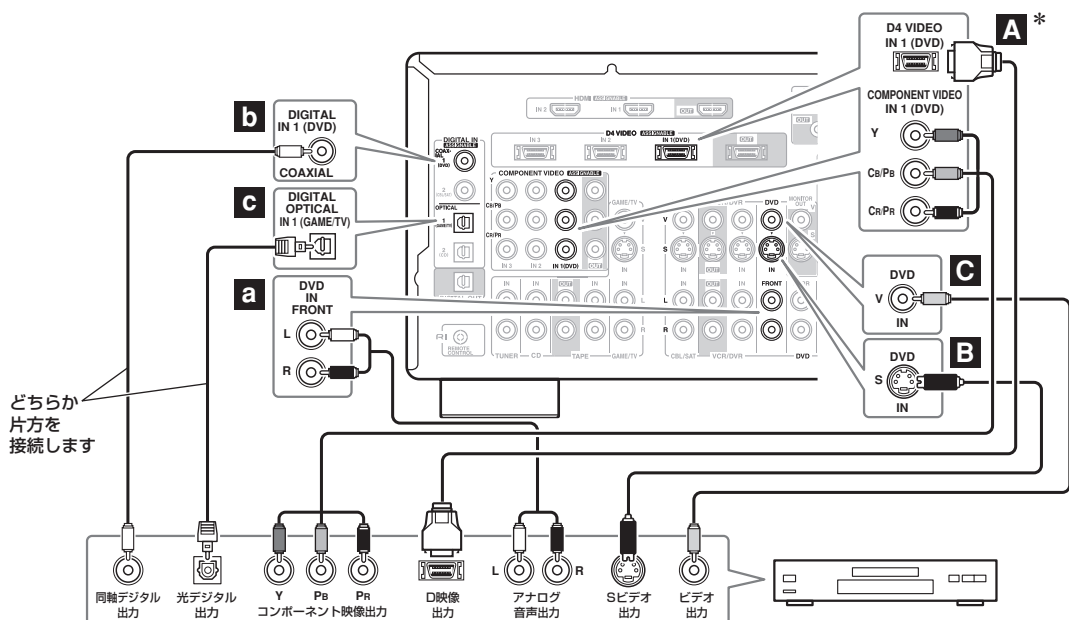
！ヒント　21～22ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ2：音声接続をする

a、**b**、**c** の接続から必要な接続を選んでDVDプレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- DVDの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI端子付インテグラ/オンキヨー製DVDプレーヤーと連動させるときに必要です。（☞36ページ）

ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しみたいときは **b** または **c** の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	DVDプレーヤー	画質
A	D4 VIDEO IN1（DVD）端子 または COMPONENT VIDEO IN1（DVD） 端子	←	D映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	DVD IN S端子	←	Sビデオ出力端子	良い
C	DVD IN V端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	DVD IN FRONT L/R端子	←	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL COAXIAL IN1（DVD）端子	←	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL OPTICAL IN1（GAME/TV）端子	←	光デジタル出力端子	

！ヒント　DVDプレーヤーにマルチチャンネルと2チャンネルの両方の出力端子がある場合で、本機のDVD IN FRONT L/R端子だけを接続するときは、DVDプレーヤーの2チャンネル出力端子と接続してください。マルチチャンネル接続は次ページをご覧ください。

＊D4 VIDEO IN1（DVD）端子とCOMPONENT VIDEO IN1（DVD）端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください。（☞21～22ページ）

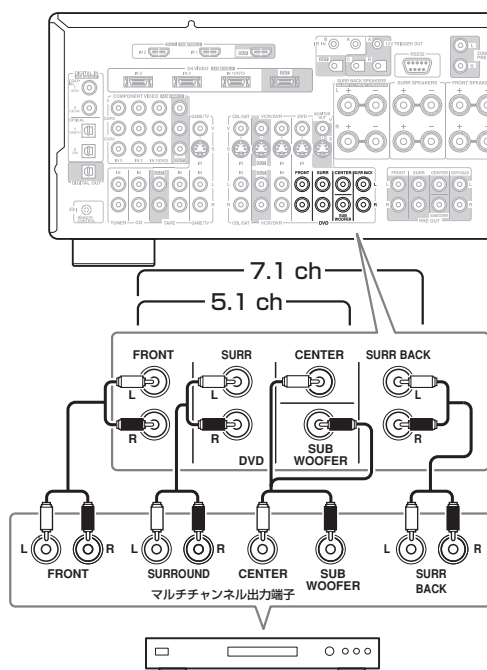
■マルチチャンネル（5.1/7.1ch）出力端子があるDVDプレーヤーと接続する

DVDオーディオなどのマルチチャンネル音声に対応している機器の場合、DVDオーディオなどの再生がお楽しみいただけます。

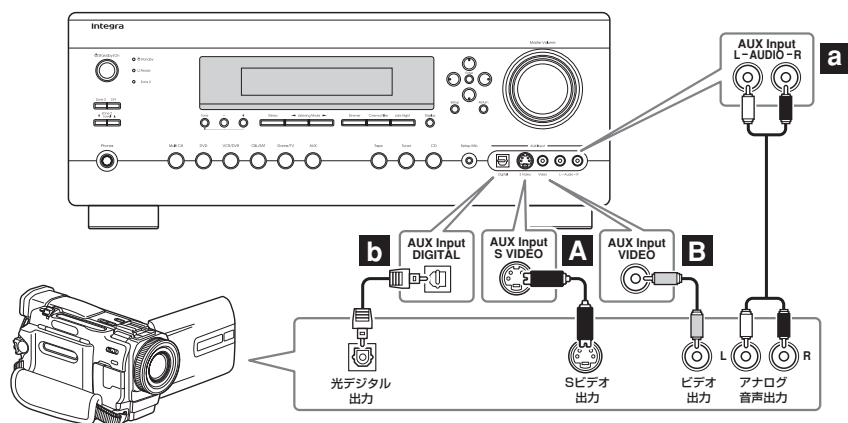
5.1チャンネル接続

5.1チャンネル接続するときは、マルチチャンネル接続コードまたは、オーディオ用ピンコードを使ってDVDプレーヤーのマルチチャンネル出力端子と本機のDVD IN FRONT L/R、SURR L/R、CENTER、SUBWOOFER端子を接続します。

7.1チャンネル接続

7.1チャンネル接続するときは、5.1チャンネル接続に加え、オーディオ用ピンコードを使ってSURR BACK L/R端子を接続してください。

ビデオカメラと接続する

ステップ1：A または B の映像接続をしてください。

ステップ2：a または b の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオカメラ	画質
A	AUX INPUT S VIDEO端子	←	Sビデオ出力端子	良い
B	AUX INPUT VIDEO端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	AUX INPUT AUDIO L/R端子	←	アナログ音声出力端子	
b	AUX INPUT DIGITAL端子	←	光デジタル出力端子	

接続をする（映像機器を接続する）

ビデオデッキやDVDレコーダーと接続する（再生編）

ステップ1：映像接続をする

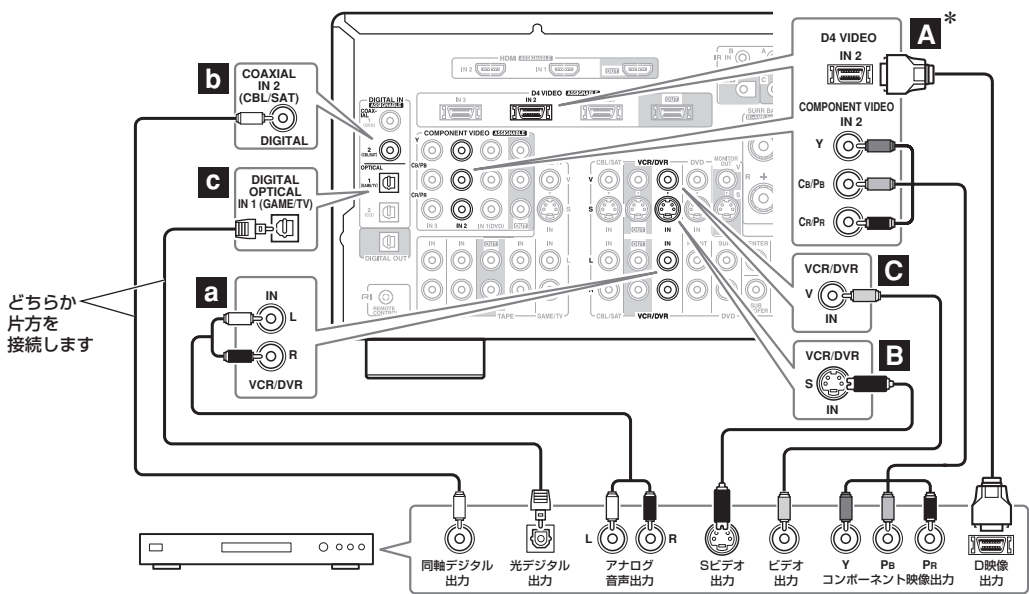
A、**B**、**C** の接続から1つ選んでビデオデッキやDVDレコーダーと映像接続をしてください。

！ヒント　21〜22ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ2：音声接続をする

a、**b**、**c** の接続から必要な接続を選んでビデオデッキやDVDレコーダーと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。

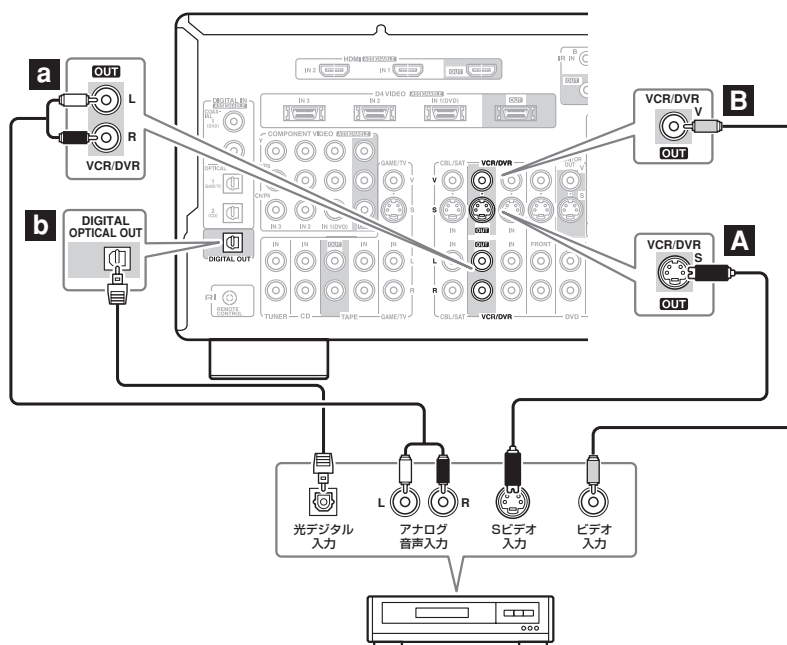
ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しみたいときは **b** または **c** の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ/DVDレコーダー	画質
A	D4 VIDEO IN2端子 または COMPONENT VIDEO IN2端子	⬅	D映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	VCR/DVR IN S端子	⬅	Sビデオ出力端子	良い
C	VCR/DVR IN V端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	VCR/DVR IN L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL COAXIAL IN2（CBL/SAT）端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL OPTICAL IN 1（GAME/TV）端子	⬅	光デジタル出力端子	

＊D4 VIDEO IN2端子とCOMPONENT VIDEO IN2端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください。（☞21〜22ページ）

ビデオデッキやDVDレコーダーと接続する（録画編：本機を通して録画する）

ステップ1： ビデオデッキやDVDレコーダーと **A** または **B** の映像接続をしてください。

！ヒント 21～22ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ2： アナログ録音する場合は **a**、デジタル録音する場合は **b** の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ/DVDレコーダー	画質
A	VCR/DVR OUT S端子	➡	Sビデオ入力端子	良い
B	VCR/DVR OUT V端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子	標準
a	VCR/DVR OUT L/R端子	➡	アナログ音声入力端子	
b	DIGITAL OPTICAL OUT端子	➡	光デジタル入力端子	

ご注意

- 録画をするときは、本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態では録画できません。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力のみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- ビデオ端子に入力される信号は、ビデオ端子でしか録画できません。テレビなどの再生機器をビデオ端子接続した場合は、ビデオデッキなどの録画機器もビデオ端子接続をしてください。また、S端子に入力される信号はS端子でしか録画できません。テレビなどの再生機器をS端子接続した場合は、ビデオデッキなどの録画機器もS端子接続をしてください。

接続をする（映像機器を接続する）

衛星放送/ケーブルテレビチューナー、LDプレーヤーなどと接続する

ステップ1：映像接続をする

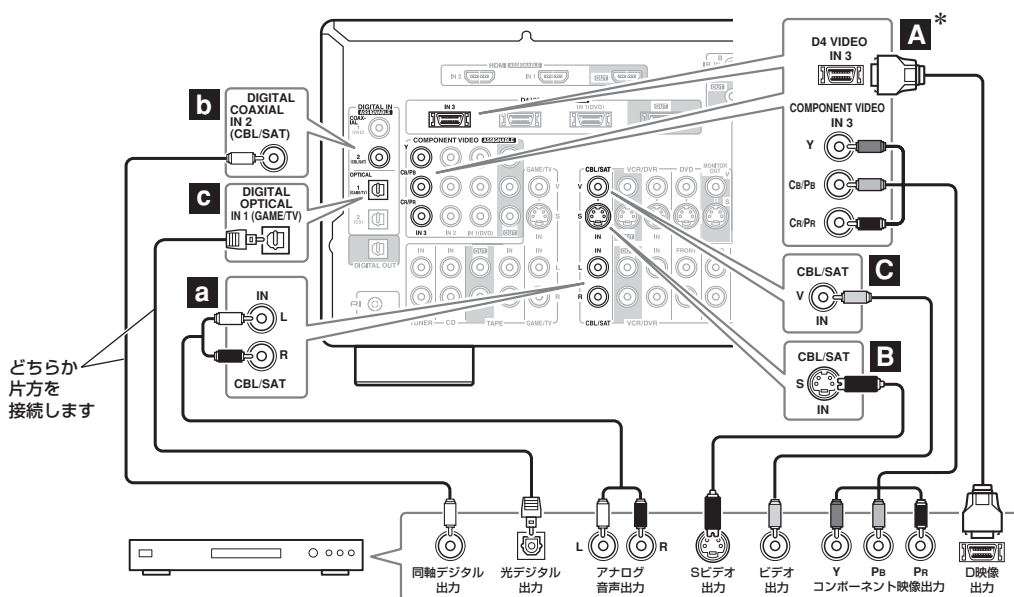
A、B、C の接続から１つ選んで衛星放送/ケーブルテレビチューナー、LDプレーヤーなどと映像接続をしてください。

！ヒント 21～22ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで衛星放送/ケーブルテレビチューナー、LDプレーヤーなどと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。

AACやドルビーデジタル、DTSなどのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	衛星放送/ケーブルテレビチューナー、LDプレーヤー	画質
A	D4 VIDEO IN3端子 または COMPONENT VIDEO IN3端子	⬅	D映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	CBL/SAT IN S端子	⬅	Sビデオ出力端子	良い
C	CBL/SAT IN V端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	CBL/SAT IN L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL COAXIAL IN2（CBL/SAT）端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL OPTICAL IN1（GAME/TV）端子	⬅	光デジタル出力端子	

ご注意 本機にLDプレーヤーのAC-3RF出力端子は直接接続できません。LDプレーヤーでドルビーデジタル5.1chソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。

＊D4 VIDEO IN3端子とCOMPONENT VIDEO IN3端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください。（☞21～22ページ）

ゲーム機と接続する

ステップ1：映像接続をする

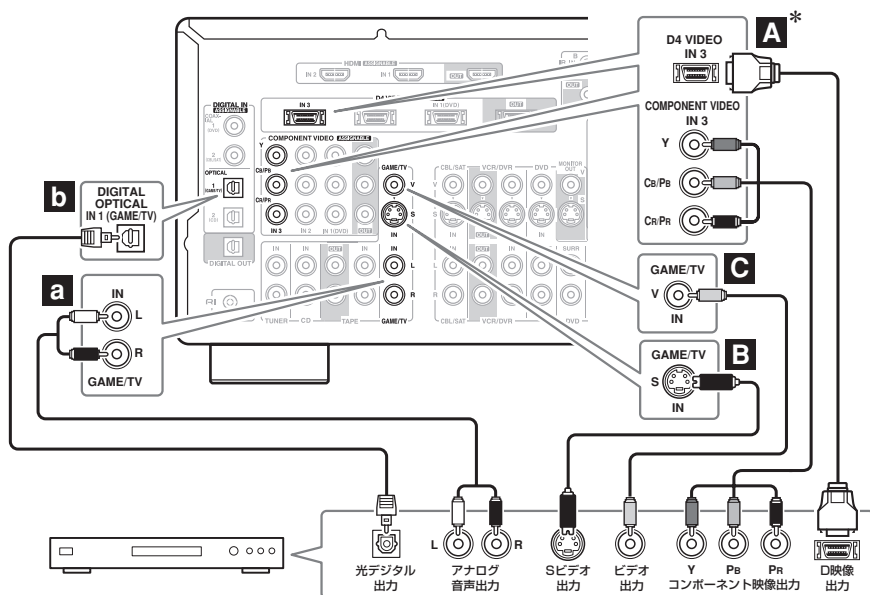
A、B、C の接続から１つ選んでゲーム機と映像接続をしてください。

！ヒント　21～22ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ2：音声接続をする

a、b の接続から必要な接続を選んでゲーム機と音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。

AACやドルビーデジタル、DTSなどのリスニングモードを楽しみたいときは b の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ゲーム機	画質
A	D4 VIDEO IN3端子 または COMPONENT VIDEO IN3端子	⬅	D映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	GAME/TV IN S端子	⬅	Sビデオ出力端子	良い
C	GAME/TV IN V端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	GAME/TV IN L/R端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL OPTICAL IN1（GAME/TV）端子	⬅	光デジタル出力端子	

＊D4 VIDEO IN3端子とCOMPONENT VIDEO IN3端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください。(☞21～22ページ)

HDMI端子を使って接続する

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）とは

放送のデジタル化などの変化に対応して、家庭内でテレビ/プロジェクター間をデジタル接続することを目的として策定されたインターフェース規格です。
従来のDVI（Digital Visual Interface）[*1]規格をさらに発展させて、オーディオ信号およびコントロール信号を伝送する機能を追加しています。従来は機器間の接続に、ビデオ、オーディオ、コントロールの各信号用に複数のケーブルを使用していましたが、HDMIケーブルを1本接続するだけで、HDMI端子対応の機器間で映像や音声をデジタルで伝送することができます。

HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVIと原理的に互換性があります。DVI端子を装備したテレビ/モニターなどに接続するにはHDMI→DVI変換ケーブルを用いて可能ですが、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。本機はHDCPを使用しており、対応の受像機でのみ映像が出ます。

本機のHDMIインターフェースは、以下の規格に基づいています。
High-Definition Multimedia Interface Specification Informational Version 1.3a

対応音声フォーマット
- 2チャンネルリニアPCM（32～192kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニアPCM（最大7.1ch、32～192kHz、16/20/24bit）
- ビットストリーム（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHD、DTS、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ、DTS-HD マスターオーディオ、AAC）

ただし、プレーヤー側も上記の音声フォーマットのHDMI出力に対応している必要があります。

著作権保護について

本機はHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）[*2]に対応しています。HDCPとは、デジタル映像信号に対する著作権保護技術です。
本機と接続する機器もHDCPに対応していることが必要です。

本機のHDMI OUT端子とテレビ/プロジェクターなどのHDMI入力端子を接続します。接続には、市販のHDMIケーブルをご使用ください。

*1 DVI（Digital Visual Interface）：DDWG[*3]が、1999年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。

*2 HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）：Intelが開発したHDMI/DVI用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP準拠のHDMI/DVIレシーバーが必要になる。

*3 DDWG（Digital Display Working Group）：Intel、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packardなどが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

接続のしかた

HDMI接続では、HDMIケーブルで映像信号と音声信号を伝送することができます。

ステップ1： HDMIケーブルを使って本機のHDMI端子とDVDプレーヤー、テレビまたはプロジェクターなどのHDMI端子と接続してください。

ステップ2： 接続したHDMI IN端子を46ページの「HDMI入力端子の設定」で割り当ててください。

■映像信号の流れ

HDMI IN端子から入力したデジタル映像は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。また、本機の設定により、VIDEO、S VIDEO、D4 VIDEO、COMPONENT VIDEO端子から入力した映像信号を、HDMI OUT端子から出力することができます。（☞45ページ）

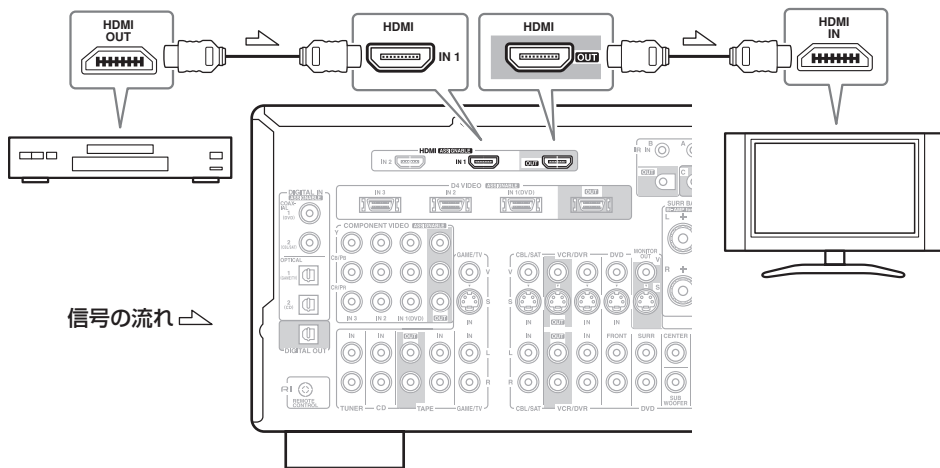
■音声信号の流れ

HDMI IN 端子から入力したデジタル音声は、本機に接続されたスピーカーやヘッドホンへ出力されます。

ご注意

HDMI機器の音声を本機で聞く場合は、テレビにHDMI機器の映像が映る状態にしておいてください（本機が接続されているHDMI入力をテレビ側で選んでください）。
テレビの電源をオフにしていたり、テレビ側で他の入力を選んでいる状態では、 本機から音声が出なかったり、途切れるなど正常に音が出ないことがあります。

！ヒント

HDMI IN端子から入力した音声信号を、HDMI OUT端子から出力してテレビなどのスピーカーで聞きたい場合は、77～78ページで「HDMI Audio Out」設定を「On」にしてください。また、DVDプレーヤーなどの設定で、HDMIに出力する設定を2チャンネルPCMになるように設定してください。

CDプレーヤーやレコードプレーヤーと接続する

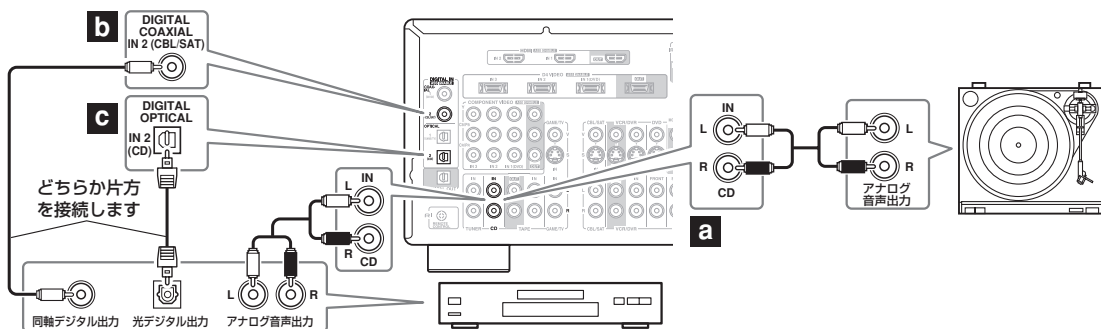
■CDプレーヤーやフォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーを接続するとき

ステップ1：音声接続をする

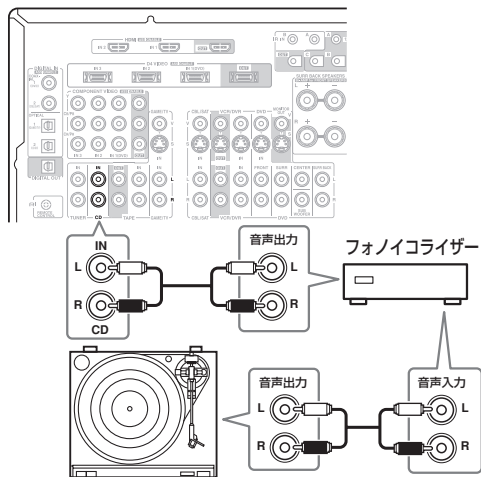
a、b、c の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

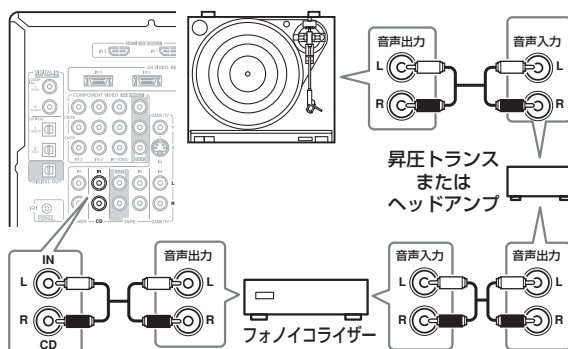
基本的な接続 a

- CDの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI端子付インテグラ/オンキヨー製CDプレーヤーと連動させるときに必要です。（☞36ページ）

CDのPCMやDTS信号のリスニングモードを楽しみたいときは、 b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	CDプレーヤー/レコードプレーヤー
a	CD IN L/R端子	←	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN2（CBL/SAT）端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN2（CD）端子	←	光デジタル出力端子

■レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵でない場合

オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーとフォノイコライザーの音声入力端子を接続し、フォノイコライザーと空いているL/R IN端子を接続します。

■MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーの場合

オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーと昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続し、それにフォノイコライザーを接続します。
フォノイコライザーを本機の空いているL/R IN端子に接続します。

詳しい説明は、レコードプレーヤーやフォノイコライザーの取扱説明書をご覧ください

カセットデッキ、MDレコーダー、CDレコーダーと接続する

ステップ1：音声接続をする

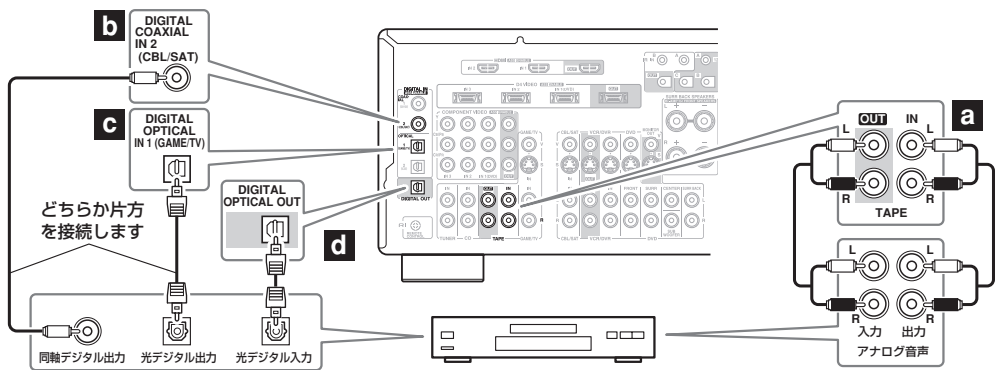
a、**b**、**c**、**d** の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- アナログ録音することができます。
- デジタル入力された信号は、アナログ出力されません。
- RI端子付インテグラ/オンキヨー製品と連動させるときに必要です。（☞36ページ）

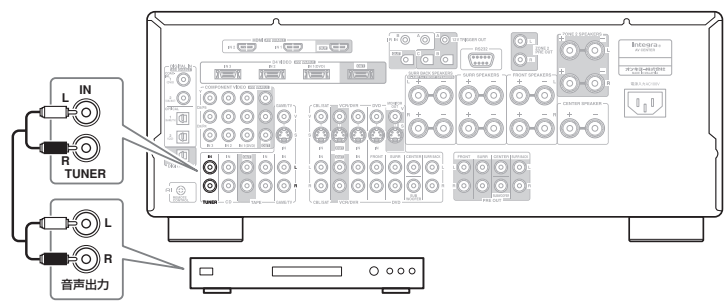
CDのPCMやDTS信号のリスニングモードを楽しみたいときは、**b** または **c** の接続をしてください。

デジタル録音するときは、**d** の接続をしてください。

- アナログ入力された信号は、デジタル出力されません。

接続	本機	信号の流れ	録音機器
a	TAPE IN L/R端子 TAPE OUT L/R端子	← →	アナログ音声出力端子 アナログ音声入力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN2（CBL/SAT）端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN1（GAME/TV）端子	←	光デジタル出力端子
d	DIGITAL OPTICAL OUT端子	→	光デジタル入力端子

チューナーを接続する

ステップ1：音声接続をする

オーディオ用ピンコードでチューナーの音声出力端子と本機のTUNER IN L/R端子を接続します。

リモートインタラクティブドック（RIドック）と接続する

映像と音声に対応する機器を、RIドックにセットする場合

ステップ1：映像接続をする
ビデオコードまたはSビデオコードで、RIドックの映像出力端子と本機のGAME/TV（ゲーム/テレビ） IN VまたはS端子を接続します。

ステップ2：音声接続をする
オーディオ用ピンコードで、RIドックの音声出力端子と本機のGAME/TV（ゲーム/テレビ） IN L/R端子を接続します。

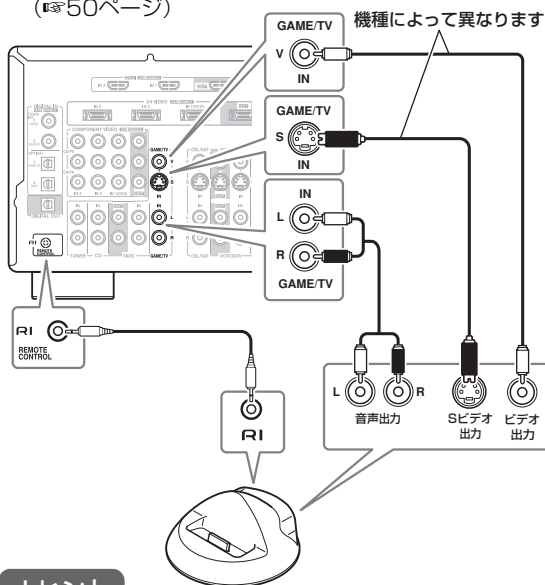
ステップ3：RI接続をする
RI*ケーブルで、RIドックのRI端子と本機のRI端子を接続します。

- RIドックのMODEスイッチは、「HDD」または「DOCK」にしてください。
- 本機の入力表示を「DOCK」に切り換えてください。（☞50ページ）

音声のみに対応する機器を、RIドックにセットする場合

ステップ1：音声接続をする
オーディオ用ピンコードで、RIドックの音声出力端子と本機のTAPE（テープ） IN L/R端子を接続します。

ステップ2：RI接続をする
RI*ケーブルで、RIドックのRI端子と本機のRI端子を接続します。

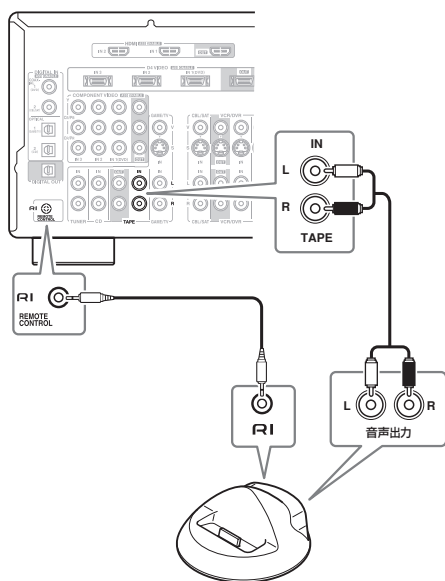
- RIドックのMODEスイッチは、「HDD」または「DOCK」にしてください。
- 本機の入力表示を「DOCK」に切り換えてください。（☞50ページ）

！ヒント

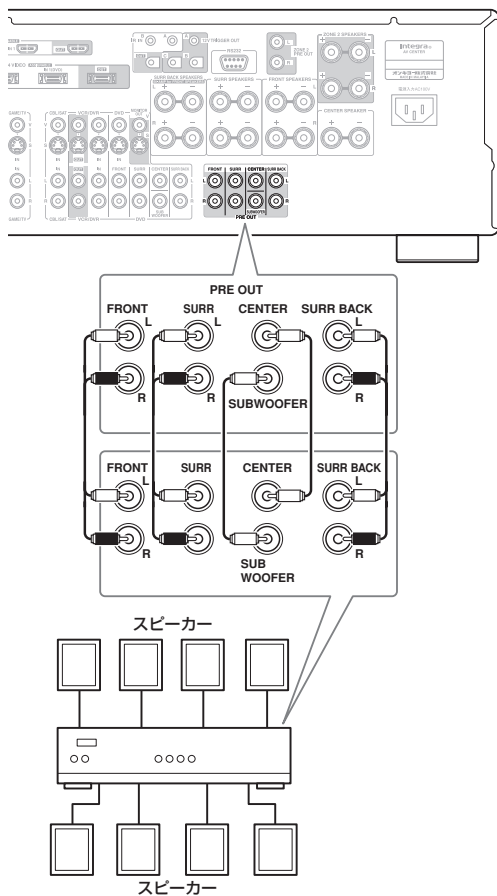
オンキヨー製RIドックと本機をRI接続をすると、以下の機能が使えます。

ダイレクトチェンジ機能
オンキヨー製RIドックの再生をすると、本機の入力が自動的に「DOCK」に切り換わります。

リモコン操作機能
本機に付属のリモコンでRIドックを操作できます。

ご注意

- 機種によって外観や端子が異なります。
- 本機にはRIケーブルは付属していません。RIドックに付属のケーブルをお使いください。
- RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。
- 本機のリモコンでRIドックを操作するには、リモコンコードを登録する必要があります。（☞90～91ページ）

パワーアンプを接続する

パワーアンプを本機に接続し、本機をプリアンプとして使用することができます。本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。
パワーアンプを使用する場合、各スピーカーやサブウーファーはパワーアンプに接続してください。パワーアンプの音声入力端子と本機のPRE OUT端子を接続します。

インテグラ/オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのインテグラ/オンキヨー製品にRIケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。（本機には付属していません）
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。24、32、33ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

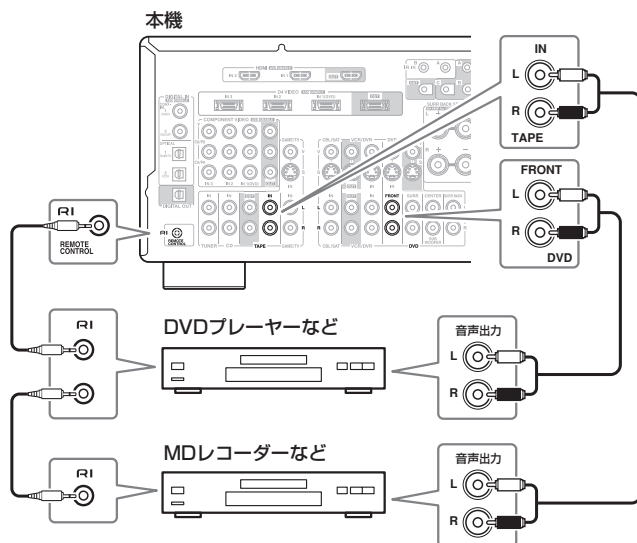
ステップ1：RIケーブルを接続する

本機と、本機に接続したインテグラ/オンキヨー製品のRI端子を、RIケーブルで正しく接続します。

ステップ2：ピンコードを接続する

本機と、本機に接続したインテグラ/オンキヨー製品の音声端子をオーディオ用ピンコードで正しく接続します。

ステップ3：入力表示を切り換える

MDレコーダーやCDレコーダー、RIドックを本機に接続した場合は、入力表示を「MD」「CDR」「DOCK」に切り換えください。（☞50ページ）

オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。

ダイレクトチェンジ機能

RI接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。
DVDプレーヤーのマルチチャンネル再生をする場合は、Multi CH（マルチ チャンネル）ボタンを押す必要があります。（☞61ページ）

リモコン操作機能

本機に付属のリモコンを本機のリモコン受光部に向けて、RI接続した機器を操作することができます。（☞90ページ）
DVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダー、RIドックは、RI専用リモコンコードを登録してください。（☞90ページ）

ご注意

- 製品によってはRI接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- チューナーのタイマー機能や、録音機器のCDダビング機能は働きません。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。
- 新旧製品の連動動作の対応/非対応については、コールセンターにお問い合わせください。

RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

HDMI Control機能を使う場合は、RI端子を使ったテレビとの連動機能は使用できません（☞77〜78ページ）。
本ページで説明するRI接続はしないでください。

本機はRI端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。

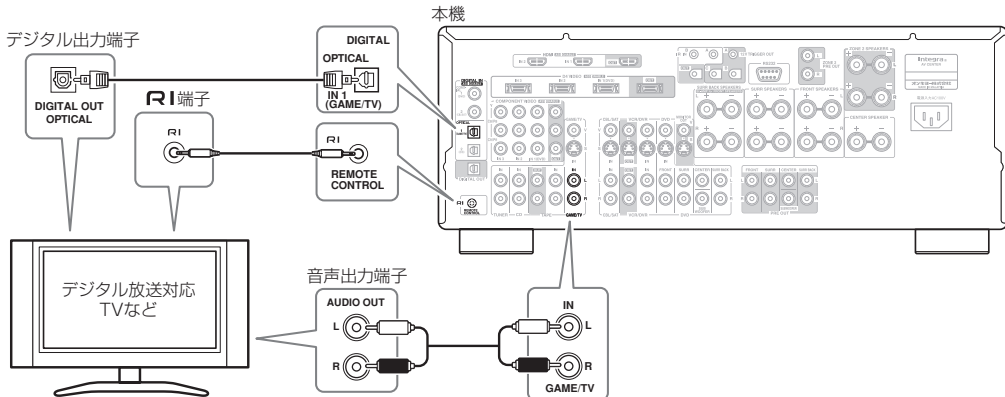
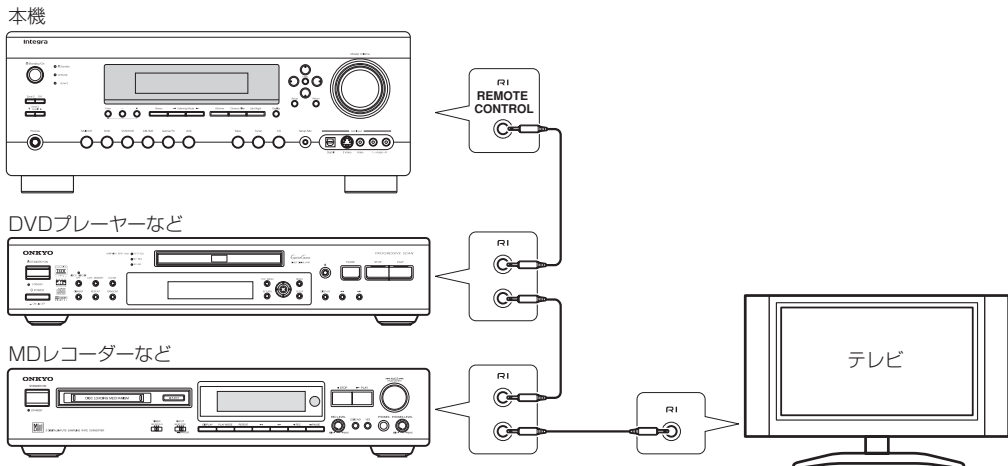
① テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
　このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。

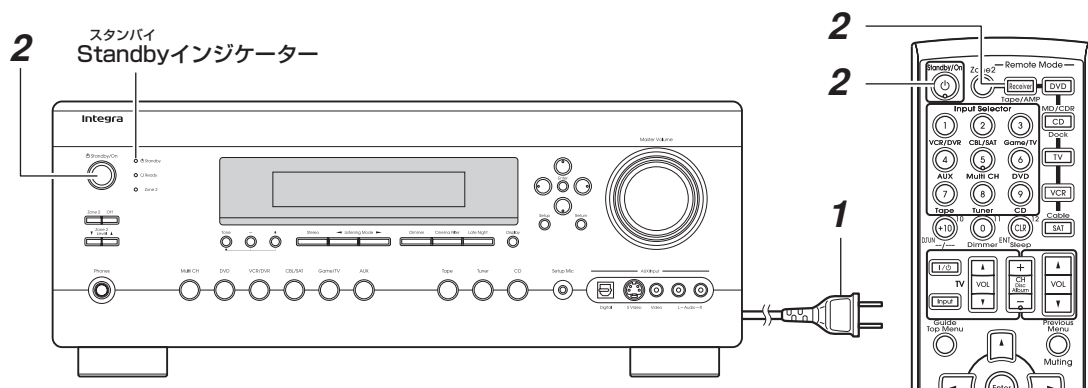
② テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）ができます。

③ 本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RI端子が装備されているかどうかをご確認ください。
本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

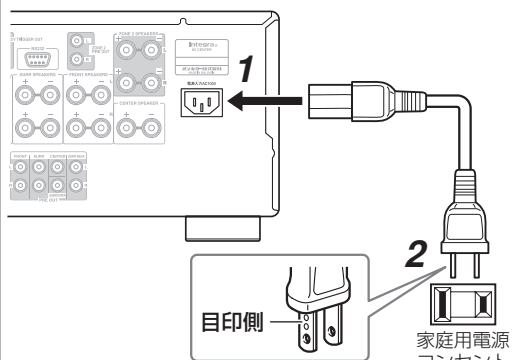
接続のしかた

- 本機のGAME/TV（ゲーム/テレビ）音声入力（GAME/TV IN L/R）端子を接続する
- モノラルミニプラグコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
- テレビの光デジタル音声出力端子と本機のDIGITAL OPTICAL IN（デジタル オプティカル イン） 1（GAME/TV）端子と接続する
  （テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません）

- 他のインテグラ/オンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしを接続してください。
- RI端子が2つある製品の場合、2つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

接続をする

電源を入れる

電源コードを接続する前に

すべての接続が完了していることを確認してください。
付属の電源コード以外は使用しないでください。この電源コードは本機専用です。
家庭用電源コンセントに電源プラグを挿し込んだ状態で電源入力AC100V端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピュータなどの機器の動作に影響することがあります。コンピュータなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

1

1. 付属の電源コードを本機の電源入力AC100V端子に接続する
2. 電源コードをコンセントに接続する

Standby（スタンバイ）インジケーターが点灯し、スタンバイ状態となります。

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の広さが同じ場合は、聞き比べて音の良い方向に差し込んでください。

ご注意

電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

2

本体のStandby（スタンバイ）/On（オン）ボタン、またはリモコンのAMP（アンプ）ボタンを押してからStandby/Onボタンを押す

Standby/On

本体

または

リモコン

Standbyインジケーターが消え、表示部が点灯します。

！ヒント

スタンバイ状態のとき、本体の入力切換ボタン、Multi CH（マルチ チャンネル）ボタンやリモコンのInput Selector（インプット セレクター）ボタンを押しても電源を入れることができます。

スタンバイ状態に戻すには

本体のStandby/OnボタンまたはリモコンのStandby/Onボタンを押します。

自動スピーカー設定をする（Audyssey 2EQ機能）

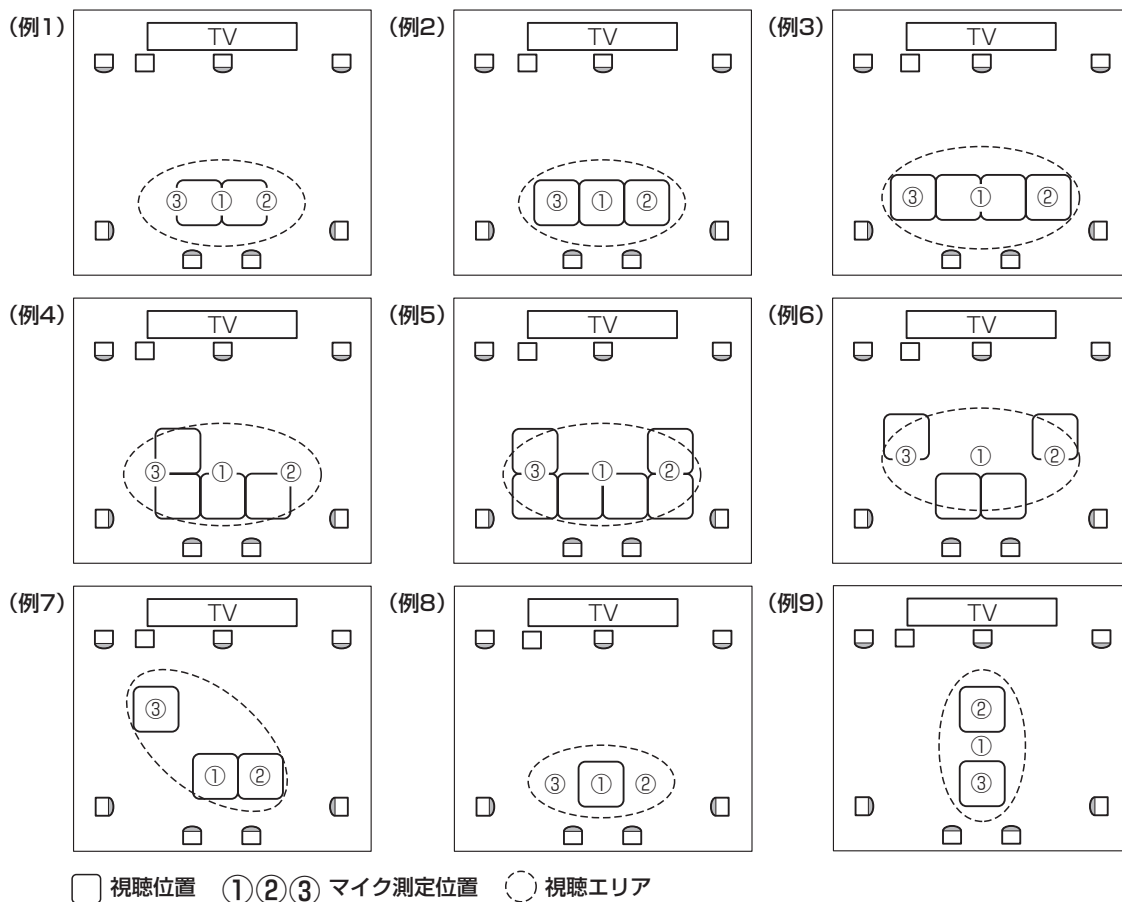
（オデッセイ　ツーイーキュー）

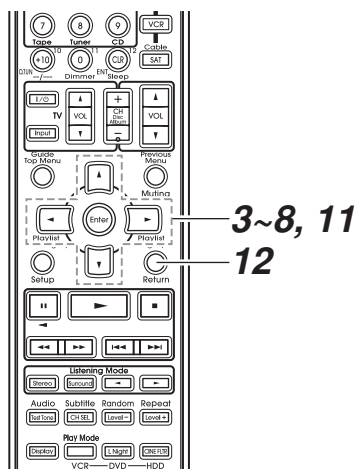
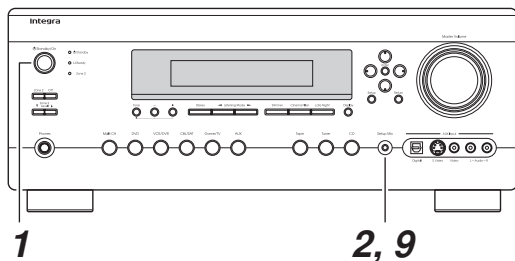
付属の測定用マイクを使って、接続したスピーカーの数、大きさ、クロスオーバー、視聴位置までの距離を測定し、お部屋の環境に最適なスピーカーの設定を自動的に行います。本機が採用しているAudyssey 2EQ機能では、複数の視聴者が同時にホームシアターを楽しむ際の最適な視聴エリアを設定するため、視聴エリア内の3つの視聴位置で測定し、測定結果を処理します。設定の前に使用するすべてのスピーカーの接続と設置を行ってください。

測定のしかた

測定位置は視聴エリア内の3箇所です。下図をご参考に測定用マイクを置く位置をご確認ください。具体的な操作手順については、40～41ページをご覧ください。

① 最初に測定する位置です。視聴エリアの中心、または1人で視聴するときに座る位置です。
② 2番目に測定する位置です。視聴エリアの右側にあたる位置です。
③ 3番目に測定する位置です。視聴エリアの左側にあたる位置です。
①と②、①と③の間は、1m程度またはそれ以上はあけるようにしてください。

- すべての測定が終了するまで約10分程度かかります。

ご注意

ヘッドホンを接続しているときは、測定できません。

1

⏻Standby/On

本機の電源を入れ、接続したテレビの電源を入れる

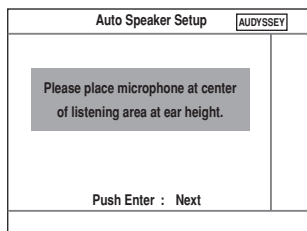
テレビの入力を本機を接続した入力に切り換えてください。

接続したスピーカーの中に1台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合、測定の前にスピーカーインピーダンスを設定してください。(☞49ページ)

2

Setup Mic

付属の測定用マイクを視聴位置に設置してから、マイクのプラグを本機のSetup Mic端子に接続する

39ページの「測定のしかた」の図を参考に、①の位置にマイクを置いてください。
テレビに下記の画面が表示されます。

(視聴位置の中央にマイクを置いてください。Enterボタンを押すと測定を開始します。)

ご注意

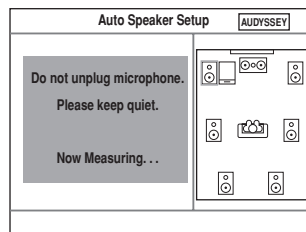
- マイクは水平に置いてください。
- それぞれのスピーカーからマイクの間に障害物があると、正しく設定できません。通常の視聴時と同じ環境にしてください。
- Muting機能が設定されていると、ミューティングは解除されます。

!ヒント

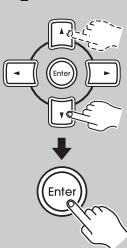
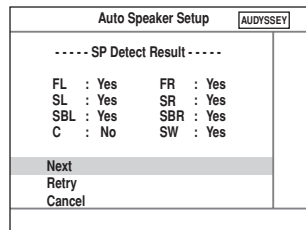
視聴するときの耳に近い位置にマイクを設置すると、正確に設定できます。三脚や水平な台を使用すると高さを調節できます。

3

Enterボタンを押す

自動スピーカー設定が始まります。
接続したスピーカーからテスト音を出しながらマイクで測定します。完了するまで数分かかります。

(マイクを抜かないでください。静かにしてしばらくお待ちください。現在測定中です。)

- 測定を途中で止めるときは、マイクのプラグを抜いてください。

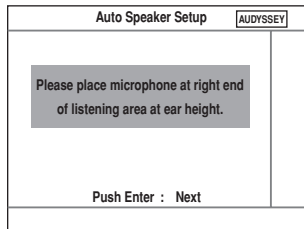
4

現在のスピーカーの接続状況が表示されるので、希望の項目を▲/▼ボタンで選び、Enterボタンを押す

接続されているスピーカーは「Yes」、接続されていないスピーカーは「No」と表されます。
実際の接続とあっていれば▲/▼ボタンで「Next」を選び、Enterボタンを押してください。

Next：次に進みます。(手順*5*)
Retry：測定をやり直します。
Cancel：結果をキャンセルして終了します。

⇒次ページに続く

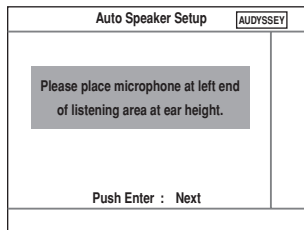
5

手順*4* で「Next」を選びEnterボタンを押すと以下の画面が表示されるので、マイクを視聴エリアの右側に置きEnterボタンを押す

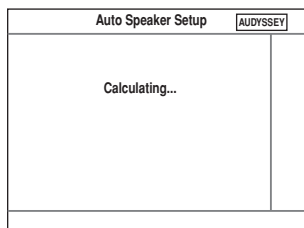
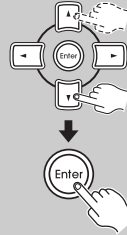
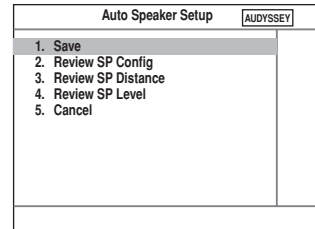
39ページの「測定のしかた」の図を参考に、②の位置にマイクを置いてください。
完了するまで数分かかります。

（視聴位置の右側にあたる場所にマイクを置いてください。Enterボタンを押すと測定を開始します。）

6

測定が終わると以下の画面が表示されるので、マイクを視聴エリアの左側に置きEnterボタンを押す

39ページの「測定のしかた」の図を参考に、③の位置にマイクを置いてください。
完了するまで数分かかります。

（視聴位置の左側にあたる場所にマイクを置いてください。Enterボタンを押すと測定を開始します。）

7

測定が終わると以下の画面が表示され、自動的に測定結果を計算します

8

測定結果の計算が終わると以下の確認画面が表示されるので、▲/▼ボタンで希望の項目を選び、Enterボタンを押す

Save：計算結果を保存して終了します。

Review SP Config：
スピーカーコンフィグの結果を表示します。（「測定結果を確認するには」をご覧ください。☞43ページ）

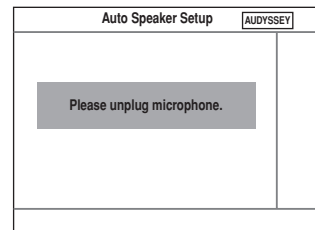
Review SP Distance：
スピーカーディスタンスの結果を表示します。（「測定結果を確認するには」をご覧ください。☞43ページ）

Review SP Level：
スピーカーレベルの結果を表示します。（「測定結果を確認するには」をご覧ください。☞43ページ）

Cancel：
結果をキャンセルして終了します。

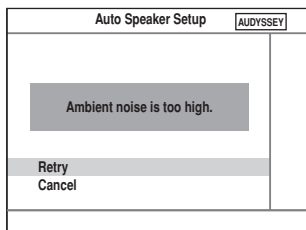
9

以下の表示が出たら、マイクのプラグを抜く

下記の画面が表示されます。

（マイクを抜いてください。）

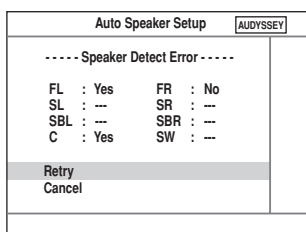
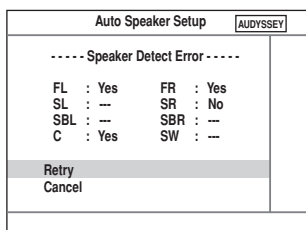
- 測定が完了すると「スピーカーの音場補正」は、「Audyssey」に設定されます。（☞72～73ページ）

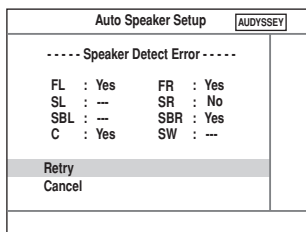
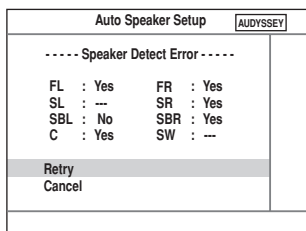
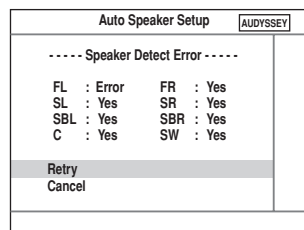
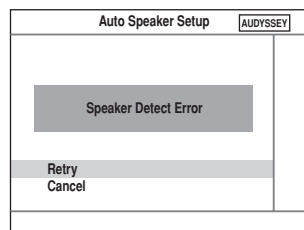
■測定途中に表示されるエラーメッセージについて

Ambient noise is too high

測定環境の雑音が大きすぎて測定できません。雑音の原因を取り除いてください。

Retry：再度測定します。
　　　（測定していたポイントから再開します）

Cancel：結果をキャンセルして終了します。

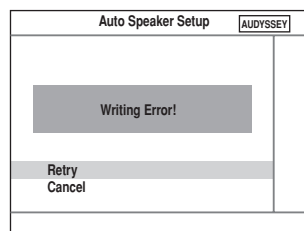
Speaker Detect Error

- フロントスピーカーが検出できません。

- サラウンドスピーカーが１つしか検出できません。

Auto Speaker Setup　AUDYSSEY
----- Speaker Detect Error -----
FL : Yes　FR : Yes
SL : ---　SR : No
SBL : ---　SBR : Yes
C : Yes　SW : ---
Retry
Cancel

- サラウンドバックスピーカーが検出されているのに、サラウンドスピーカーが検出できません。

- 右サラウンドバックスピーカーが検出されているのに、左サラウンドバックスピーカーが検出できません。

- スピーカーに異常があります。スピーカーが壊れているか、サブウーファーの音量が高域を出しすぎているかもしれません。

- 1回目の測定でのスピーカー数と、2、3回目の測定でのスピーカー数が違います。

検出できないスピーカーが正しく接続されているか確認してください。

Retry：再度測定します。（手順***2*** に戻る）

Cancel：結果をキャンセルして終了します。

Writing Error!

測定結果の保存に失敗しました。
2、3度試してもこのエラーメッセージが出る場合は、本機が故障しているかもしれません。
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

Retry：再度測定します。（手順***2*** に戻る）

Cancel：結果をキャンセルして終了します。

ご注意

使用環境によっては、正しく測定されないことがあります。再測定しても結果に変更がない場合は、手動でスピーカー設定を行ってください。（☞68〜73ページ）

！ヒント

サブウーファーを接続している場合

サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、自動スピーカー設定で認識されない場合があります。
測定結果を確認する画面（「SP Detect Result」）で、サブウーファー（SW）が「No」に設定されるときは、サブウーファーの音量レベルを半分くらいまで上げ、周波数を最大にした状態で再度測定してください。ただし、音量を上げすぎている（音が割れているような状態）場合も認識されませんので、適切な音量に調節してください。また、カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、「DIRECT」の状態にしてご使用ください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

測定結果を確認するには

10

手順*8*で「Review SP Config」、「Review SP Distance」または「Review SP Level」を選ぶと確認画面が表示されます。

Review SP Config：
スピーカーコンフィグの結果を表示します。

Review SP Distance：
スピーカーディスタンスの結果を表示します。

Review SP Level：
スピーカーレベルの結果を表示します。

11

▲/▼ボタンで確認したい項目を選び、Enterボタンを押す

測定された内容が表示されます。

- Returnボタンを押すと、1つ前の画面に戻ります。

Review SP Config画面

Auto Speaker Setup　AUDYSSEY

Review SP Config

Subwoofer	:	Yes
Front	:	Full Band
Center	:	80Hz
Surround	:	100Hz
Surr Back	:	150Hz
Surr Back Ch	:	2ch

Review SP Distance画面

Auto Speaker Setup　AUDYSSEY

Review SP Distance

Front	:	4.50m
Center	:	4.50m
Surr Right	:	2.10m
Surr Back R	:	2.10m
Surr Back L	:	2.10m
Surr Left	:	2.10m
Subwoofer	:	4.50m

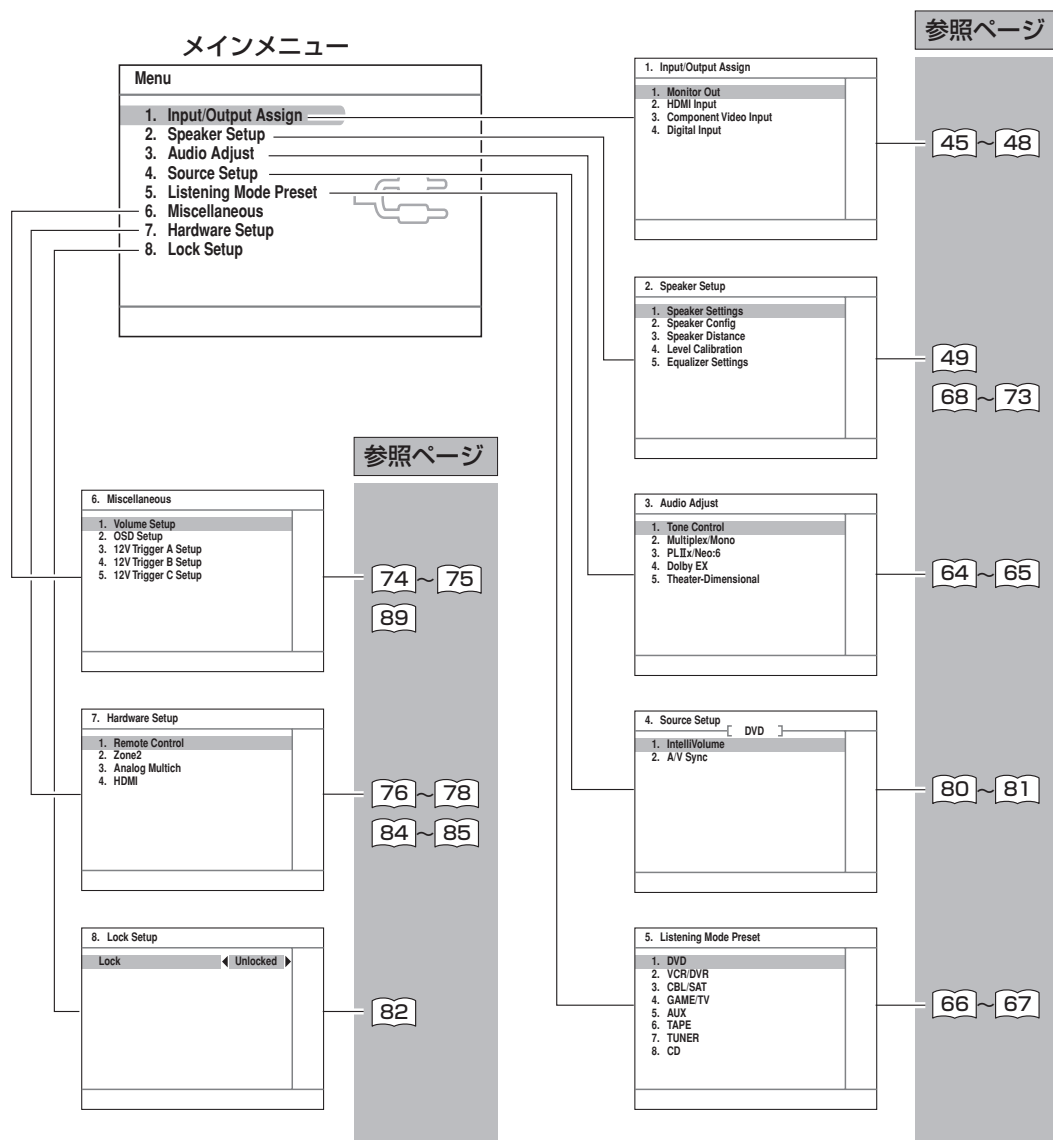
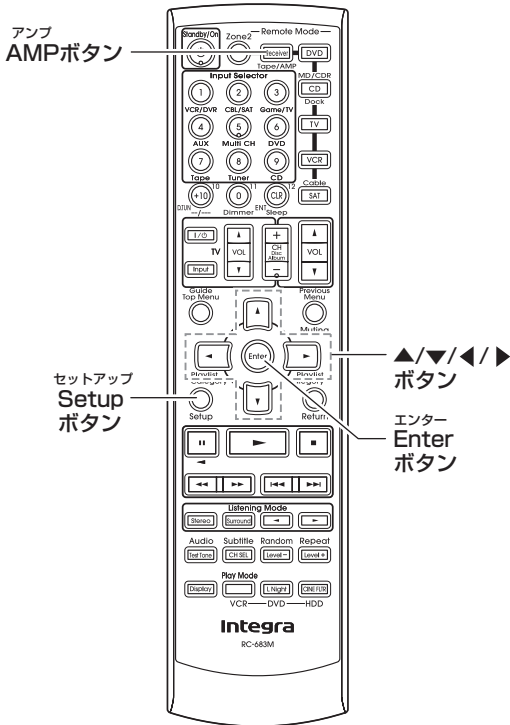
Review SP Level画面

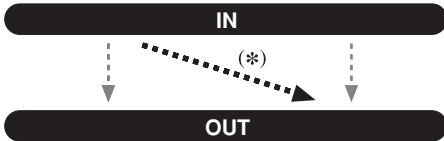
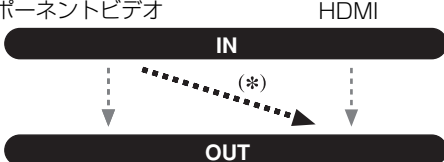
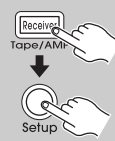
12

内容を確認したらReturnボタンを押して、前項の手順*8*の画面に戻る

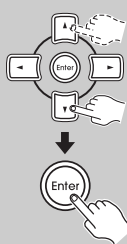
初期設定をする

OSDマップ

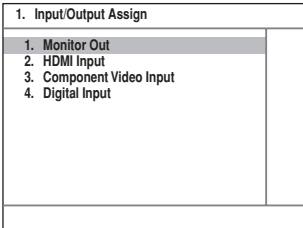
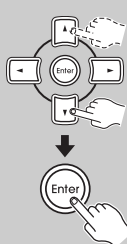
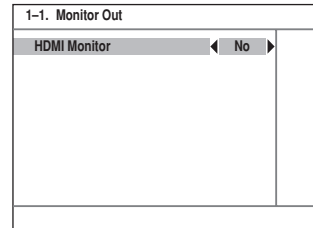
OSDとはOn Screen Display（オン スクリーン ディスプレイ）の略で、本機での設定や操作内容を接続したテレビなどのモニターに大きく表示して操作をしやすくする機能です。自動スピーカーの設定が完了したら、OSDで各設定を行ってください。

HDMIモニターの設定をする

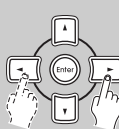
D4 VIDEO OUT端子、または COMPONENT VIDEO OUT端子にモニターを接続してご使用の場合は、セットアップメニュー画面を表示させるために、HDMI Monitor設定を「No」にします。ビデオ、Sビデオは、D映像、コンポーネント映像にアップコンバート（＊）して出力します。

HDMI OUT端子にモニターを接続してご使用の場合は、セットアップメニュー画面を表示させるために、HDMI Monitor設定を「Yes」にします。ビデオ、Sビデオ、D映像、コンポーネント映像は、HDMIにアップコンバート（＊）して出力します。セットアップメニュー画面はHDMI OUTからのみ表示されます。

1

AMPボタンを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「1. Input/Output Assign」を選び、Enterボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「1. Monitor Out」を選び、Enterボタンを押す

設定画面が表示されます。

4

◀ / ▶ ボタンで設定を選ぶ

No：
ご使用のテレビをMONITOR OUT、D4 VIDEO OUT、または COMPONENT VIDEO OUTに接続している場合に選択します。

Yes：
ご使用のテレビをHDMI OUTに接続している場合に選択します。

5

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

本体のSetupボタン、▲/▼/◀ / ▶ ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

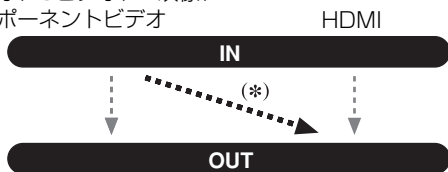
ビデオ入力の設定をする

HDMI入力端子の設定

HDMI IN 1/2端子に、HDMI出力端子のあるDVDプレーヤーなどを接続しているときに設定します。

たとえば、DVDプレーヤーを本機のHDMI IN 1端子に接続したときは、DVDに「IN 1」を割り当ててください。
DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME/TV、AUX、TAPE、TUNER、CDまでの各入力に設定できます。

モニターと本機をHDMIケーブルで接続している場合は、ビデオ、Sビデオ、D映像、コンポーネントの入力映像を、アップコンバート（＊）してHDMI OUT端子で出力することができます。入力は「−−−」にしてください。

ビデオ、Sビデオ、D映像、
コンポーネントビデオ　　　HDMI

ビデオ、Sビデオ、D映像、
コンポーネントビデオ　　　HDMI

1

AMPボタンを押してから Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「1. Input/Output Assign」を選び、Enterボタンを押す

1. Input/Output Assign

1. Monitor Out
2. HDMI Input
3. Component Video Input
4. Digital Input

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「2. HDMI Input」を選び、Enterボタンを押す

1–2. HDMI Input

DVD	---
VCR/DVR	---
CBL/SAT	---
GAME/TV	---
AUX	---
TAPE	---
TUNER	---
CD	---

設定画面が表示されます。

4

▲/▼ボタンを押して「設定する入力ソース」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

IN1：
映像機器をHDMI IN1端子に接続した場合に選びます。

IN2：
映像機器をHDMI IN2端子に接続した場合に選びます。

−−−：
VIDEO/S VIDEO/D4 VIDEO / COMPONENT VIDEO端子から入力された映像信号を、HDMI端子から出力します。HDMI出力されるのは、「コンポーネントビデオ端子の設定」（☞47ページ）で設定された映像入力です。

5

Setup

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

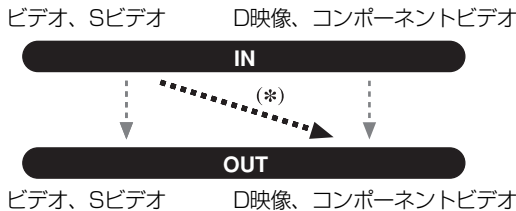
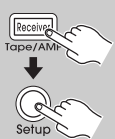
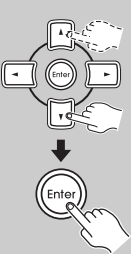
ご注意

- 各HDMI IN端子は1つの入力機器にしか割り当てることができません。
- ビデオ、Sビデオ、D映像、コンポーネントの入力映像をアップコンバートしてHDMI OUT端子で出力するには、HDMI Monitorの設定を「Yes」に（☞45ページ）、HDMI Inputの設定を「−−−」にしてください。映像信号の流れについては、21〜22ページをご覧ください。
- HDMI IN 1またはIN 2に設定した入力のデジタル入力端子の設定には、自動的に「HDMI IN 1」、「HDMI IN 2」のデジタル入力が割り当てられます。（☞48ページ）

コンポーネントビデオ端子の設定

D4 VIDEO OUT端子またはCOMPONENT VIDEO OUT端子にテレビなどのモニターを接続しているときに設定します。
ここで設定した映像入力端子からの映像が、D4 VIDEO OUT端子またはCOMPONENT VIDEO OUT端子から出力されます。
入力ソースごとに設定できます。

入力ソース	映像入力端子の初期設定
DVD	IN 1
VCR/DVR	―――
CBL/SAT	―――
GAME/TV	―――
AUX	―――
TAPE	―――
TUNER	―――
CD	―――

モニターと本機をD端子用接続コードやコンポーネントビデオコードで接続している場合は、ビデオ、Sビデオの入力映像を、アップコンバート（＊）してD4 VIDEO OUT 端子やCOMPONENT VIDEO OUT端子で出力することができます。入力は「―――」にしてください。

1

AMPボタンを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

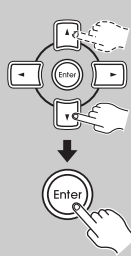
2

▲/▼ボタンを押して「1. Input/Output Assign」を選び、Enterボタンを押す

1. Input/Output Assign

1. Monitor Out
2. HDMI Input
3. Component Video Input
4. Digital Input

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「3. Component Video Input」を選び、Enterボタンを押す

1–3. Component Video Input

DVD	IN 1
VCR/DVR	---
CBL/SAT	---
GAME/TV	---
AUX	---
TAPE	---
TUNER	---
CD	---

設定画面が表示されます。

4

▲/▼ボタンを押して「設定する入力ソース」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

IN1：
映像機器をD4 VIDEO IN1端子またはCOMPONENT VIDEO IN1端子に接続した場合に選びます。

IN2：
映像機器をD4 VIDEO IN2端子またはCOMPONENT VIDEO IN2端子に接続した場合に選びます。

IN3：
映像機器をD4 VIDEO IN3端子またはCOMPONENT VIDEO IN3端子に接続した場合に選びます。

―――：
映像機器をVIDEOまたはS VIDEO端子に接続した場合に選びます。

5

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

ご注意

ビデオ、SビデオをD4 VIDEO OUT、COMPONENT VIDEO OUTへアップコンバートして出力するには、HDMI Monitorの設定を「No」にして（☞45ページ）、Component Video Inputの設定を「―――」にしてください。映像信号の流れについては、21～22ページをご覧ください。

初期設定をする

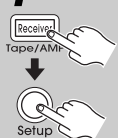
デジタル入力端子の設定をする

デジタル端子の接続は、ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむために必要です。各デジタル入力端子は、初期設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。

- 接続した機器がデジタル入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を「－－－」にする必要があります。

入力	デジタル入力端子の初期設定
DVD	COAX 1
VCR/DVR	－－－
CBL/SAT	COAX 2
GAME/TV	OPT 1
AUX	FRONT
TAPE	－－－
TUNER	－－－
CD	OPT 2

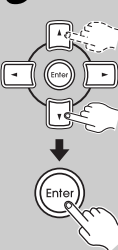
- 46ページでHDMI端子を割り当てた入力には、本設定にも自動的にHDMI端子が割り当てられます。また、この入力に他のデジタル音声入力を割り当てることもできます。

1

AMP(アンプ)ボタンを押してから
Setup(セットアップ)ボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して
「1. Input/Output Assign(インプット/アウトプット アサイン)」を選び、Enter(エンター)ボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して
「4. Digital Input(デジタル インプット)」を選び、
Enterボタンを押す

1–4. Digital Input

DVD	◀COAX 1▶
VCR/DVR	- - -
CBL/SAT	COAX 2
GAME/TV	OPT 1
AUX	FRONT
TAPE	- - -
TUNER	- - -
CD	OPT 2

設定画面が表示されます。

AUXはフロントパネルのOPTデジタル入力として固定されているため、設定できませんが、46ページでHDMI端子を割り当てた場合は、HDMI端子を設定することができます。

4

▲/▼ボタンを押して
「接続した端子」を選び、
◀/▶ボタンを押して設定を選ぶ

例：**本機後面のOPTICAL(オプティカル) IN1端子にDVDレコーダーを接続した場合**
VCR/DVRのデジタル入力端子の初期設定は「－－－」（アナログ）のため、「OPT1」に設定を変更します。

DVDプレーヤーとアナログ接続のみをした場合
DVDのデジタル入力端子の初期設定は「COAX 1」のため、「－－－」に設定を変更します。

ボタンを押すたびに以下のように表示が切り換わります。

- －－－ ：デジタル機器をデジタル入力端子に接続していない場合に選びます。
- ↓ COAX(コアキシャル) 1 ：デジタル機器をCOAXIAL(コアキシャル) IN 1端子に接続している場合に選びます。
- ↓ COAX(コアキシャル) 2 ：デジタル機器をCOAXIAL(コアキシャル) IN 2端子に接続している場合に選びます。
- ↓ OPT(オプティカル) 1 ：デジタル機器をOPTICAL(オプティカル) IN 1端子に接続している場合に選びます。
- ↓ OPT(オプティカル) 2 ：デジタル機器をOPTICAL(オプティカル) IN 2端子に接続している場合に選びます。
- ↓ HDMI 1* ：デジタル機器をHDMI IN 1端子に接続している場合に選びます。
- ↓ HDMI 2* ：デジタル機器をHDMI IN 2端子に接続している場合に選びます。（→ －－－ に戻る）

約3秒後に元の表示に戻り、設定が完了します。

＊46ページでHDMI端子を設定した入力に、そのHDMI端子を割り当てることができます。

5

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSetup(セットアップ)ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter(エンター)ボタンでも操作することができます。

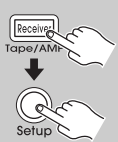
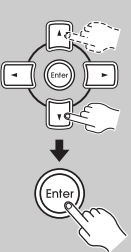
スピーカーの設定をする

これらの項目は自動スピーカー設定（☞39ページ）を行う前に設定してください。

接続したスピーカーのインピーダンス（Ω）を設定します。接続したスピーカーの中に１台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合はここで設定してください。
ご使用になるスピーカーの背面や取扱説明書でインピーダンス（Ω）をご確認ください。
フロントスピーカーをFRONT端子とSURR BACK端子にバイアンプ接続している場合は、スピーカーの設定を「Bi-Amp」にしてください（☞19ページ）。

ご注意

設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

1

AMPボタンを押してから Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

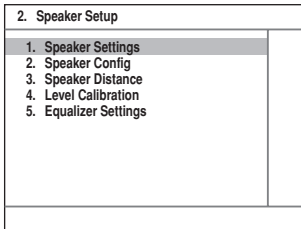
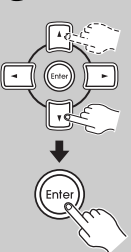
2

▲/▼ボタンを押して「2. Speaker Setup」を選び、Enterボタンを押す

2. Speaker Setup

1. Speaker Settings
2. Speaker Config
3. Speaker Distance
4. Level Calibration
5. Equalizer Settings

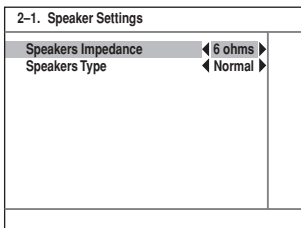
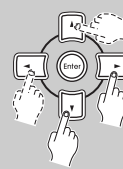
設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「1. Speaker Setting」を選び、Enterボタンを押す

2–1. Speaker Settings

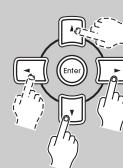
Speakers Impedance	◀ 6 ohms ▶
Speakers Type	◀ Normal ▶

設定画面が表示されます。

4

▲/▼ボタンを押して「Speaker Impedance」を選び、◀/▶ボタンを押して「4 ohms」または「6 ohms」を選ぶ

4 ohms：接続したスピーカーの中に１台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合に選択します。

6 ohms：接続したスピーカーがすべて6Ω以上の場合に選択します。

5

▲/▼ボタンを押して「Speaker Type」を選び、◀/▶ボタンを押して「Normal」または「Bi-Amp」を選ぶ

Normal：フロントスピーカーを通常接続している場合に選択します。

Bi-Amp：フロントスピーカーをバイアンプ接続している場合に選択します。

6

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

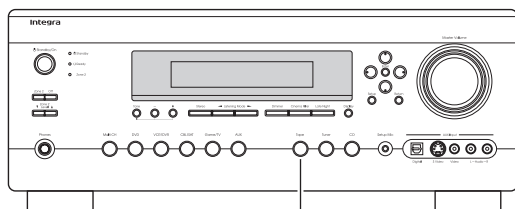
！ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

入力表示を切り換える

インテグラ/オンキヨー製のRI端子付きMDレコーダーやCDレコーダー、RIドックを本機のTAPE端子やGAME/TV端子に接続した場合は、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、接続した機器に合わせて入力表示を切り換える必要があります。

■入力切換ボタン「Tape」の表示内容を切り換える

TAPE端子に、インテグラ/オンキヨー製のRI端子付きMDレコーダー、CDレコーダー、RIドックのいずれかを接続した場合

1 入力切換ボタンの「Tape」を押し、表示部に「TAPE」を表示させる

Tape

TAPE

2 Tapeボタンを約3秒押し続けて、表示を切り換える

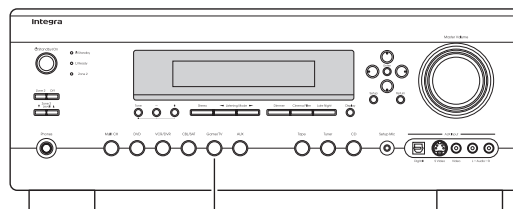
MD

CDR

DOCK

この手順をくり返すと「TAPE」→「MD」→「CDR」→「DOCK」→「TAPE」と表示が切り換わります。

■入力切換ボタン「Game/TV」の表示内容を切り換える

GAME/TV端子に、インテグラ/オンキヨー製のRIドックを接続した場合

1 入力切換ボタンの「Game/TV」を押し、表示部に「GAME/TV」を表示させる

GAME/TV

2 Game/TVボタンを約3秒押し続けて、表示を切り換える

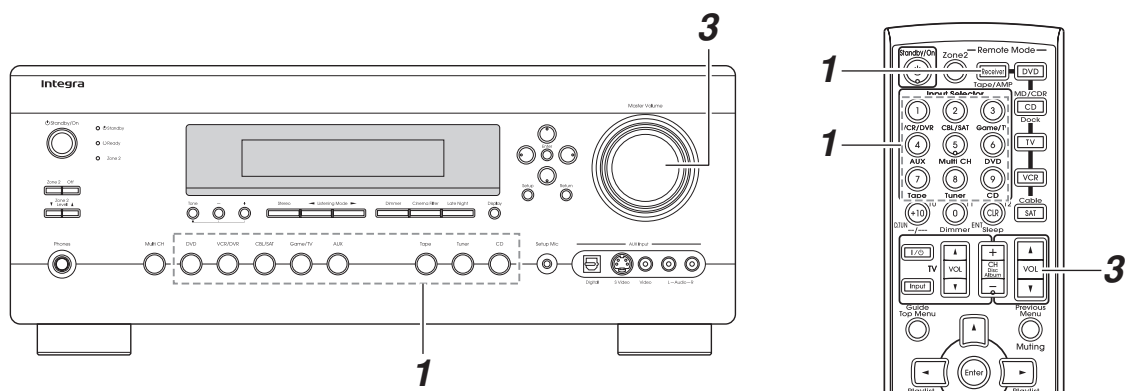
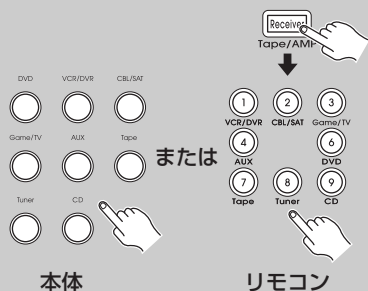
DOCK

この手順をくり返すと「GAME/TV」→「DOCK」→「GAME/TV」と表示が切り換わります。

ご注意

「DOCK」は、「TAPE」または「GAME/TV」のどちらか片方でしか表示できません。どちらかで「DOCK」の表示に切り換えたときは、もう片方では切り換えることができません。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

接続した機器を再生する

1

再生する機器を選ぶ

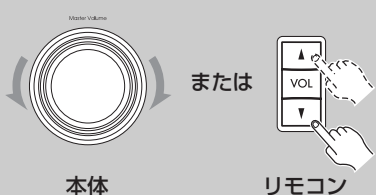
本体の入力切換ボタンを押します。または、リモコンのAMPボタンを押してからInput Selectorボタンを押します。

2

選んだ機器の再生を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。
また、DVD対応のゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3

Master Volume
または
VOL
本体
リモコン

本体のMaster Volumeつまみ、またはリモコンのVOL▲/▼ボタンで音量を調整する

音量は基本的にMIN・1・2‥‥98・99・MAXまでの範囲で調整できます。

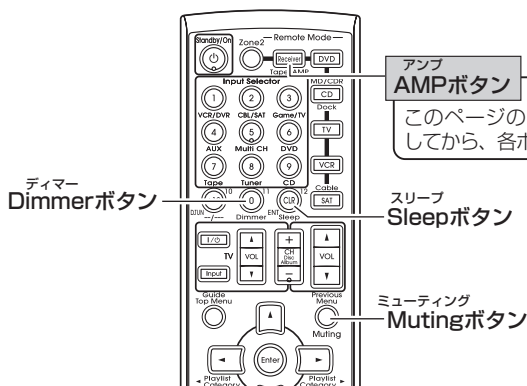
！ヒント

本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

4

リスニングモードを楽しむ

詳しくは53ページをご覧ください。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

一時的に音量を小さくする

リモコンのMutingボタンを押す

表示部に「MUTING」が点滅します。

■解除するには

もう一度Mutingボタンを押してください。
（音量を変えたり、Standby/Onボタンを押した場合にも解除されます。）

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。本体のDimmerボタンでも操作できます。

リモコンのDimmerボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

→ やや暗い → 暗い → ふつう

スリープタイマーを使う

リモコンのSleepボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

- スリープタイマー設定中はSLEEPインジケーターが点灯します。

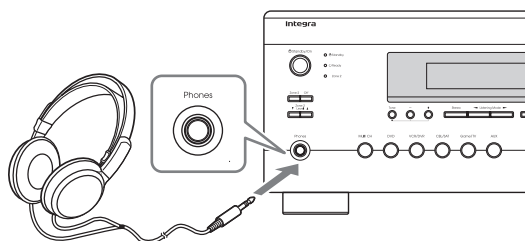
■残り時間を確認するには

スリープタイマーが予約されているときにSleepボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が10分以下のときに再びSleepボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

■スリープタイマーを解除するには

SLEEPインジケーターが消えるまで、くり返しSleepボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

ヘッドホンで聞く

Phones端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

- 接続するときは音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が消えます。
- 「Mono」または「Direct」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続
  すると自動的に「Stereo」になります。
- ヘッドホン接続時は、「Mono」、「Direct」または「Stereo」のリスニングモードが選択できます。
- マルチチャンネル入力を選んでいるときは、左右フロントチャンネルの音声のみ聞こえます。
- ヘッドホンレベルを調整するには、リモコンのCH SELボタンを押して、Level＋/－ボタンを押します。
  －12dB～＋12dBの範囲で調整できます。スタンバイ状態にしても設定を記憶しています。

リスニングモードを使う（基本編）

リスニングモードを選ぶ

本体のボタンで選ぶ

1 入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2 選んだ機器を再生する

3 Stereoボタン、または Listening Mode ◀ / ▶ ボタンでリスニングモードを選ぶ

または

Stereo：
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

Listening Mode ◀ / ▶：
対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

リモコンで選ぶ

1 AMPボタンを押してから入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2 選んだ機器を再生する

3 Stereoボタン、Surroundボタンまたは Listening Mode ◀ / ▶ ボタンを押してリスニングモードを選ぶ

Surround：
Dolby DigitalやDTSのリスニングモードに切り換えます。

Stereo：
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

Listening Mode ◀ / ▶：
対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

入力信号の種類と対応するリスニングモード

Analog（アナログ）、PCM、AAC ソース

入力信号の種類	PCM		マルチチャンネルPCM (32-192 kHz)	AAC			
				マルチチャンネル		2ch	1.0、1+1
	32-96 kHz	176.4/192 kHz*1	マルチチャンネル、1/0、1+1	*/2	*/2 以外		
主なソース ／ リスニングモード	CD、TV、ラジオ		DVD	地上/BS/110°CS デジタル放送			
Direct	●	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●		●	●	●	●
Multichannel			●				
AAC				●	●		
Dolby Digital							
Dolby Digital Plus							
DTS, DTS 96/24							
DTS Discrete/Matrix							
DTS-HD High Resolution Audio							
DTS-HD Master Audio							
TrueHD							
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*2	●			●		●	
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*2	●			●		●	
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*2	●					●	
Dolby Digital EX/Dolby EX				●			
Neo:6				●			
Neo:6 Cinema	●					●	
Neo:6 Music	●					●	
Mono	●			●	●	●	●
オンキヨー独自のリスニングモード: Mono Movie*3*4 / Orchestra*3*4 / Unplugged*3*4 / Studio-Mix*3*4 / TV Logic*3*4	●			●	●	●	●
オンキヨー独自のリスニングモード: All Ch Stereo / Full Mono	●			●	●	●	●
オンキヨー独自のリスニングモード: T-D*4	●			●	●	●	●

*1 HDMI INから入力された176.4/192 kHzのPCMは、Direct、Stereoのみ選べます。（HDMI入力のみ）
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
*3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*4 64 kHz、88.2 kHz、96 kHzのPCMは、それぞれ32 kHz、44.1 kHz、48 kHzで処理されます。

サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選べます。（6.1または7.1チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1チャンネル再生時）

！ヒント

入力信号の種類は、Display（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。（☞62ページ）

AACなどで多重音声の場合は65ページの「Multiplex（マルチプレックス） Input Ch（インプットチャンネル）」の設定で主音声または副音声を選択します。

Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD ソース

入力信号の種類	Dolby Digital				Dolby Digital Plus				TrueHD*1		
	マルチチャンネル */2	マルチチャンネル */2 以外	2ch	1/0、1+1	マルチチャンネル */2	マルチチャンネル */2 以外	2ch	1/0、1+1	マルチチャンネル	2ch	1/0、1+1
主なソース / リスニングモード	DVD、DTV など				Blu-ray、HD DVD				Blu-ray、HD DVD		
Direct	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Multichannel											
AAC											
Dolby Digital	●	●									
Dolby Digital Plus					●*2	●*2					
DTS, DTS 96/24											
DTS Discrete/Matrix											
DTS-HD High Resolution Audio											
DTS-HD Master Audio											
TrueHD									●		
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*3	●		●		●		●				
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*3	●		●		●		●				
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*3			●				●				
Dolby Digital EX/Dolby EX	●				●						
Neo:6	●				●						
Neo:6 Cinema			●				●				
Neo:6 Music			●				●				
Mono	●	●	●	●	●	●	●	●			
オンキヨー独自のリスニングモード: Mono Movie*4 / Orchestra*4 / Unplugged*4 / Studio-Mix*4 / TV Logic*4	●	●	●	●							
オンキヨー独自のリスニングモード: All Ch Stereo / Full Mono	●	●	●	●	●	●	●	●			
オンキヨー独自のリスニングモード: T-D	●	●	●	●							

*1 TrueHDの96 kHz信号入力時は、Tone control以外の音場・音質調整は効きません。TrueHDの192 kHz信号には本機は対応していません。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、入力信号によっては、Dolby Digitalが代わりに使用されます。
*3 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
*4 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。

サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選べます。（6.1または7.1チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1チャンネル再生時）

！ヒント

入力信号の種類は、Displayボタンを押して表示部で確認することができます。（☞62ページ）
AACなどで多重音声の場合は65ページの「Multiplex Input Ch」の設定で主音声または副音声を選択します。

DTS、DTS 96/24 ソース

入力信号の種類		DTS、DTS 96/24				DTS Discrete/Matrix
		マルチチャンネル		2ch	1/0	
		*/2	*/2 以外			
主なソース / リスニングモード		DVD、CD など				DVD、CD など
Direct		●	●	●	●	●
Stereo		●	●	●	●	●
Multichannel						
AAC						
Dolby Digital						
Dolby Digital Plus						
DTS, DTS 96/24		●	●			●
DTS Discrete/Matrix						●*1
DTS-HD High Resolution Audio						
DTS-HD Master Audio						
TrueHD						
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*2		●		●		
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*2		●		●		
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*2				●		
Dolby Digital EX/Dolby EX		●				
Neo:6		●				
Neo:6 Cinema				●		
Neo:6 Music				●		
Mono		●	●	●	●	●
オンキヨー独自のリスニングモード	Mono Movie*3*4 Orchestra*3*4 Unplugged*3*4 Studio-Mix*3*4 TV Logic*3*4	●	●	●	●	●
	All Ch Stereo Full Mono	●	●	●	●	●
	T-D*4	●	●	●	●	●

*1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTSになります。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
*3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*4 DTS 96/24は、DTSで処理されます。

サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選べます。（6.1または7.1チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1チャンネル再生時）

！ヒント

入力信号の種類は、Display（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。（☞62ページ）
AACなどで多重音声の場合は65ページの「Multiplex Input Ch（マルチプレックス インプットチャンネル）」の設定で主音声または副音声を選択します。

DTS-HD High（ハイ） Resolution（レゾリューション） Audio（オーディオ）、DTS-HD Master（マスター） Audio（オーディオ）ソース

入力信号の種類	DTS-HD High Resolution Audio				DTS-HD Master Audio*1		
	マルチチャンネル		2ch	1/0	マルチチャンネル	2ch	1/0
	*/2	*/2 以外					
主なソース／リスニングモード	Blu-ray、HD DVD				Blu-ray、HD DVD		
Direct	●	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●	●	●
Multichannel							
AAC							
Dolby Digital							
Dolby Digital Plus							
DTS, DTS 96/24							
DTS Discrete/Matrix							
DTS-HD High Resolution Audio	●	●					
DTS-HD Master Audio					●		
TrueHD							
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*2	●*3		●*3				
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*2	●*3		●*3				
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*2			●*3				
Dolby Digital EX/Dolby EX	●*3						
Neo:6	●*3						
Neo:6 Cinema			●*3				
Neo:6 Music			●*3				
Mono	●*3	●*3	●*3	●*3			
オンキヨー独自のリスニングモード: Mono Movie*4 Orchestra*4 Unplugged*4 Studio-Mix*4 TV Logic*4							
オンキヨー独自のリスニングモード: All Ch Stereo Full Mono	●*3	●*3	●*3	●*3			
オンキヨー独自のリスニングモード: T-D							

*1 DTS-HD Master Audioの96 kHz信号入力時は、Tone control以外の音場・音質調整は効きません。DTS-HD Master Audioの192 kHz信号入力時は、96 kHzで再生します。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
*3 入力ソースによっては、DTS再生のあとに処理します（96 kHz信号時など）。
*4 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。

サラウンドバックスピーカーを1つ以上接続しているときに選べます。（6.1または7.1チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1チャンネル再生時）

！ヒント

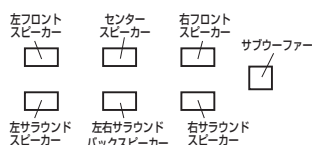
入力信号の種類は、Display（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。（☞62ページ）

AACなどで多重音声の場合は65ページの「Multiplex（マルチプレックス） Input（インプット） Ch（チャンネル）」の設定で主音声または副音声を選択します。

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと､お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わっていただけます。本機には以下のリスニングモードがあります。

下のイラストは、そのリスニングモード時に出力されるスピーカーを表します。

左フロントスピーカー
センタースピーカー
右フロントスピーカー
サブウーファー
左サラウンドスピーカー
左右サラウンドバックスピーカー
右サラウンドスピーカー

Direct

もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。

Stereo

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Mono

モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVDなどに記録された音声多重のサウンドトラックに適しています。

Dolby Pro Logic IIx

2チャンネルで収録された音楽や映画を6.1から7.1チャンネルで再生できます。
明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CDや映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。
5.1チャンネルで収録された音楽や映画を7.1チャンネルで再生できます。

- Dolby PL IIx Movie
  VHSやDVDビデオ、またはテレビ番組再生時に楽しむことができます。
- Dolby PL IIx Music
  CDなどのステレオ音楽や、ライブを記録したDVDに適しています。
- Dolby PL IIx Game
  ゲームディスクを楽しむときに使用できます。

Dolby Pro Logic II

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、Dolby Pro Logic IIxの代わりに、このリスニングモードになります。
2チャンネルで収録された音楽や映画を5.1チャンネルで再生できます。

Dolby Digital

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。Dolby Digitalロゴのついた DVD、LDなどの再生時に楽しむことができます。

Dolby Digital EX/Dolby EX

5.1チャンネルで収録された音楽や映画を6.1/7.1チャンネルで再生できます。
5.1チャンネルに背面のサラウンドチャンネルを増やし、6.1/7.1チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の5.1チャンネル環境で再生することも可能です。5.1チャンネルで記録されたDolby Digitalロゴのついた DVD、LDの再生時はDolby Digital EXとなり、その他のソースではDolby EXとなります。

Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plusフォーマットのブルーレイ、HD DVDディスクに使用できるリスニングモードです。

Dolby TrueHD

Dolby TrueHDフォーマットのブルーレイ、HD DVDディスクに使用できるリスニングモードです。
本機が対応している信号については、55ページを参照してください。

DTS

完全に分離させた5.1チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。DTSロゴのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24

DTS 96/24ロゴのついたCD、DVD、LDなどに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1/7.1チャンネルサラウンドです。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めてすべてのチャンネルが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。DTS-ESロゴのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix

DTS-ES収録ソフトを6.1/7.1チャンネル再生します。
DTS-ES収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1/7.1チャンネルに復元して再生します。
DTS-ESロゴのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS Neo：6

2チャンネルで収録されたソースを5.1/6.1/7.1チャンネルで再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。
映画に最適なCinemaモードと音楽再生に最適なMusicモードが選択できます。
5.1チャンネルで収録されたDTSロゴのついたDVDやCDの再生時はNeo：6となり、6.1/7.1チャンネルで再生します。

- Neo：6 Cinema
  リアルで移動感にあふれたサラウンドが再現され、2チャンネルのVHSやDVDビデオ、テレビ番組に適しています。
- Neo：6 Music
  サラウンドチャンネルを使用することで通常の2チャンネル出力では得られない自然な音場を生み出します。2チャンネルで収録されたCDなどに適しています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audioフォーマットのブルーレイ、HD DVDディスクに使用できるリスニングモードです。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audioフォーマットのブルーレイ、HD DVDディスクに使用できるリスニングモードです。
本機が対応している信号については、57ページを参照してください。

AAC

MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。
地上デジタル、BS/CSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。

Multich

アナログのマルチチャンネル接続やHDMI接続をしているときに使用できるリスニングモードです。

■ オンキヨー独自のリスニングモード

Mono Movie

古い映画などモノラル信号の映画ソースを再生するのに適したモードです。センターチャンネルからはそのままの音声を、他のスピーカーからは適度に残響処理を施した音を出力します。
モノラルでも臨場感をお楽しみいただけます。

Orchestra

クラシックやオペラに適したモードです。
音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。
大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージを作ります。

Studio-Mix

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

TV Logic

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

All Ch Stereo

BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

Full Mono

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聞くことができます。

Theater-Dimensional または

2つまたは3つのスピーカーであたかも5.1チャンネル再生しているようなバーチャル再生をお楽しみいただけます。
左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をおすすめします。

聴きたいリスニングモードが選べない

- デジタル接続はしましたか？（☞23～33ページ）または、HDMI接続はしましたか？（☞30、31ページ）
  ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか？
  ドルビーデジタルやDTSロゴのついたDVDの本編を再生中に、本機のPCM表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定がPCMになっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

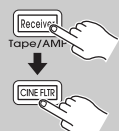
映画・音楽を鑑賞する（応用編）

シネマフィルター機能を使う

高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。シネマフィルターの設定は、リスニングモードがDolby Digital、Dolby Digital EX、Dolby Pro Logic II Movie、Dolby Pro Logic IIx Movie、DTS、DTS-ES、DTS Neo:6 Cinema、DTS 96/24、Neo:6、AACの場合に働きます。

ご注意

- 入力ソースによっては、シネマフィルターが使用できないことがあります。

1

AMPボタンを押してから、CINE FLTRボタンを（くり返し）押す

On ：高音域の補正をします。
Off ：シネマフィルター機能をオフにします。

！ヒント

本体のCinema Filterボタンでも操作できます。

レイトナイト機能を使う（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHDのみ）

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

AMPボタンを押してから、L Nightボタンを（くり返し）押す

Late Night:Off

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス

Off ：レイトナイト機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）
Low ：音量幅を小さくします。
High ：音量幅をさらに小さくします。

ドルビーTrueHD

Auto ：レイトナイト機能は、自動でOnかOffに設定されます。（お買い上げ時の設定）
Off ：レイトナイト機能をOffにします。
On ：音量幅を小さくします。

ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHDソフトにのみ効果があります。
- コンテンツ製作者の意図により、レイトナイトのモードを変えても効果に変化のないものもあります。

！ヒント

本体のLate Nightボタンでも操作できます。

マルチチャンネル接続した機器を再生する

DVDプレーヤーとマルチチャンネル接続をしている場合、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどの再生をお楽しみいただけます。25ページの通り正しく接続されていることを確認してください。

1 AMPボタンを押してからMulti CHボタンを押して、「MULTI CH」表示を点灯させる

2 DVDプレーヤーを再生する

「スピーカー環境の設定」（☞68ページ）に関係なく、ソフトに収録された内容どおりにすべてのチャンネルから出力されます。

3 VOL▲/▼ボタンで音量を調整する

音量は基本的にMIN･1･2･･･98･99･MAXまでの範囲で調整できます。

！ヒント

- 本体の入力切換ボタン、Master Volumeつまみでも操作できます。
- マルチチャンネル再生時のサブウーファーの音量の調整ができます。（☞76ページ）

ご注意

「Multich」を選んでいるときは、Directのリスニングモードを選ぶことができます。

スピーカーの音量を一時的に調整する

再生中、一時的に各スピーカーの音量をお好みに調整することもできます。本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1 AMPボタンを押してから、CH SELボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

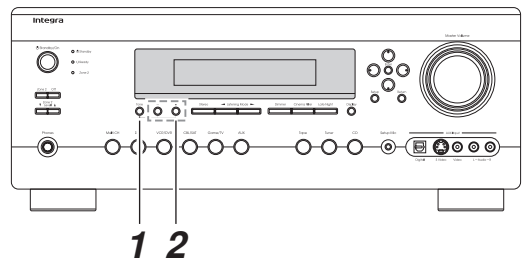
ご注意

接続していないスピーカーは調整できません。

2 Level＋/－ボタンを押して、音量を調整する

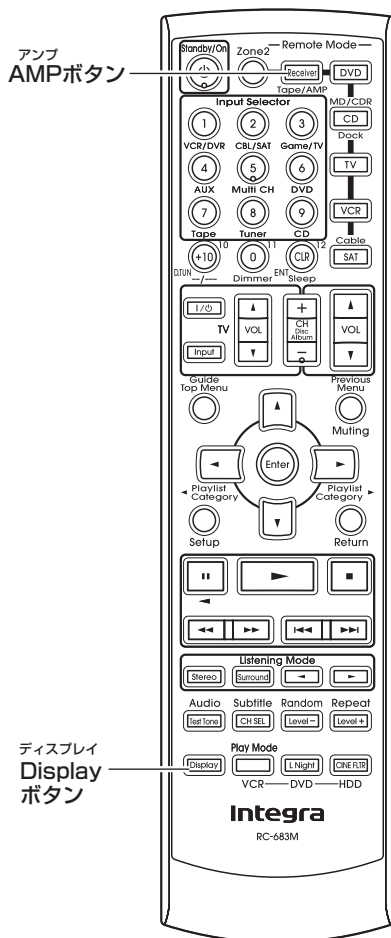
スピーカーは－12dB～＋12dBの範囲で調整できます。
サブウーファーは－15dB～＋12dBの範囲で調整できます。

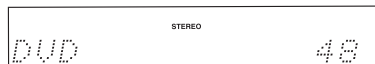
低音、高音（Bass、Treble）を調整する

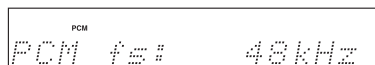
「Direct」、以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。

1 Toneボタンをくり返し押して、「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ

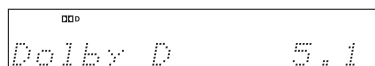
2 Tone＋/－ボタンを押して、レベルを調整する

お買い上げ時は「0」ですが、－10dB～＋10dBの範囲内で2dBずつ調整できます。

表示を確認する

● 入力信号がアナログのとき

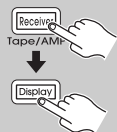
入力ソースと音量 ←→ リスニングモード

● 入力信号がPCMのとき

入力ソースと音量 → サンプリング周波数* → 入力ソースと リスニングモード → サンプリング周波数*

● 入力信号がPCM以外のデジタル信号のとき

入力ソースと音量 → 入力信号とフォーマット* → 入力ソースと リスニングモード → 入力信号と フォーマット*

* 入力信号にプログラム情報がないときは、表示されません。サンプリング周波数やフォーマット表示状態で、約3秒経過すると、元の表示に戻ります。

● 入力信号がAACの音声多重放送（2ヶ国語放送など）のとき

入力ソースと音量 → 入力信号と音声の数 → 入力ソースと 選択音声 → 入力信号と 音声の数

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから、Display（ディスプレイ）ボタンを押す

本体のDisplayボタンでも操作できます。

- 入力されている信号により、表示される内容は異なります。
- Displayボタンを押すたびに、表示内容が右記のように切り換わります。

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護されたDVDなどはデジタル録音・録画できません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- DIGITAL IN（COAXIAL）、（OPTICAL）の入力端子から入力されたデジタル信号は、DIGITAL OUT（OPTICAL）の出力端子からのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力のみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- 録音・録画中に再生側の入力を切り換えると、新しく選択された入力が録音・録画されます。
- DTS対応のCDやLDをアナログ録音すると、DTS信号はノイズとして録音されることになります。
- VCR/DVR IN端子に入力された映像や音声は、VCR/DVR OUT端子に出力されません。また、TAPE IN端子に入力された音声は、TAPE OUT端子に出力されません。これは出力と入力にループができて故障するのを防ぐためです。

再生しながら録音・録画する

現在再生中の音楽や映画を録音・録画します。

1 入力切換ボタンを押して録音・録画する機器（再生側）を選ぶ

2 録音・録画する機器（録画側）の準備をする

- 録音・録画する機器を録音・録画待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録音・録画機器で行ってください。
- 録音・録画のしかたについては、録音・録画機器の取扱説明書をご覧ください。

3 録音・録画を始める

手順***1*** で選んだ再生機器を再生します。

異なるソースの音楽と映像を録音･録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD端子に接続したCDプレーヤーの音声とAUX Input端子に接続したビデオカメラの映像をVCR/DVR OUT端子に接続したビデオデッキで録音･録画する例です。

1 録音する機器（再生側）の準備をする

例：AUX Input端子に接続したビデオカメラにテープをセットする

2 VCR/DVR OUT端子に接続したビデオカメラにテープをセットする

3 入力切換ボタンの「AUX」を押す

4 入力切換ボタンの「CD」を押す

音声出力はCDに変わりますが、映像出力は手順***3*** で選んだAUXのまま変わりません。VCR/DVR OUT端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、AUX Input端子に接続したビデオカメラとCDプレーヤーの再生を始めます。
映像はビデオカメラから録画し、音声はCDプレーヤーから録音されます。

ご注意

この方式で録音できるのはTUNER、TAPE、CD端子に接続した機器の音声のみです。

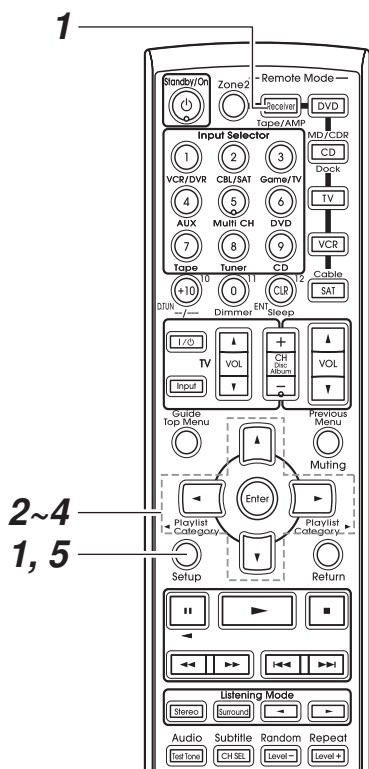
音響効果を調整する

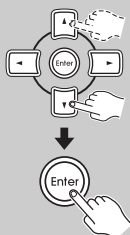
リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに調整しておくことができます。

1

AMPボタンを押してから
Setupボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して
「3. Audio Adjust」を選び、
Enterボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、Enterボタンを押す

設定画面が表示されます。

4

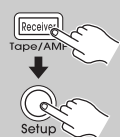
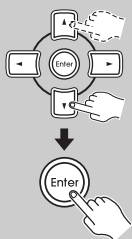
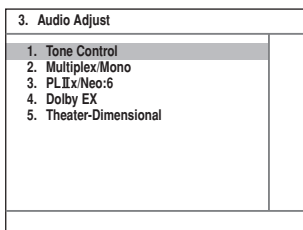
▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで調整する

5

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「Direct」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。

Front Bass

フロントスピーカーの低音の音質を、−10dB〜+10dBの範囲内で2dBずつ調整できます。

（お買い上げ時の設定は「0」です。）

Front Trable

フロントスピーカーの高音の音質を、−10dB〜+10dBの範囲内で2dBずつ調整できます。

（お買い上げ時の設定は「0」です。）

主音声と副音声を切り換える

Multiplex Input Ch

多重音声や多重言語の放送などで音声や言語を選択します。Displayボタンを押して、表示部に音声の数が「1＋1」と表示されたら音声多重放送です。

- Main：主音声を出力します。（お買い上げ時の設定）
- Sub：副音声を出力します。
- Main/Sub：主音声と副音声の両方を出力します。

Mono時の設定をする

Mono Input Ch

2チャンネルで収録された入力信号を「Mono」リスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

- L＋R：左右チャンネルの信号を両方再生します。（お買い上げ時の設定）
- L：左チャンネルの信号を再生します。
- R：右チャンネルの信号を再生します。

PLIIx Music/Neo:6 Music時の音質を調整する

ご注意

- 2チャンネル収録された入力信号のみに効果があります。
- スピーカーを2チャンネル（左右フロントスピーカーのみ）に設定しているときは、設定できません。

Panorama

前方の音場を横方向に広げることができます。
お買い上げ時の設定は「Off」に設定されています。

- On：パノラマ効果をオンにします。
- Off：パノラマ効果をオフにします。

Dimension

音場を前方または後方へ移動させることができます。
お買い上げ時の設定は「0」に設定されています。

！ヒント

- 「0」を中心に、＋1、＋2、＋3にすると後方へ、－1、－2、－3にすると前方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は音場を前方に調整するとバランスが良くなります。 逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は音場を後方に調整するとバランスが良くなります。

Center Width

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic II/Dolby Pro Logic IIxでは、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）
この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。お買い上げ時の設定は「3」ですが、0〜7の範囲で選択できます。

Center Image

サラウンドスピーカーを接続していないときは、設定できません。
「DTS Neo:6 Music」は、2チャンネルで収録されたソースを6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。お買い上げ時の設定は「2」ですが、0〜5の範囲で選択できます。

！ヒント

- 「0」は左右のチャンネルから半分（－6dB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に効果的です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

Dolby EX信号の再生方法を設定する

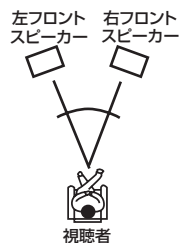
Dolby EX

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、設定できません。この設定は、ドルビーデジタルとドルビーデジタルプラスにのみ効果があります。

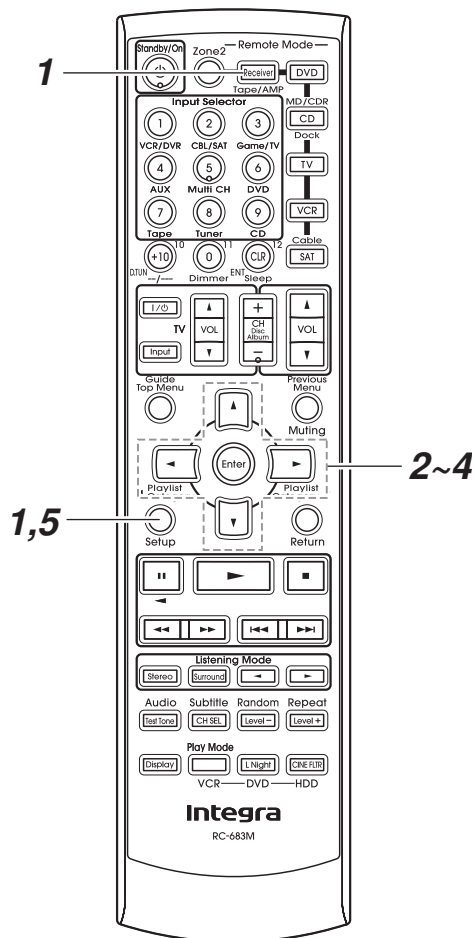
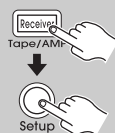
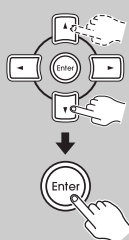
- Auto：ドルビーデジタルの6.1チャンネル識別信号があるときは、リスニングモードがDolby EXに切り換わります。（お買い上げ時の設定）
- Manual：選択可能なすべてのリスニングモードを選ぶことができます。

シアターディメンショナル時の調整をする（Theater-Dimensional）

Listening Angle

視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度を設定します。シアターディメンショナルはこの角度をもとにバーチャル処理を行います。左右フロントスピーカーから等距離で、かつ選択したリスニングアングルに近い視聴位置が理想です。Wide(広い)とNarrow(狭い)のどちらかを選べます。
お買い上げ時の設定はWideです。

入力ソースの設定をする

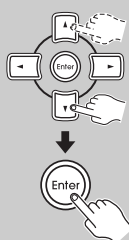
よく使うリスニングモードを設定しておく

入力される信号によって、よく使うリスニングモードを設定しておくことができます。
再生中にリスニングモードを切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると設定されたリスニングモードに戻ります。

1

AMPボタンを押してから
Setupボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる

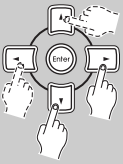
2

▲/▼ボタンを押して
「5. Listening Mode Preset」
を選び、Enterボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して
入力ソースを選び、
Enterボタンを押す

設定画面が表示されます。

4

▲/▼ボタンを押して「設定したい信号の種類」を選び、◀/▶ボタンでリスニングモードを選ぶ

選択できるリスニングモードは設定する入力信号によって異なります。

- 「Last Valid」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

Analog/PCM：
CDなどのPCM信号やレコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

Dolby Digital：
ドルビーデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DTS：
DTS信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

AAC：
AAC信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

D. F. 2ch：
2チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

D. F. Mono：
モノラルで記録されたドルビーデジタル、AACなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

Multich PCM：
HDMI IN端子から入力したDVDオーディオなどのマルチチャンネルPCM信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

192k/176. 4k：
DVDオーディオなど、サンプリング周波数が176.4/192kHzの信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

Dolby TrueHD：
HDMI IN端子から入力したブルーレイやHD DVDなどのドルビーTrueHD信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DTS-HD Master Audio：
HDMI IN端子から入力したブルーレイやHD DVDなどのDTS-HD Master Audio信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

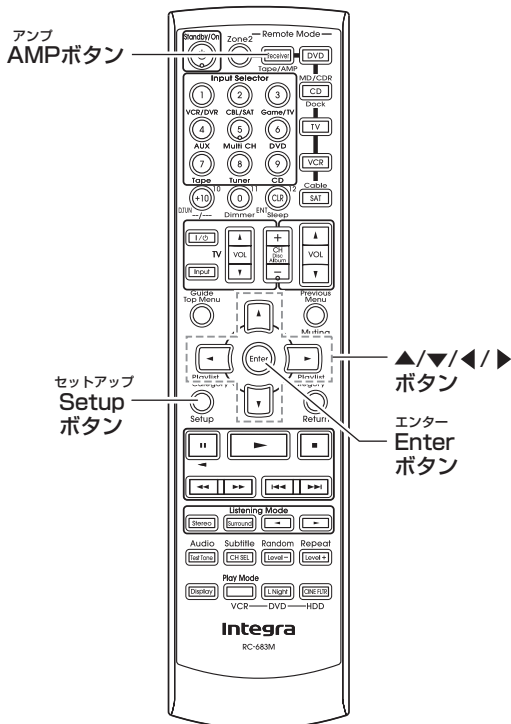
5

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

スピーカーの設定をする

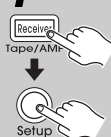
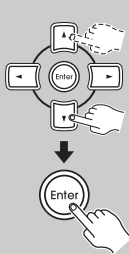
この中の多くのメニューは自動スピーカー設定（39ページ）で自動設定されています。自動スピーカー設定のあとに使用するスピーカーを変更した場合や手動で設定したい場合、自動スピーカー設定で設定された内容を確認するときに使用します。
ヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

スピーカーの設定

49ページの「スピーカーの設定」を見てください。

スピーカー環境の設定

自動スピーカー設定(☞39ページ)を行った場合は、自動で設定されています。

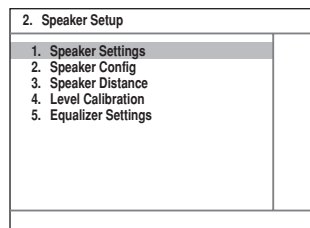
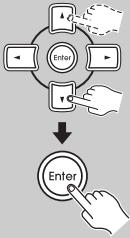
接続したスピーカーの「有/無」と「クロスオーバー周波数」を設定します。
クロスオーバー周波数は、各チャンネルの低音域を何Hzからサブウーファーで出力するか設定しておくことができます。
サブウーファーを接続していないときには、フロントスピーカーが自動的に「Full Band」に設定され、他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。
それぞれのスピーカーのクロスオーバー周波数は、Full Band、40Hz、45Hz、50Hz、55Hz、60Hz、70Hz、80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、130Hz、150Hz、200Hzから選択できます。お手持ちのスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。

1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

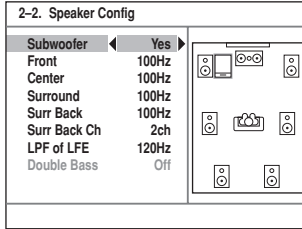
2

▲ / ▼ボタンを押して「2. Speaker Setup」を選び、Enter ボタンを押す

設定画面が表示されます。

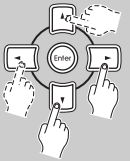
3

▲/▼ボタンを押して「2. Speaker Config（スピーカー環境）」を選び、Enter ボタンを押す

スピーカーコンフィグ設定画面が表示されます。

4

▲/▼ボタンを押して「Subwoofer」を選び、◀/▶ ボタンでサブウーファーの「有/無」を選ぶ

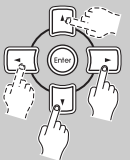
Yes：サブウーファーを接続している場合

No：サブウーファーを接続していない場合

5

▲/▼ボタンを押して「Front」を選び、◀/▶ ボタンでフロントスピーカーのクロスオーバー周波数を選ぶ

ご注意

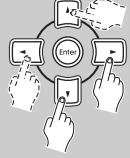
手順*4*で「No」を選択した場合は、「Full Band」に固定されます。

6

▲/▼ボタンを押して「Center」を選び、◀/▶ ボタンでセンタースピーカーの設定をする

センタースピーカーを接続していない場合は「None」を選んでください。

ご注意

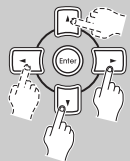
手順*5*で「Full Band」以外を選択した場合は、「Full Band」は選択できません。

7

▲/▼ボタンを押して「Surround」を選び、◀/▶ ボタンでサラウンドスピーカーの設定をする

左右サラウンドスピーカーを接続していない場合は「None」を選んでください。

ご注意

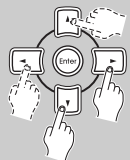
手順*5*で「Full Band」以外を選択した場合は、「Full Band」は選択できません。

8

▲/▼ボタンを押して「Surr Back」を選び、◀/▶ ボタンでサラウンドバックスピーカーの設定をする

サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は「None」を選んでください。

ご注意

- 手順*7*で「None」を選択した場合は、この項目は「None」になります。
- 手順*7*で「Full Band」以外を選択した場合は、「Full Band」は選択できません。

9

▲/▼ボタンを押して「Surr Back Ch」を選び、◀/▶ ボタンでサラウンドバックスピーカーの数を設定する

1ch：接続したサラウンドバックスピーカーが1つの場合（SURR BACK SPEAKERS L端子に接続してください。）

2ch：接続したサラウンドバックスピーカーが2つの場合

ご注意

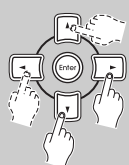
手順*8*で「None」を選択した場合は、この項目は設定できません。

⇒手順*10*に続く

LFEのローパスフィルター設定

この項目は自動スピーカー設定(☞39ページ)では自動で設定されていません。

LFE（低域効果音）信号のローパスフィルターを設定します。ローパスフィルターを設定すると、その設定値よりも低い周波数成分だけを通過させ、不要なノイズを削除することができます。
80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hzから選択できます。

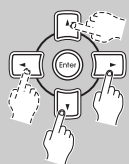
10

▲/▼ボタンを押して「LPF of LFE」を選び、◀/▶ボタンで設定する

⇒手順**11**に続く

Double Bassの設定

この項目は自動スピーカー設定（☞39ページ）では自動設定されていません。

サブウーファーを「Yes（あり）」にしていて、フロントスピーカーを「Full Band」に設定している場合、サブウーファーをさらに強調させることができます。

11

▲/▼ボタンを押して「Double Bass」を選び、◀/▶ボタンで設定する

On：サブウーファーを強調します。
Off：サブウーファーを強調しません。

12

Setupボタンを押す

設定が終了したら、Setupボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るにはReturnボタンを押してください。

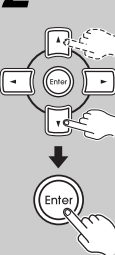
！ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

視聴位置からスピーカーまでの距離設定（スピーカーディスタンス）

自動スピーカー設定（☞39ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

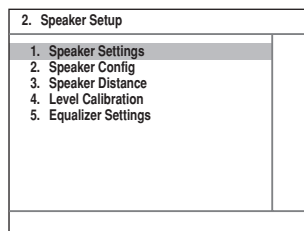
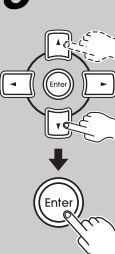
視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

1

AMPボタンを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「2. Speaker Setup」を選び、Enterボタンを押す

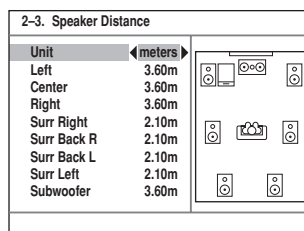
設定画面が表示されます。

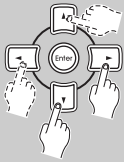
3

▲/▼ボタンを押して「3. Speaker Distance」を選び、Enterボタンを押す

スピーカーディスタンス設定画面が表示されます。

2–3. Speaker Distance

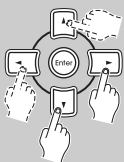
Unit	◀meters▶
Left	3.60m
Center	3.60m
Right	3.60m
Surr Right	2.10m
Surr Back R	2.10m
Surr Back L	2.10m
Surr Left	2.10m
Subwoofer	3.60m

ご注意

「2. Speaker Config（スピーカー環境）」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、選択できません。

4

▲/▼ボタンを押して「Unit（単位）」を選び、◀/▶ボタンで設定する単位を選ぶ

meters：距離をメートルで設定する。0.15m単位で0.3mから9mの範囲で設定できます。

feet：距離をフィートで設定する。0.5ft単位で1ftから30ftの範囲で設定できます。

5

▲/▼ボタンを押して「Left」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

フロントスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

6

手順 *5* をくり返し、接続したすべてのスピーカーの距離を設定する

Center→Right→Surr Right→
Surr Back R→Surr Back L→
Surr Left→Subwoofer

！ヒント

- センタースピーカー、サブウーファーはフロントスピーカーで設定した距離の±1.5mの範囲で調整できます。
- 左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーはフロントスピーカーで設定した距離の−4.5mから＋1.5mの範囲で調整できます。たとえば、フロントスピーカーを6mに設定した場合、1.5mから7.5mの範囲で調整できます。

7

Setupボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったらSetupボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るにはReturnボタンを押してください。

！ヒント

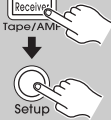
本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

スピーカーの音量レベル調整（レベルキャリブレーション）

自動スピーカー設定（☞39ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。

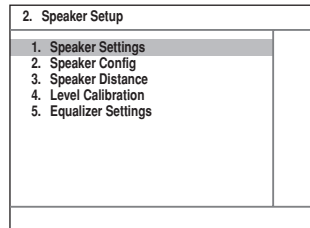
- ミューティング中やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

1

AMPボタンを押してから Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

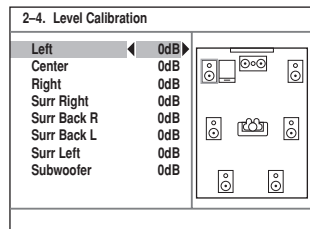
2

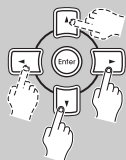
▲/▼ボタンを押して「2. Speaker Setup」を選び、Enterボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「4. Level Calibration」を選び、Enterボタンを押す

レベルキャリブレーション設定画面が表示され、「ザー」というテスト音が左フロントスピーカーより出力されます。

ご注意

「2. Speaker Config（スピーカー環境）」の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、設定できません。

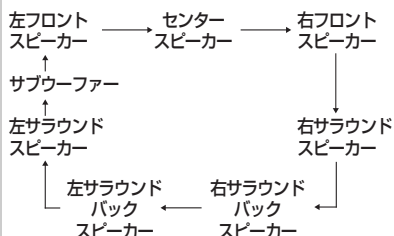
4

▲/▼ボタンでスピーカーを切り換え、◀/▶ボタンを押してテスト音を調整する

すべてのスピーカーのテスト音が同じ音量に聞こえるように調整します。

- －12dB～+12ｄBの範囲で調整できます。
- サブウーファーは－15dB～+12ｄBの範囲内で調整できます。

5

手順 *4* をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテスト音を調整する

6

Setup ボタンを押す

設定が終わり、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSetup（セットアップ）ボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter（エンター）ボタンでも操作することができます。

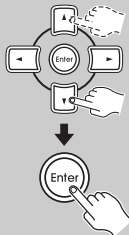
Test Tone（テスト トーン）ボタンでテスト音を出して設定することもできます。

Test Tone（テスト トーン）ボタンを押して、テスト音を出します。
次にLevel（レベル）－/＋ボタンでテスト音を調整し、CH SEL（チャンネルセレクト）ボタンでスピーカーを切り換えます。

スピーカーの音場補正

自動スピーカー設定（☞39ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。各スピーカーの音量は61ページの方法でも調整できます。
ここでは、それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。

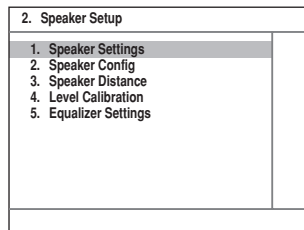
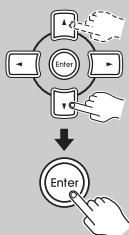
1

AMP（アンプ）ボタンを押してから Setup（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

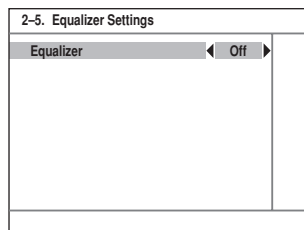
▲/▼ボタンを押して「2. Speaker Setup（スピーカー セットアップ）」を選び、Enter（エンター）ボタンを押す

2. Speaker Setup
1. Speaker Settings
2. Speaker Config
3. Speaker Distance
4. Level Calibration
5. Equalizer Settings

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「5. Equalizer Setting（イコライザー セッティング）」を選び、Enter ボタンを押す

イコライザー設定画面が表示されます。

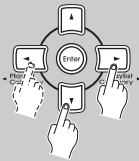
4

◀ / ▶ ボタンを押して「設定」を選ぶ

Off: すべての音域で同じ音場設定になります。

Audyssey: 自動スピーカー設定で設定された音場設定になります。
自動スピーカー設定を行ってから選択してください。

Manual: お好みで設定できます。

「Manual」を選んだ場合は、手順***5*** に進みます。「Off」または「Audyssey」を選んだ場合は、手順***8*** に進みます。

5

▼ボタンを押し、◀ / ▶ ボタンを押して「Channel」を選ぶ

6

▲ / ▼ボタンで「調整したい音域（周波数）」を選び、◀ / ▶ ボタンで調整する

−6dB〜+6dBの範囲で調整できます。

！ヒント

80Hzなど、低い周波数は低音域、8000Hzなどの高い周波数は高音域を表します。

7

▲ボタンを押して「Channel」を選び、◀ / ▶ ボタンで「スピーカー」を選ぶ

手順***6, 7***をくり返し、接続したすべてのスピーカーを設定します。

8

Setup ボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったらSetupボタンを押します。メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るにはReturnボタンを押してください。

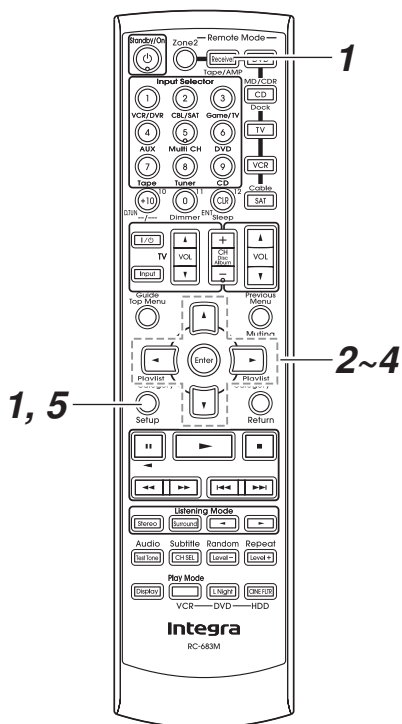
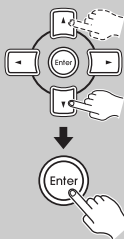
！ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀ / ▶ ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

ご注意

Directのリスニングモードのときは、効果がありません。
入力ソースやリスニングモードによっては、有効にならないことがあります。

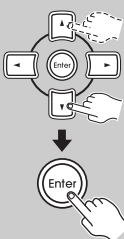
音量設定/OSD設定をする

ボリューム設定

1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

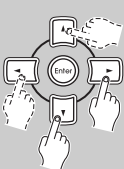
2

▲/▼ボタンを押して「6. Miscellaneous」を選び、Enter ボタンを押す

ミセレニアウスメニューが表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「1. Volume Setup」を選び、Enter ボタンを押す

ボリュームセットアップメニューが表示されます。

4

▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ ボタンで選択する

Maximum Volume/Zone2 Maximum Volume：

音量が大きくなり過ぎないように、メインルームと別室の音量の最大出力レベルを設定することができます。
50～99の範囲内で設定できます。
設定しないときは「Off」を選びます。

Power On Volume/Zone2 Power On Volume：

本機の電源を入れたときのメインルームと別室の音量を一定に設定しておくことができます。
MIN･1･2…99･MAXの範囲内で設定できます。
ただし、Maximum Volumeを設定している場合は、その値までしか設定できません。
本機をスタンバイ状態にする前の音量をそのまま残したい場合は「Last」を選びます。

Headphone Level：

スピーカーで聞くときとヘッドホンで聞くときの音量に差がある場合、ヘッドホンの音量を微調整しておくことができます。
－12dB～＋12dBの範囲で調整できます。

5

Setup ボタンを押す

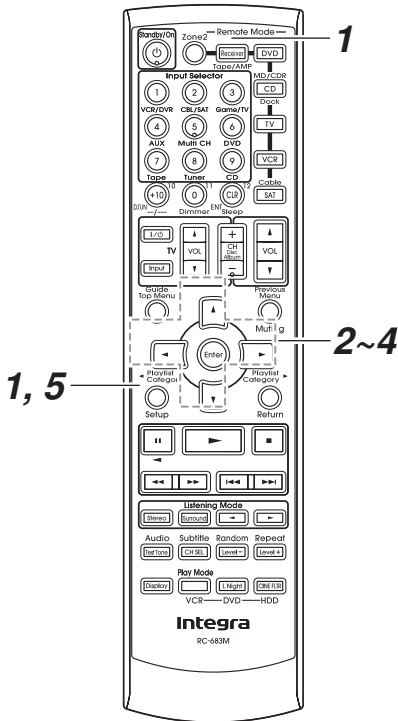
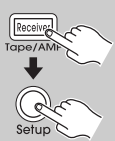
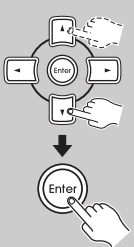
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

ご注意

「Maximum Volume」、「Power On Volume」は、スピーカーの音量調整をした場合に、最大値が変わることがあります。

OSDの設定

1

2~4

1, 5

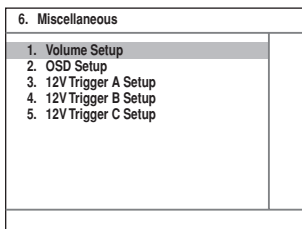
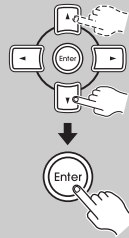
1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

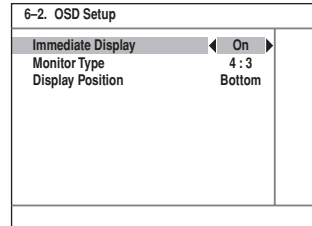
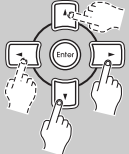
2

▲ / ▼ボタンを押して「6. Miscellaneous」を選び、Enter ボタンを押す

ミセレニアウスメニューが表示されます。

3

▲ / ▼ボタンを押して「2. OSD Setup」を選び、Enter ボタンを押す

OSDセットアップメニューが表示されます。

4

▲ / ▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀ / ▶ ボタンで選択する

Immediate Display：

本機を操作したときに、操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。（COMPONENT VIDEO入力端子、D4 VIDEO入力端子、HDMI入力端子に接続しているときは、操作内容は表示されないときがあります。）

On ：表示します。
（お買い上げ時の設定）

Off ：表示しません。

Monitor Type：

操作内容の表示がテレビ画面からはみ出たり、伸びて映っている場合は、お持ちのテレビに合わせて設定してください。）

4：3 ：ご使用のテレビが4：3のとき選択します。
（お買い上げ時の設定）

16：9 ：ご使用のテレビが16：9のとき選択します。

Display Position：

操作内容の表示をテレビ画面のどの位置に表示させるかを設定します。

Bottom ：画面の下方に表示します。
（お買い上げ時の設定）

Top ：画面の上方に表示します。

5

Setup ボタンを押す

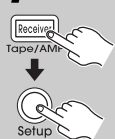
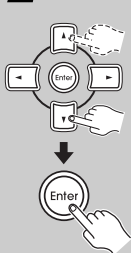
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀ / ▶ ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

ハードウェアの設定をする

本機のリモコンコードを変更する

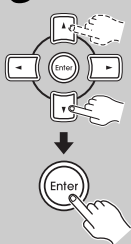
1

AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲ / ▼ボタンを押して「7. Hardware Setup」を選び、Enter ボタンを押す

ハードウエアセットアップメニューが表示されます。

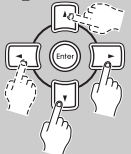
7. Hardware Setup
1. Remote Control
2. Zone2
3. Analog Multich
4. HDMI

3

▲ / ▼ボタンを押して「1. Remote Control」を選び、Enter ボタンを押す

リモートコントロールメニューが表示されます。

7–1. Remote Control

Remote ID ◀ 1 ▶

4

▲ / ▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀ / ▶ ボタンで選択する

Remote ID：
インテグラ/オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のインテグラ/オンキヨー製品と区別をつけるために、リモコンコードを変更することができます。
お買い上げ時は、本体、リモコンともに「1」に設定されています。

5

Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

本体のSetupボタン、▲/▼/◀ / ▶ ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

ご注意

リモコン側も本体と同じリモコンコードに設定する必要があります。（☞79ページ）

マルチチャンネル再生時の設定をする

Subwoofer Input Sensitivity

DVDプレーヤーによっては、マルチチャンネル出力時にLFE（低域効果音）チャンネルが15dB高く出力されるものがあり、サブウーファーの音量が大きくなることがあります。
この設定では、ご使用になるDVDプレーヤーのマルチチャンネル時の出力レベル設定に合わせた調整を行うことにより、適切な音量バランスでのマルチチャンネル再生が可能となります。

1

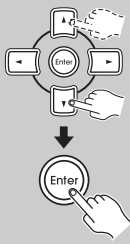
AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

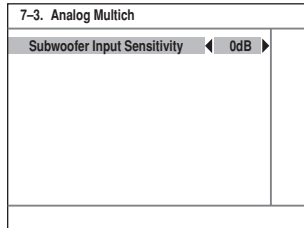
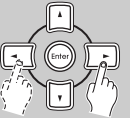
2

▲ / ▼ボタンを押して「7. Hardware Setup」を選び、Enter ボタンを押す

ハードウエアセットアップメニューが表示されます。

7. Hardware Setup
1. Remote Control
2. Zone2
3. Analog Multich
4. HDMI

3

▲/▼ボタンを押して「3. Analog（アナログ） Multich（マルチチャンネル）」を選び、Enter ボタンを押す

アナログマルチチャンネルメニューが表示されます。

4

◀/▶ ボタンで数値を選択する

0（お買い上げ時の設定）、5、10、15dBから選択できます。
サブウーファーの音量が大きすぎる場合は、10dBや15dBを選んでください。

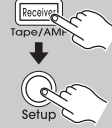
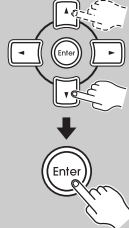
5

Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

本体のSetup（セットアップ）ボタン、▲/▼/◀/▶ ボタン、Enter（エンター）ボタンでも操作することができます。

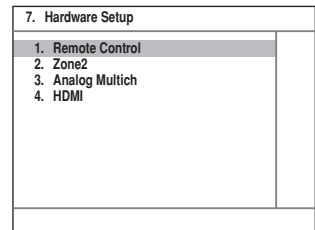
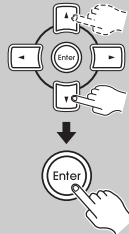
HDMIの設定

1

AMP（アンプ） ボタンを押してから Setup（セットアップ） ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

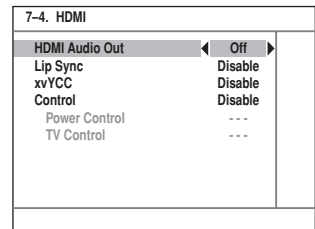
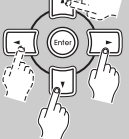
2

▲/▼ボタンを押して「7. Hardware（ハードウェア） Setup（セットアップ）」を選び、Enter（エンター） ボタンを押す

ハードウエアセットアップメニューが表示されます。

3

▲/▼ボタンを押して「4. HDMI（エイチディーエムアイ）」を選び、Enter ボタンを押す

HDMIメニューが表示されます。

4

▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ ボタンで選択する

5

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体のボタン、▲/▼/◀/▶ ボタン、Enter（エンター）ボタンでも操作することができます。

HDMI Audio Out

HDMI端子から音声出力を「する/しない」の設定ができます。本機のHDMI OUT端子とテレビのHDMI入力端子を接続していて、テレビのスピーカーから音声を聞きたいときなどに設定します。通常は「Off」にしておいてください。入力信号やテレビによっては、Onにしても音が出ない場合があります。

Off：出力しません。（お買い上げ時の設定）
On：出力します。

ご注意

- HDMI Audio Outの設定が「On」で、テレビから音声が出ている場合は、スピーカーから音声が出ません。
- TV Controlの設定が「Enable」の場合は、「Auto」になります。

Lip Sync

接続したモニターからの情報により、映像と音声のズレを本機で自動的に補正するかどうかを設定します。

Disable：自動では補正しません。
Enable ：自動的に補正します。

ご注意

- リップシンク機能はHDMIリップシンク対応のテレビに接続している場合にのみ動作します。
- リップシンク機能によって補正される遅延時間を、A/V Syncメニューで確認することができます。（☞81ページ）

xvYCC

xvYCC対応のソースやモニターをHDMI接続したときに「Enable」に設定すると、色の表現力が向上します。

Disable：xvYCCを使用しません。
Enable ：xvYCCを使用します。

ご注意

- 「Enable」にして色がおかしくなる場合は、「Disable」に設定してください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

Control

本機とHDMI接続したCEC規格対応機器や RIHD 対応機器と連動動作するかどうかを設定します。

Disable：HDMI Controlを使用しません。
Enable ：HDMI Controlを使用します。

ご注意

- 接続機器が対応していない場合や、対応しているかどうか分からない場合は「Disable」に設定してください。
- 「Enable」に設定して、おかしな動作をする場合は「Disable」にしてください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

■Power Control

HDMIで接続されたCEC規格対応機器や RIHD 対応機器と、電源連動させたい場合に「Enable」に設定してください。ただし、接続機器が対応していない場合や接続機器の設定の状態によっては連動しない場合があります。

Disable：Power Controlを使用しません。
Enable ：Power Controlを使用します。

ご注意

- Power Controlの設定は、Controlの設定が「Enable」の場合に変更できます。
- Power Controlは、HDMI Power Control機能に対応した機器に接続している場合にのみ動作します。
- 本機をスタンバイ状態にするとレディ状態になります。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

■TV Control

HDMI接続した RIHD 対応テレビから、本機をコントロールしたいときに「Enable」にします。

Disable：TV Controlを使用しません。
Enable ：TV Controlを使用します。

ご注意

- テレビが対応していない場合や、対応しているかどうか分からないときは、「Disable」に設定してください。
- TV Controlの設定は、ControlとPower Controlの両方の設定が「Enable」の場合に変更できます。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

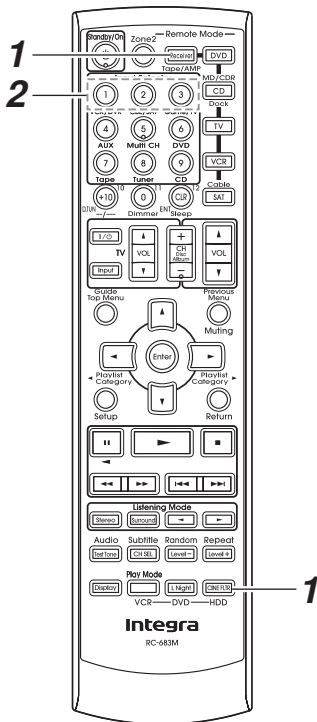
- Control、Power Control、TV Controlの設定を変更したあとは、すべての接続機器の電源を一度オフにして、再度入れ直してください。また、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- HDMI Audio Outを「On」に設定した場合、またはTV Controlを「Enable」に設定し、テレビから音声を鳴らす場合、本機のボリュームを操作すると、本機につながれたスピーカから音が出るようになります。本機の音を消したいときは、もう一度セットアップ操作やテレビの操作をやり直すか、ボリュームを最小にしてください。

リモコンのリモコンコードを変更する

インテグラ/オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のインテグラ/オンキヨー製品と区別をつけるためにリモコンコードを変更することができます。

ご注意

本体側もリモコンと同じリモコンコードに設定する必要があります。（☞76ページ）お買い上げ時は本体、リモコンともに「1」に設定されています。

1

AMPボタンとCINE FITRボタンを同時に押し続ける

AMPボタンが点灯します。

2

設定したいコードの数字ボタンを押す

1〜3から選べます。

デジタル入力モードをDTS、PCMに固定する

デジタル入力端子が設定されていない入力ソースの場合は設定できません（Analogと表示されます）。（☞48ページ）
DTSやPCM信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力をDTSまたはPCMに固定することができます。

1

入力切換ボタンを押して、設定したい「入力」を選ぶ

2

リモコンのEnterボタンを3秒以上押し続ける

表示部に現在の入力モード「Auto」が表示されます。

3

「Auto」表示中にリモコンのEnterボタンを（くり返し）押して、デジタル入力モードを設定する

Auto：
デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

PCM：
AutoでCDなどのPCMの曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM以外の音声が入力されても音は出ません。

DTS：
AutoでDTS-CDを再生するとき、DTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS以外の音声が入力されても音は出ません。

ご注意

DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択すると、ノイズが出力されます。

ソースの設定をする

機器間の音量差を減らす（IntelliVolume）

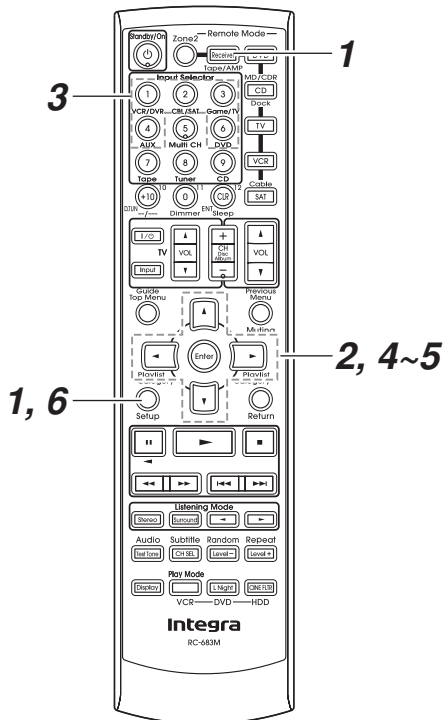
1

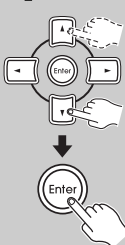
AMP ボタンを押してから Setup ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

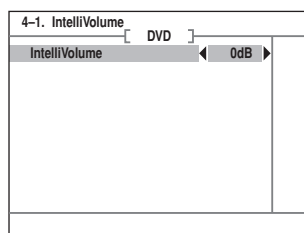
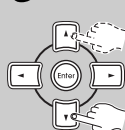
2

▲ / ▼ボタンを押して「4. Source Setup」を選び、Enter ボタンを押す

ソースセットアップメニューが表示されます。

3

Input Selector ボタンで入力ソースを選ぶ

4

▲ / ▼ボタンを押して「1. IntelliVolume」を選び、Enter ボタンを押す

インテリボリュームメニューが表示されます。

5

▲ / ▼ボタンを押して、他の機器と比べて音量差がある場合は調整する

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。この画面を表示させたまま、入力ソースを切り換えて音量を聞き比べながら設定すると便利です。

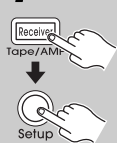
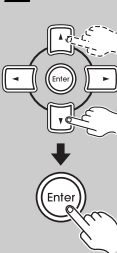
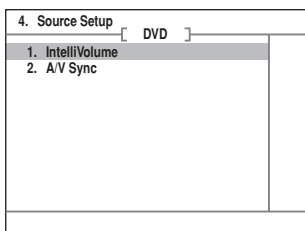
- −12dB〜+12dBの範囲の調整できます。

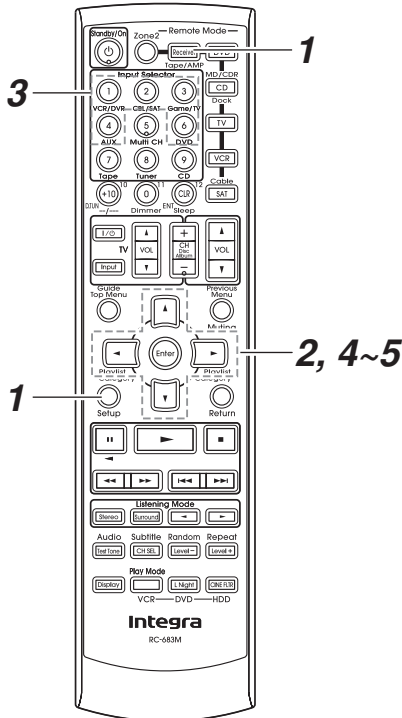
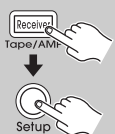
ご注意

この設定はゾーン2には効果がありません。

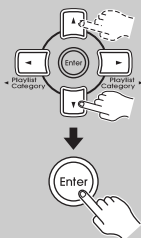
6

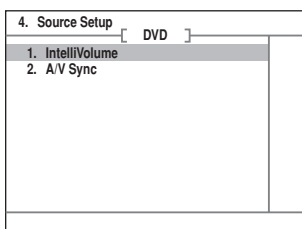
Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

本体のSetupボタン、▲/▼/◀ / ▶ ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

映像と音声の再生にズレがあるとき

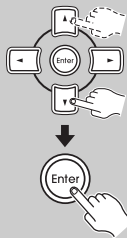
映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で映像信号と音声信号を同期させることができます。0～100ms（ミリセカンド：千分の1秒）の範囲を2msステップで、音声の遅延を調整することができます。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから Setup（セットアップ）ボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

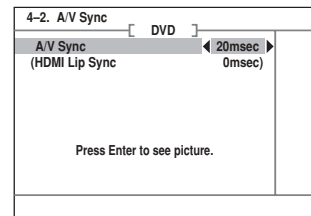
2

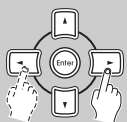
▲/▼ボタンを押して「4. Source（ソース） Setup（セットアップ）」を選び、Enter（エンター）ボタンを押す

ソースセットアップメニューが表示されます。

3

調整したい入力の入力切換ボタンを押す

本体の表示部が設定画面に切り換わります。

4

▲/▼ボタンを押して「2. A/V Sync」を選び、Enter ボタンを押す

A/Vシンクメニューが表示されます。

HDMI Lip Syncの設定が「Enable」で（☞91ページ）、ご使用のテレビやモニターがHDMI Lip Sync機能対応の場合、HDMI Lip Syncの遅延時間が（ ）内に表示されます。

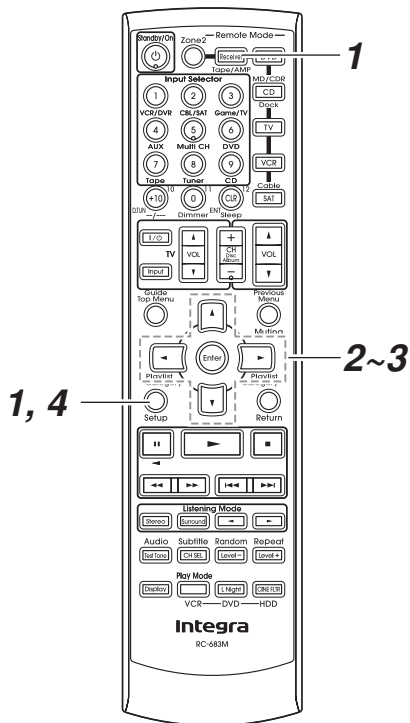
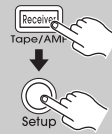
5

Enter ボタンを押して、◀/▶ ボタンで設定を調整する

再生される映像を見ながら調整します。0～100msの範囲を2msステップで調整できます。映像と音声が同期するように、音声の遅延を調整してください。

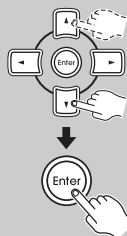
！ヒント

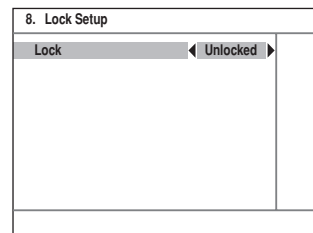
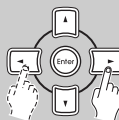
リモコンの入力切換ボタンを使って、A/V Syncの設定を調整することもできます。
調整したい入力の入力切換ボタンを約5秒以上押し続けると、本体表示部が設定画面に切り換わります。◀/▶ボタンで設定を調整します。

A/VSync: 20msec

設定した内容をロック（ロック）する（Lock Setup（ロック セットアップ））

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから
Setup（セットアップ）ボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して
「8. Lock Setup（ロック セットアップ）」を選び、
Enter（エンター）ボタンを押す

ロックセットアップメニューが表示されます。

3

◀/▶ ボタンで選択する

誤って設定を変更してしまわないように、設定したメニューにロックをかけることができます。

Locked（ロックド）：
ロックをかけます。ロックをかけておくと、設定操作はできません。

Unlocked（アンロックド）：
設定操作にロックをかけません。
（お買い上げ時の設定）

4

Setup

Setup ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

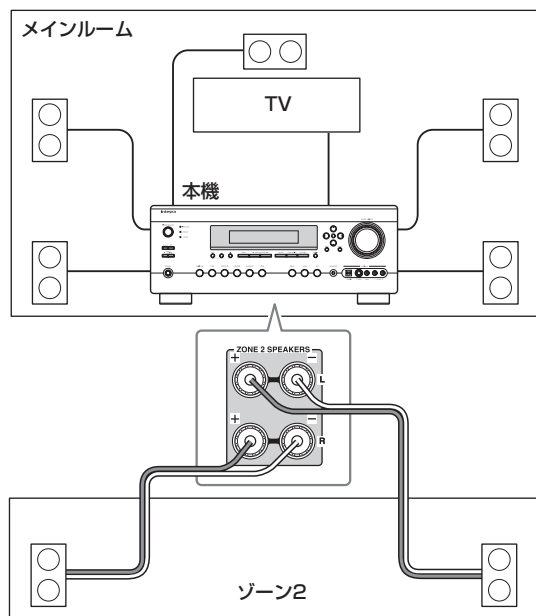
本体のSetup（セットアップ）ボタン、▲/▼/◀/▶ ボタン、Enter（エンター）ボタンでも操作することができます。

ゾーン2（別室）で音楽を鑑賞する

別室用のスピーカーやアンプを接続してゾーン2（別室）で異なるソースをお楽しみいただくことができます。
別室でお楽しみいただくには、2つの方法があります。

接続と設定のしかた

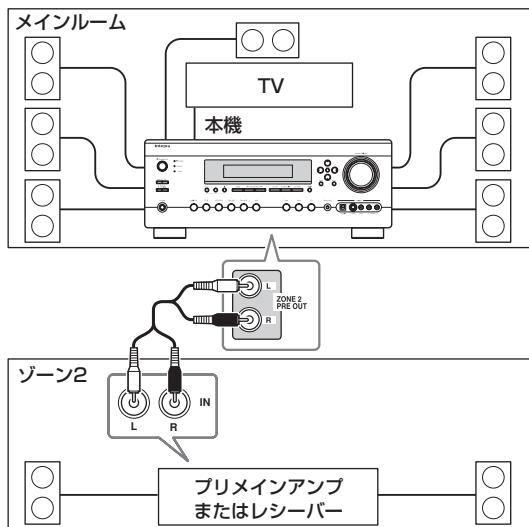
スピーカーだけを接続する場合

- メインルームで5.1チャンネル再生をしながら、別室で異なるソースを再生できます。
- 音量は本機で調整します。

1 ゾーン2用のスピーカーを本機のZONE（ゾーン） 2 L/R SPEAKERS（スピーカー）端子に接続する

2 セットアップメニューの設定をする

Powerd（パワード） Zone2（ゾーン）の設定を「Act（アクト）」にします。（☞84ページ）

プリメインアンプまたはレシーバーを接続する場合

- メインルームで7.1チャンネル再生をしながら、別室で異なるソースを再生できます。
- 音量は別室で使用するプリメインアンプまたはレシーバーで調整してください。

1 ゾーン2用のプリメインアンプまたはレシーバーを本機に接続する

本機のZONE（ゾーン） 2 PRE OUT（アウト） L/R端子にプリメインアンプまたはレシーバーの音声入力端子を接続します。

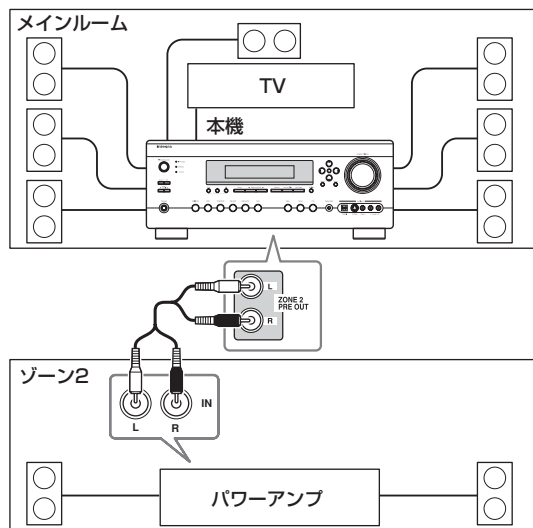
2 ゾーン2用のスピーカーをプリメインアンプまたはレシーバーに接続する

3 セットアップメニューの設定をする

Zone2（ゾーン） Out（アウト）の設定を「Fixed（フィックスド）」にします。（☞85ページ）

ゾーン2（別室）で音楽を鑑賞する

パワーアンプを接続する場合

- メインルームで7.1チャンネル再生をしながら、別室で異なるソースを再生できます。
- 音量はパワーアンプ側でなく、本機で調整します。

1 ゾーン用のパワーアンプを本機に接続する

本機のZONE 2 PRE OUT L/R端子にパワーアンプの音声入力端子を接続します。

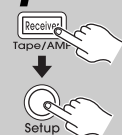
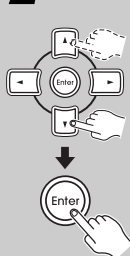
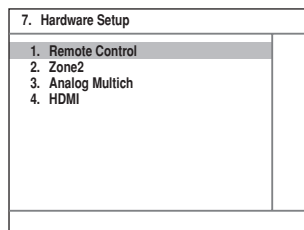
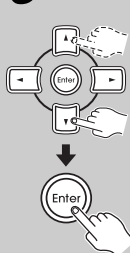
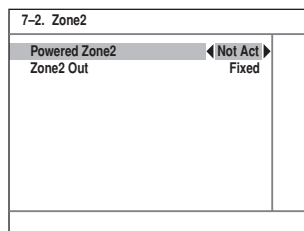
2 ゾーン2用のスピーカーをパワーアンプに接続する

3 セットアップメニューの設定をする

Zone2 Outの設定を「Variable」にします。（☞85ページ）

Powerd Zone 2 の設定をする

ZONE 2 SPEAKERS端子にゾーン2用のスピーカーを接続したときは、この設定を「Act」にします。

1 AMPボタンを押してから
Setupボタンを押して、
「メインメニュー」を表示させる

2 ▲/▼ボタンを押して
「7. Hardware Setup」を
選び、Enterボタンを押す

3 ▲/▼ボタンを押して
「2. Zone2」を選び、
Enterボタンを押す

4 ▲/▼ボタンで
「Powerd Zone2」を選び、
◀/▶ボタンで設定を選ぶ

Not Act：
ゾーン2スピーカーは働きません。

Act：
ゾーン2スピーカーが働きます。
ゾーン2が「オフ」になっているときは、サラウンドバックスピーカーが働きます。

5

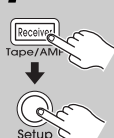
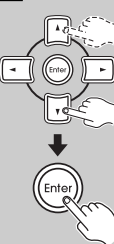
Setupボタンを押す

設定が終了します。

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

Zone 2 Outの設定をする

ZONE 2 PRE OUT端子に音量調整機能の無いパワーアンプを接続したときは、この設定を「Variable」にします。

1

AMPボタンを押してから Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「7. Hardware Setup」を選び、Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「2. Zone2」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンで「Zone2 Out」を選び、◀/▶ボタンで設定を選ぶ

Fixed：
ZONE 2 PRE OUT端子は音量固定出力になりますので、ゾーン2（別室）の音量はゾーン2用のアンプで調整します。

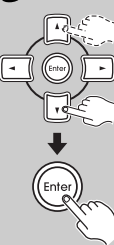
Variable：
ZONE 2 PRE OUT端子は音量可変出力になりますので、ゾーン2（別室）の音量は本機で調整します。

5

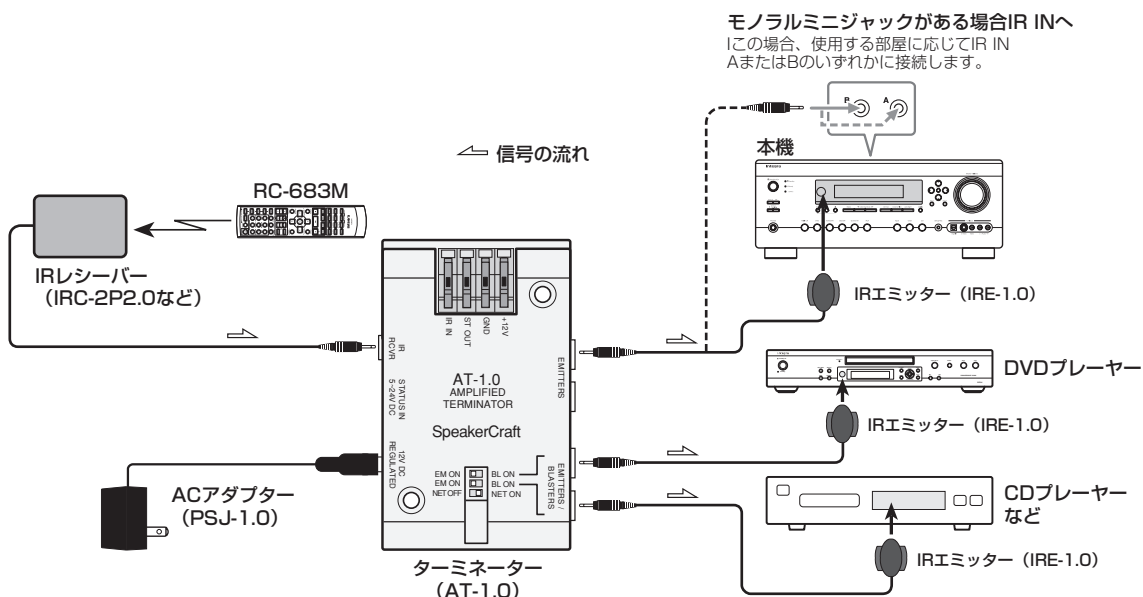
Setupボタンを押す

設定が終了します。

！ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

リモコン信号が届かない場合は（マルチルームでリモコンを操作する）

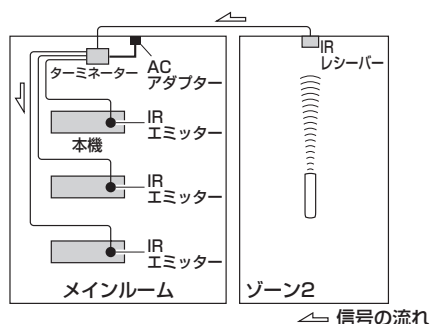
市販のマルチルームキットなどを使用して、本機にリモコン信号が届かない場所からでもリモコン操作をすることができます。別室でホームシアターを楽しんだり、機器をキャビネットに収納している場合などにご利用ください。
ここではスピーカークラフト社の赤外線コントロールシステムをご使用になった場合の例で説明します。
同セットには取扱説明書を同梱しておりますが、取り付けにあたっては壁内配線などを要する場合もございますので、同セット取り扱いのカスタムインストールができる販売店への依頼をお勧めいたします。
※マルチルーム用のキットによっては本機のIR IN/OUT端子をご使用いただくことができます。その場合はマルチルームキットの説明書にしたがい、接続・設定をしてください。

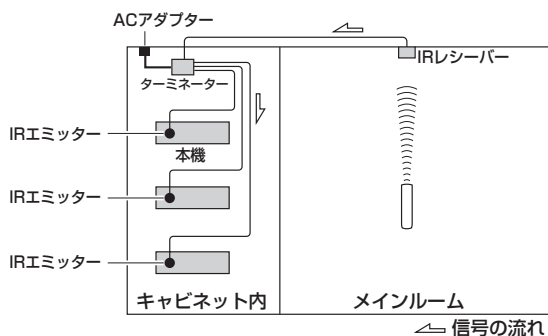
接続例

■別室で使用する場合

1. リモコンを使用する部屋にIRレシーバーを設置し、IRエミッターのエミッター側（赤外線を発射する部分）を機器のリモコン受光部に取り付けます。

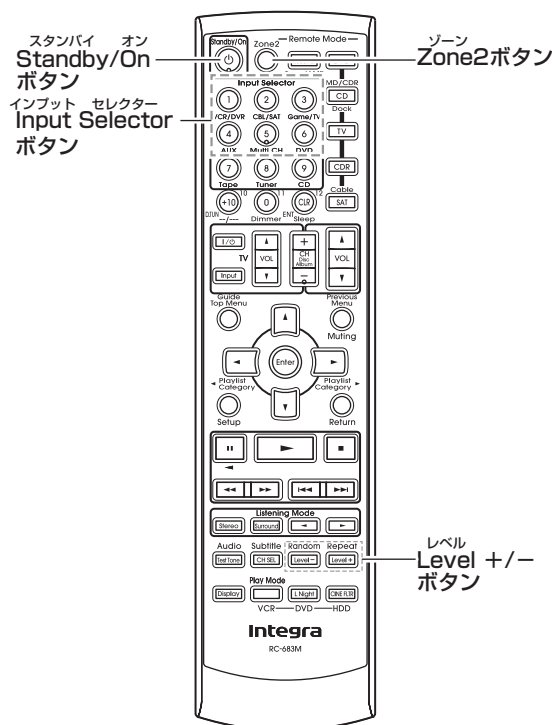
！ヒント

モノラルのミニジャックケーブルがある場合は、IRエミッターを取り付ける代わりにミニジャックの片方をターミネーターに接続し、もう一方を本機のIR IN端子に接続してもかまいません。

2. ターミネーターに、IRレシーバーとIRエミッターを接続し、ターミネーターのスイッチを適切な位置に合わせます。（システムに添付の取扱説明書等をご覧ください。）電源アダプターをターミネーターに接続します。

■キャビネットなどの中に入れて使用する場合

1. リモコン信号を受信しやすい場所にIRレシーバーを設置し、IRエミッターをキャビネット内に取り付けます。取り付けについての詳細は添付の取扱説明書等をご覧ください。
2. ターミネーターに、IRレシーバーとIRエミッターを接続し、ターミネーターのスイッチを適切な位置に合わせます。（システムに添付の取扱説明書等をご覧ください。）電源アダプターをターミネーターに接続します。

別室で音楽を鑑賞する

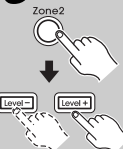
- ゾーン2では、デジタル信号の再生はできません。アナログ信号のみ再生できます。
- ZONE 2 SPEAKERS端子にゾーン2用のスピーカーを接続しているときは、メインルームでサラウンドバックスピーカーを使用するリスニングモード（Dolby EXなど）は選べません。
- ゾーン2が働いているときは、RI 連動機能は働きません。
- メインルームとゾーン2（別室）でラジオを聞くときは、異なるバンドは選べません。（どちらもFMまたはどちらもAMになります。）

リモコンで操作する

1 ゾーン2の電源を入れる

Zone 2ボタンを押してから、Standby/Onボタンを押します。

Zone 2インジケーターが点灯します。

2 ソースを選ぶ

Zone 2ボタンを押してから、Input Selecorボタンを押します。

3 音量を調整する

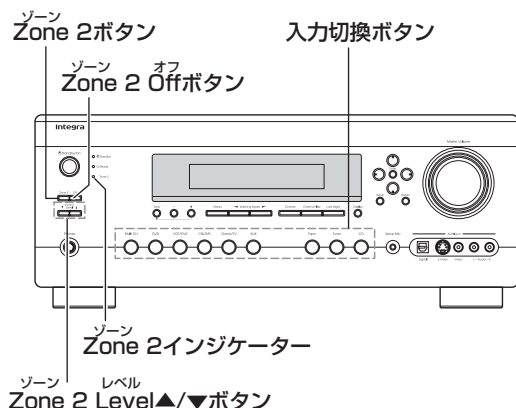
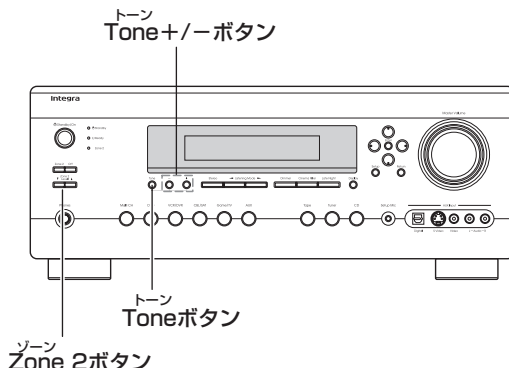
Zone 2ボタンを押してから、Level＋/－ボタンを押して調整します。

音量は、MIN、1～99、MAXの範囲で調整できます。

ご注意

- プリメインアンプまたはレシーバーを接続している場合は、接続した機器側で音量を調整します。
- ゾーン2を使用しないときは、Zone 2ボタンを押してから、Standby/Onボタンを押してください。
- ゾーン2の音量を一時的に小さくするには、Zone 2ボタンを押してから、Mutingボタンを押します。解除するには、再度Zone 2ボタンを押してから、Mutingボタンを押します

ゾーン2（別室）で音楽を鑑賞する

本体で操作する

1

本体の電源をオンにしてから、ゾーン2のソースを選ぶ

Zone（ゾーン） 2 ボタンをくり返し押して、ソースを選びます。

Zone 2ボタンを押してから、入力切換ボタンで選ぶこともできます。

Zone 2インジケーターが点灯します。

ゾーン2 とメインルームのソースを同時に切り換えるには
Zone 2 ボタンをくり返し押して、「Z2 Sel（セレクト）：Source（ソース）」と表示させてからソースを選択します。

2

音量を調整する

Zone2（ゾーン） Level（レベル） ▲/▼ ボタンを押して音量を調整します。

ご注意

- プリメインアンプまたはレシーバーを接続している場合は、接続した機器側で音量を調整します。
- ゾーン2 を使用しないときは、Zone 2 ボタンを押してから、Standby/On（スタンバイ/オン）ボタンを押すか、Zone 2 Off（オフ）ボタンを押して「Off」にしてください。

ゾーン2の音質を調整する

ゾーン2のBass（バス）、Treble（トレブル）、Balance（バランス）を調整します。

1

Zone2（ゾーン）ボタンを押してから Tone（トーン） ボタンをくり返し押して、「Bass（バス）（低音）」、「Treble（トレブル）（高音）」または「Balance（バランス）（バランス）」を選ぶ

2

Tone（トーン）＋/－ボタンを押して、調整する

Bass（バス） Treble（トレブル）：

お買い上げ時は「0」ですが、－10dBから＋10dBの範囲内で2dB ずつ調整できます。

Balance（バランス）：

ゾーン2での左右のスピーカーのバランスを調整します。

左右とも0から＋10の範囲内で2ずつ調整できます。

バランスは、Powerd（パワード） Zone（ゾーン） 2の設定が「Not Act（ノット アクト）」のときと、Zone2 Out の設定が「Fixed（フィックスド）」のときは調整できません。

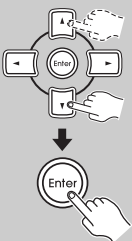
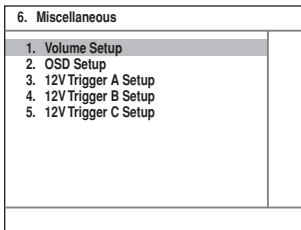
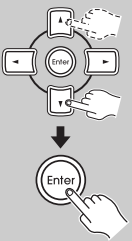
ゾーン2とメインルームの12V Trigger 信号の設定をする

本機の12V TRIGGER OUT 端子を、接続している機器の12V TRIGGER IN端子に接続しているとき、入力ごとにどの部屋で使うときにトリガー信号を出力させるのかを設定します。

1

Setup

Setupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

2

▲/▼ボタンを押して「6. Miscellaneous」を選び、Enterボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「12V Trigger A、BまたはC Setup」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンで「Delay」または「入力ソース」を選び、◀/▶ボタンで設定をする

5

Setupボタンを押す

設定が終了します。

！ヒント

本体のSetupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

Delay

12Vトリガー接続をしている機器の電源が入るときに、機器によっては瞬間的に大容量の電流が流れる場合があります。これを防ぐため、メインルームまたはゾーン2の電源入力と本機からの12Vトリガー信号出力に時間差をつけることができます。また、電源入力を遅らせることで、不安なノイズ（ボコ音など）を避けることができます。

0sec(秒)：メインルームまたはゾーン2 の電源入力に連動してトリガー信号を出力する場合に選びます。

1sec(秒)：メインルームまたはゾーン2 の電源入力から1 秒後にトリガー信号を出力する場合に選びます。

2sec(秒)：メインルームまたはゾーン2 の電源入力から2 秒後にトリガー信号を出力する場合に選びます。

3sec(秒)：メインルームまたはゾーン2 の電源入力から3 秒後にトリガー信号を出力する場合に選びます。

12V Trigger A/B/C Setup

12VトリガーA/B/C端子の設定です。

Off：12Vトリガーを使用しないときに選びます。

Main：接続している機器をメインルームで使用するときだけトリガー信号を出力させたい場合に選びます。

Zone2：接続している機器をゾーン2で使用するときだけトリガー信号を出力させたい場合に選びます。

Main/Zone2：接続している機器をメインルームまたはゾーン2で使用するときトリガー信号を出力させたい場合に選びます。

本機のリモコンで他の製品を操作する

リモコンコードを登録する

4桁のリモコンコードを登録することにより、本機に付属のリモコン（RC-683M）で、本機以外のAV機器（DVD、CD、テレビ、ビデオなど）を操作することができます。

インテグラ/オンキヨー製品を登録するとき

Remote Modeボタンの「DVD」ボタンと「CD/MD/CDR/Dock」ボタンに、本機に付属のリモコンで操作するインテグラ/オンキヨー製品を登録してください。

1. インテグラ/オンキヨー製品が登録できるボタン
ボタンごとに、それぞれ1つのリモコンコードが登録できます。

DVD
「DVD」ボタン
以下のいずれか1つのリモコンコードが登録できます。

インテグラ/オンキヨー製DVDプレーヤー：0627
インテグラ/オンキヨー製DVDプレーヤー（RI専用）：1612

MD/CDR CD Dock
「CD/MD/CDR/Dock」ボタン
以下のいずれか1つのリモコンコードが登録できます。

インテグラ/オンキヨー製CDプレーヤー：1817
インテグラ/オンキヨー製CDプレーヤー（RI専用）：1327
インテグラ/オンキヨー製MDレコーダー：0868
インテグラ/オンキヨー製MDレコーダー（RI専用）：1808
インテグラ/オンキヨー製CDレコーダー：1323
インテグラ/オンキヨー製CDレコーダー（RI専用）：1322
オンキヨー製RIドック：2990
オンキヨー製RIドック（RI専用）：1993

2. リモコンコードを登録する☞91ページ

！ヒント　インテグラ/オンキヨー製品のリモコンコードについて

- **RI専用リモコンコード**
  本機とインテグラ/オンキヨー製品をRI接続したときは、RI専用リモコンコードを登録してください。リモコン操作は本機のリモコン受光部に向けて行います。本機のマイコンが本機とRI接続したインテグラ/オンキヨー機器をシステムコントロールします。
- **一般的なリモコンコード**
  RI接続していないとき、または接続したインテグラ/オンキヨー製品にRI端子がないときは、一般的なリモコンコードを登録してください。リモコン操作は他社製品を操作するときと同じく、登録した機器のリモコン受光部に向けて行います。

他社製品を登録するとき

「AMP/Receiver/Tape」ボタン以外のRemote Modeボタンに、本機に付属のリモコンで操作をする他社製品のリモコンコードを登録してください。

1. 他社製品が登録できるボタン
ボタンごとに、それぞれ1つのリモコンコードが登録できます。

DVD
「DVD」ボタン
DVDプレーヤーのリモコンコードが登録できます。

MD/CDR CD Dock
「CD/MD/CDR/Dock」ボタン
CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダーのいずれか1つのリモコンコードが登録できます。

TV
「TV」ボタン
テレビのリモコンコードが登録できます。

VCR
「VCR」ボタン
ビデオデッキ、DVDレコーダーのリモコンコードが登録できます。

Cable SAT
「SAT/Cable」ボタン
衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーのリモコンコードが登録できます。

2. リモコンコードを調べる☞92、93ページ

3. リモコンコードを登録する☞91ページ

お買い上げ時の設定

お買い上げ時の設定では、「DVD」ボタンにインテグラ/オンキヨー製DVDプレーヤー、「CD/MD/CDR/Dock」ボタンにインテグラ/オンキヨー製CDプレーヤーが登録されています。

DVD
「DVD」ボタン
インテグラ/オンキヨー製DVDプレーヤー：0627

MD/CDR CD Dock
「CD/MD/CDR/DOCK」ボタン
インテグラ/オンキヨー製CDプレーヤー：1817

TV　VCR　Cable SAT
その他のボタンには登録されていません。

リモコンコードを登録する

本機に付属のリモコンで他社の製品を操作するには、**他機（DVD、CD、テレビ、ビデオなど）のリモコンコード（4桁）を登録する必要があります。**
リモコンコード表は92、93ページをご覧ください。
それぞれのカテゴリーからコードを選んでください。

ご注意

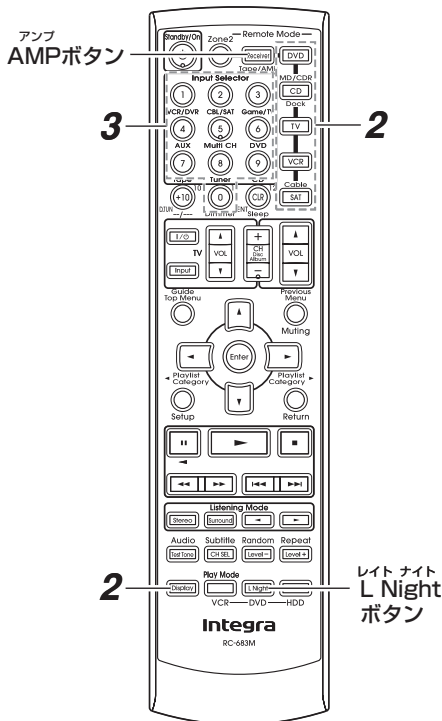
- AMP（アンプ）/Receiver（レシーバー）/Tape（テープ）ボタンには登録できません。
- 製品によっては動作しない場合があります。
- インテグラ/オンキヨー製のMDレコーダー、CDレコーダー、RIドックを操作するときは、入力表示を変更してください。（☞50ページ）

「Remote（リモート） Mode（モード）」ボタンの初期設定（お買い上げ時の設定）の戻しかた

1. 初期設定に戻したいRemote Modeボタンを押しながら、L Night（レイト ナイト）ボタンを3秒間押します。
2. もう一度そのRemote Modeボタンを押すと、Remote Modeボタンが2回点滅して、初期設定に戻ります。

リモコンを初期設定に戻すには

お買い上げ時と同じ状態に戻すには、以下の操作をしてください。

1. AMPボタンを押しながら、
   L Nightボタンを3秒間押します。
2. もう一度AMPボタンを押すと、AMPボタンが2回点滅して初期設定に戻ります。

1

登録する他機のメーカー別リモコンコード（4桁）を92、93ページのリモコンコード表で確かめる

2

登録したいRemote（リモート） Mode（モード）ボタンを押しながら、Display（ディスプレイ）ボタンを3秒間押す

Remote Modeボタンが点灯します。

3

30秒以内に、数字ボタンで4桁のリモコンコードを入力する

Remote Modeボタンが2回点滅します。

4

他機を操作する

登録した機器に向けて操作してください。

RI専用リモコンコードの場合

インテグラ/オンキヨー製品のRI専用リモコンコードを登録したときは、本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

正しく動作しない場合は、もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある機器は、他のコードも試してください。

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。
- 形式、年式によって使用できないものがあります。
- 機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

■ DVDボタン

● DVDプレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	0641
デノン	0490,0634,1282,1406,1634
フナイ	0675,1268
日立	0573,0664,0695,1247,1664
ビクター/JVC	0558,0623,0867,1164
ケンウッド	0490,0534
LG	0591,0741,0801,0869
マランツ	0539,1627
三菱	0521,1403,1521
インテグラ/オンキヨー	0627,1612(RI専用)
パナソニック/テクニクス	0490,0703,1010,1011,1282,1362,1462,1490,1762
フィリップス	0503,0539,0585,0646,0675,0854,1158,1260,1267,1340,1354
パイオニア	0525,0571,0631
サムスン	0490,0573,0744,0820,0899,1044,1075
サンヨー	0670,0695
シャープ	0630,0675,0752,1256
ソニー	0533,0864,1033,1069,1070,1431,1533
ティアック	0571,0717,0759,0790
東芝	0503,0695,1045,1154
ヤマハ	0490,0539,0545,1282

● DVDレコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	0490
フナイ	0675
日立	1664
ビクター/JVC	1164
LG	0741
三菱	1403
パナソニック	0490,1010,1011
フィリップス	0646,1158
パイオニア	0631
サムスン	0490
シャープ	0630,0675
ソニー	1033,1069,1070,1431

■ CD/MD/CDR/Dockボタン

■ CDプレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	0157
デノン	0003,0034,0626,0766,0873
日立	0032
ビクター/JVC	0072,1294
ケンウッド	0028,0036,0037,0190,0626,0681,0826
マランツ	0029,0038,0157,0180,0435,0626
インテグラ/オンキヨー	1327(RI専用),1817
パナソニック/テクニクス	0029,0303,0388,0752
フィリップス	0157,0274,0626
パイオニア	0032,0468,1062,1087
サンヨー	0087
シャープ	0034,0037,0180,0861
ソニー	0000,0100,0185,0490,1364
ティアック	0180,0378,0393,0420,0435
ヤマハ	0036,0490,0888,1292

● CDレコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	0626,0766
ビクター/JVC	0072,1294
ケンウッド	0626
マランツ	0626
インテグラ/オンキヨー	1322(RI専用),1323
フィリップス	0626
パイオニア	1062,1087
ソニー	0000,0100,1364
ティアック	0420
ヤマハ	0888,1292

● MDレコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	0873
ケンウッド	0681,0826
インテグラ/オンキヨー	0868,1808(RI専用)
シャープ	0861
ソニー	0185,0490
ヤマハ	0490,0888

● RIドック

ブランド名	コード番号
オンキヨー	1993(RI専用),2990

■ TVボタン

● テレビ

ブランド名	コード番号
アイワ	1916
デル	1080,1178
富士通ゼネラル	0186
フナイ	0171,0180,0264,0342
日立	0009,0030,0056,0092,0109,0145,0156,0178,0186,0225,0474,0508,1037,1145,1150,1156,1245,1256,1378
ケンウッド	0030

LG	0001,0030,0037,0056,0060,0108,0178,0442,0474,0644,0700,0714,0856,1178,1265,1378,1178,1265,1378
マランツ	0030,0037,0054,0556,0704,0855
三菱	0030,0056,0093,0108,0150,0154,0178,0180,0236,0250,0474,0512,0817,0836,1150,1171,1182,1250
NEC	0009,0030,0051,0053,0056,0154,0156,0170,0178,0186,0264,0455,0474,0508,0704,0817,1150,1378,1456,1704
オリオン	0037,0236,0443,0463,0474,0880,1463
パナソニック/ナショナル/松下	0037,0051,0054,0161,0208,0226,0250,0508,0650,0896,1168,1175,1177
フィリップス	0000,0030,0037,0051,0054,0056,0092,0108,0178,0186,0474,0556,0690,1454,1483
パイオニア	0109,0166,0679,0760,0866
サムスン	0009,0030,0037,0056,0060,0090,0092,0154,0156,0178,0208,0226,0264,0474,0556,0587,0618,0644,0702,0766,0812,0814,0817,1060,1150
サンヨー	0088,0145,0154,0156,0180,0208,0264,0376,0424,0474,0508,1150,1179
シャープ	0009,0030,0093,0256,0474,0650,0787,0818,1165,1193
ソニー	0000,0650,1100,1167,1300,1505,1651
東芝	0009,0035,0060,0093,0145,0154,0156,0161,0264,0508,0509,0618,0644,0650,0845,1150,1156,1169,1173,1256,1265,1356,1456,1508,1656,1704,1935
ビクター/JVC	0053,0160,0250,0371,0376,0463,0508,0606,0650,0653,0683,0731,1172,1253

■ VCRボタン

● ビデオデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	0000,0037,0348,0742,1291
フナイ	0000
日立	0000,0037,0041,0042,0089,0240,1037
ビクター/JVC	0041,0045,0067,1279
LG	0037,0038,0042,0045,0209,1037
三菱	0041,0043,0067,0081,0807,1343
オリオン	0121,0184,0209,0348,1479
パナソニック	0035,0162,0225,0226,0614,0616,0836,1035,1062,1162,1244,1293,1562
フィリップス	0000,0035,0081,0226,0618,0739
パイオニア	0042,0067,0081
サムスン	0045,0240,0739,1014
サンヨー	0047,0104,0240,1330
シャープ	0048,0209,0807,1048,1285
ソニー	0000,0032,0033,0035,0636,1232,1295,1296,1447,1448,1636,1972
東芝	0041,0042,0043,0045,0067,0081,0828,0845,1008,1145,1290,1972,1996

● HDDレコーダー

ブランド名	コード番号
ビクター/JVC	1279
マイクロソフト	1972
パナソニック	1244
ソニー	1447,1448,1636
東芝	0828,1008

■ SAT/Cableボタン

● 衛星放送チューナー

ブランド名	コード番号
アイワ	1514
DXアンテナ	1530
日立	0819,1250,1284,1525
ヒューマックス	1176,1427,1675,1743,1808
マスプロ	1530
三菱	0749
NEC	1270,1519
パナソニック	0247,0701,0847,1304,1404,1526
パイオニア	0329,0853,1308
シャープ	1517
ソニー	0639,0847,1524,1558,1639,1640
東芝	0749,0790,1285,1516,1530,1749

● ケーブルテレビチューナー

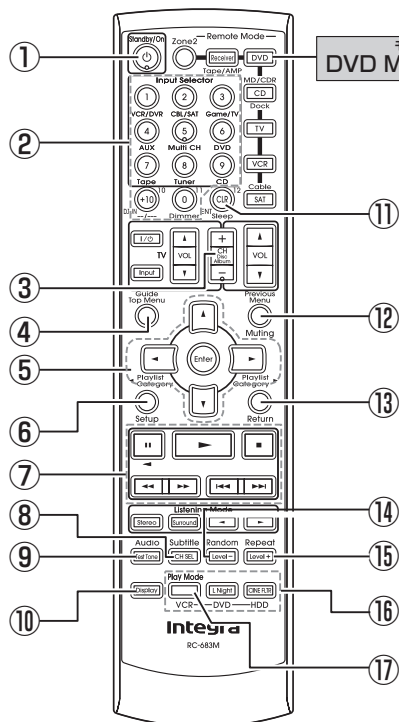
ブランド名	コード番号
DX アンテナ	1500
富士通ゼネラル	1497
NEC	1496
パナソニック	0000,0008,0107,1488
パイオニア	0144,0533,0877,1021,1500,1877
Scientic Atlanta	0008,0477,0877,1877
ソニー	1006,1460
住友電工	1500
東芝	0000,1509

本機のリモコンで他の製品を操作する

DVDモード

DVD

DVDプレーヤー、DVDレコーダーを操作する

DVD Modeボタンに、DVDプレーヤーやDVDレコーダーのリモコンコードを登録したときは、以下のボタンが働きます。

1. DVD Modeボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す
   操作ボタン（リモコンコード記憶後）

① **Standby/Onボタン**
DVDプレーヤーやDVDレコーダーの電源を入れたりスタンバイ状態にします。

② **数字ボタン（1～9、+10、0）**
チャプター番号などを選択します。

③ **Disc +/－ボタン**
DVDチェンジャーのディスクを選択します。

④ **Top Menuボタン**
DVDのトップメニュー画面を表示ます。

⑤ **▲/▼/◀/▶、Enterボタン**
DVDのメニュー操作時、上下左右ボタンを押して項目を選択します。Enterボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑥ **Setupボタン**
DVDの設定項目を表示します。

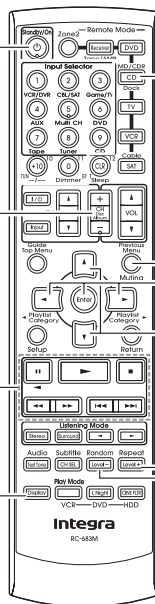
⑦ **❚❚ / ▶ /■/ ◀◀ / ▶▶ / ⏮ / ⏭ ボタン**

❚❚ ボタン
再生を一時停止します。

▶ ボタン
ディスクを再生します。

■ボタン
再生を停止します。

◀◀ / ▶▶ ボタン
早戻し/早送りをします。

⏮ / ⏭ ボタン
チャプターを頭出しします。

⑧ **Subtitleボタン**
字幕言語を切り換えます。

⑨ **Audioボタン**
音声を切り換えます。

⑩ **Displayボタン**
DVDプレーヤーの表示部に表示される情報を切り換えます。

⑪ **CLRボタン**
入力した項目を取り消します。

⑫ **Menuボタン**
DVDのメニュー画面を表示します。

⑬ **Returnボタン**
DVDのメニュー操作時に押すと、1つ前の画面に戻ります。メインメニュー画面で押すと、メニュー操作を終了します。

⑭ **Randomボタン**
ランダム再生をします。

⑮ **Repeatボタン**
くり返し再生をします。

⑯ **VCR/DVD/HDDボタン**
ハードディスクやビデオと一体型のDVDレコーダーを操作するときに、VCR（ビデオ）、DVD、HDD（ハードディスク)を切り換えます。

⑰ **Play Modeボタン**
プレイモードのあるDVDプレーヤーやDVDレコーダーに使用します。

ご注意

接続するDVDプレーヤーやDVDレコーダー、再生するDVDによっては、対応していない機能もあります。

CD/MD/CDR/Dockモード

CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダーを操作する

CD/MD/CDR/Dock Modeボタンに、CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダーのいずれかのリモコンコードを登録したときは、以下のボタンが働きます。

オンキヨー製RIドックを操作する

CD/MD/CDR/Dock Modeボタンに、RIドックのリモコンコードを登録したときは以下のボタンが働きます。

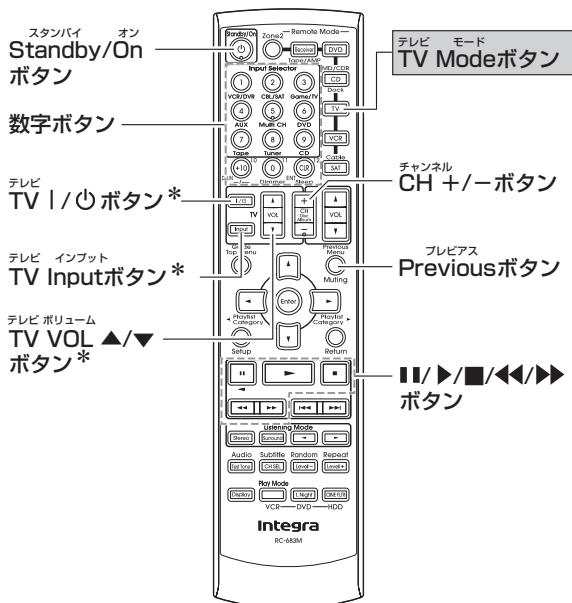
ご注意
- ＊のついているボタンは、第3世代のiPodでは使用できません。
- RIドックの取扱説明書もご覧ください。
- iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

本機のリモコンで他の製品を操作する

TVモード

TV

テレビを操作する

TV Modeボタンに、テレビのリモコンコードを登録したときは以下のボタンが働きます。

1. TV Modeボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

Standby/On	：テレビの電源ON/OFF
1〜12	：数字ボタン
Previous	：1つ前のチャンネルに戻る
CH +/−	：チャンネル選択
❚❚/▶/■/◀◀/▶▶	：ビデオデッキの操作ができます。

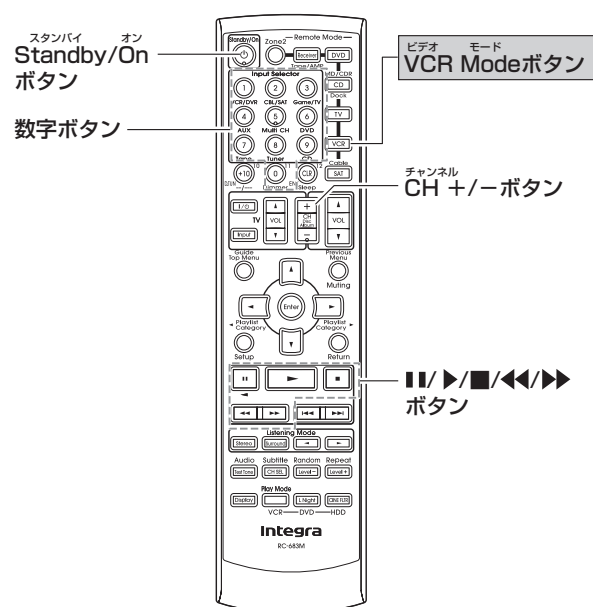
＊のついたボタンは、どのリモコンモードでもTV Modeボタンに登録したテレビを操作できます。

TV VOL ▲/▼	：テレビの音量調整
TV I/⏻	：テレビの電源ON/OFF
TV Input	：テレビの入力切換

VCRモード

VCR

ビデオデッキを操作する

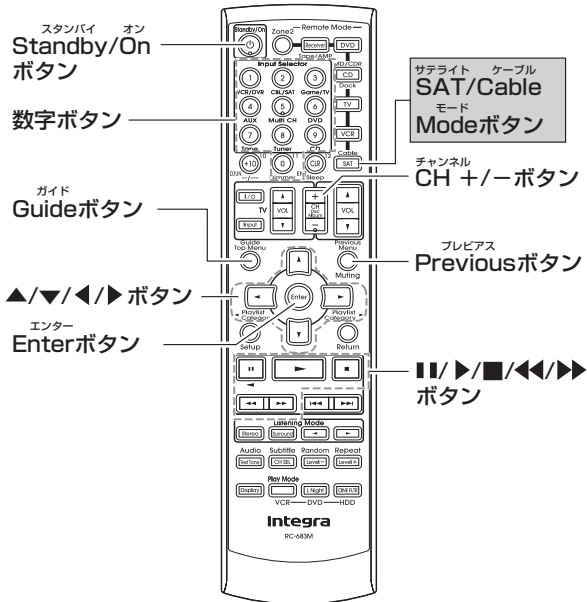
VCR Modeボタンに、ビデオデッキのリモコンコードを登録したときは以下のボタンが働きます。

1. VCR Modeボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

Standby/On	：ビデオデッキの電源ON/OFF
CH +/−	：プリセット局の選局
0,1〜9	：数字ボタン
▶	：再生
■	：停止
◀◀	：巻戻し
▶▶	：早送り
❚❚	：一時停止

SAT/Cableモード

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーを操作する

SAT/Cable Modeボタンに、衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーのいずれかのリモコンコードを登録したときは、以下のボタンが働きます。

1. SAT/Cable Modeボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

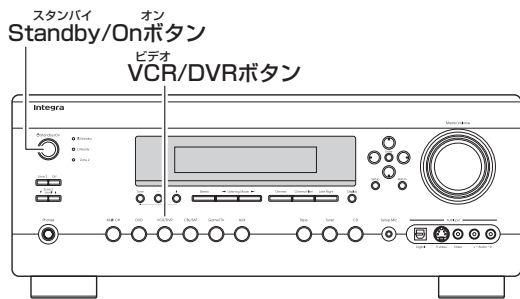
操作ボタン（リモコンコード記憶後）

Standby/On	：衛星放送/ケーブルテレビチューナーの電源ON/OFF
CH +/−	：プリセットチャンネルの選局
0,1〜9	：数字ボタン
▲/▼/◀/▶	：カーソル移動
Enter	：決定
Previous	：1つ前のチャンネルに戻る
Guide	：プログラムガイドを表示する
❚❚/▶/■/◀◀/▶▶	：ビデオデッキの操作ができます。

困ったときは

まず下記の内容を点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
インテグラホームページからも、製品の取り扱い方法やFAQ（よくあるご質問）をお調べいただくことができます。
http://www.jp.onkyo.com/integra/support/
●文章の最後にある数字は参照ページ数です。

！ヒント 修理を依頼される前に

すべての設定をお買い上げ時に戻す

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときは、本機のマイコンをリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。
修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。

電源を入れた状態でVCR/DVRボタンを押したまま、Standby/Onボタンを押してください。

表示部に「Clear」が表示されて、スタンバイ状態に戻ります。

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- 保護回路が働いている可能性があります。スピーカーケーブルがショートしていないかどうかアンプ背面端子、ケーブル、スピーカー背面端子をご確認ください。（18）
  スピーカーケーブルをアンプ背面から外してもすぐに電源が切れる場合、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音声

音声が出力されない/小さい

音声信号の設定はされていますか？セットアップメニューから、デジタル入力の設定を正しく行ってください。（48）
HDMI端子接続しているときは、HDMIの設定を確認してください。（46）

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの+/−は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。（18）
- 入力が正しく選択できているか確認してください。（51）
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMIN･1･2･･･98･99･MAXまで調整できます。一般のご家庭で50前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。（51）
- 表示部に“MUTING”と表示されている場合はリモコンのMutingボタンを押して解除してください。（52）
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。（52）
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは、フォノイコライザーを経由して接続してください。（32）
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプとフォノイコライザーが必要です。（32）
- デジタル入力モードの設定の確認を行ってください。「DTS」や「PCM」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。（79）
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。（58、59）
- 自動スピーカー設定をもう一度行うか、スピーカーの「有/無とクロスオーバー周波数」、「距離」、「音量」設定を手動で行ってください。（39～43、68～71）
- HDMI入力した音声が出力されない場合は、プレーヤー側の出力設定を変更してください。

特定のスピーカーから音が出ない

テストトーンは出ますか？

リモコンのAMP（アンプ）ボタンを押してからTest Tone（テスト トーン）ボタンを押して、接続したすべてのスピーカーから個別にテストトーンが出ているか確認してください。
もう一度Test Toneボタンを押すと、テストトーンは止まります。

表示部にスピーカーの表示は出るが、テストトーンが出ない
- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
ケーブルが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

テストトーンも出ず、表示部にも表示されない
- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。もう一度、自動スピーカー設定をするか、スピーカーの「有/無とクロスオーバー周波数」の設定を手動で行ってください。（39～43、68）

テストトーンは出るが、音が出ない
- 再生するソースによっては音が出にくいスピーカーがあります。
- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

表示と違うスピーカーから音が出る
- スピーカーの接続が正しくありません。それぞれのスピーカーが正しい端子に接続されているか確認してください。（18）

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない
- テレビやAM放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジックIIまたはドルビープロロジックIIxにすると、センタースピーカーに音が集中します。

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない
- リスニングモードが「Stereo（ステレオ）」、「Mono（モノ）」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。

サラウンドバックスピーカーから音が出ない
- 入力ソースやリスニングモードによっては、サラウンドバックスピーカーの音が出にくい場合があります。

サブウーファーから音が出ない
- 入力ソースにサブウーファー音声要素（LFE）が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

希望する信号フォーマットで聞くことができない（Dolby（ドルビー） Digital（デジタル）、DTSやAACのフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTSやAACの音声を聞くためには、デジタル接続が必要です。

- デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。（48）
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力がOFFになっていることがあります。

希望するリスニングモードが選べない

- スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「入力信号の種類と対応するリスニングモード」でご確認ください。（54～57）

音量調整が99以下で終わる

- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、設定画面を使ってスピーカーの音量調整をした場合は、音量最大値が変わることがあります。

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHDのいずれかになっているか確認してください。（60）

マルチチャンネル音声が出力されない

- マルチチャンネル対応のDVDプレーヤーを使用しているか確認してください。
- DVDプレーヤーの接続と設定を確認してください。
- 入力切換のMulti CHボタンを押して音声信号の種類を「MULTICH」にしてください。（61）

困ったときは

DTS信号について

- DTS信号を再生しているときは、本機のDTSインジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもDTSインジケーターが点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTS信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTS信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

HDMI入力音声が頭切れする

- HDMI信号は、他のデジタル音声信号に比べてフォーマット認識に時間がかかるため、音の出だしが遅れることがあります。

映像

映像が出ない/乱れる

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の映像出力端子と本機の接続に間違いがないか確認してください。
- 映像機器と本機をHDMI端子接続している場合は、本機とテレビもHDMI端子接続をしてください。
- TVなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- HDMI入力した映像が出ないときは、本機の表示部に「Resolution Error」と表示されていませんか？この場合、テレビがプレーヤーから入力した映像の解像度に対応していません。プレーヤー側で設定を変更してください。
- 47ページの設定により、VIDEO端子やS VIDEO端子に接続した機器の映像をD端子やコンポーネント端子で接続したTVなどのモニターに変換することができますが、ビデオデッキなど映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり映像を表示しなくなる場合があります。この場合はD端子やコンポーネント端子で接続したTVなどのモニターに変換せず、VIDEOまたはS VIDEO端子で接続してください。

OSD画面表示が出ない

- ご使用のテレビなどのモニター側の設定を確認してください。
- HDMI OUT端子にモニターを接続しているときは、HDMI Monitor設定を「Yes」にしてください。**（45）**

操作内容が画面に表示されない

- Component Videoの設定が「－－－」のときは、D4 VIDEO OUT端子またはCOMPONENT OUT端子に接続された機器に出力されます。HDMI Videoの設定とComponent Videoの設定がどちらも「－－－」のときは、HDMI OUT端子に接続された機器に出力されます。**（46、47）**

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性（＋/－）が正しく入っているか確認してください。**（15）**
- 電池を2本とも新しいものと交換してみてください。リモコン電池が消耗していると、一部のボタンが働かない場合があります。**（15）**
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。**（15）**

RI専用リモコンコードを使ったオンキヨー製他機器の操作ができない

- インテグラ/オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RIケーブルだけでは正しく連動しません）
- もう一度、RI専用リモコンコードを入力し直してください。**（90、91）**
- RI専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。**（12）**
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。（例：TAPE端子にMDレコーダーやCDレコーダー、RIドックを接続した場合や、GAME/TV端子にRIドックを接続した場合）**（50）**

オンキヨー製機器（RIなし）や他メーカー機器の操作ができない

- 他機器との接続が正しいか確認してください。
- もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。
- リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。
- 製品によっては動作しない場合もあります。

録音

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。

その他

自動スピーカー設定中に「Ambient noise is too high」というメッセージが出る

- お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。

多重音声の言語を切り換えたい

- 「Multiplex Input Ch」で主音声/副音声を選択します。（65）

ヘッドホンを接続すると音が変わる/表示が消える

- 「Direct」、「Mono」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的にStereo出力になります。（52）

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

音量に関する設定を希望通りの数字にできない

- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、設定画面を使ってスピーカーの音量調整をした場合は、設定できる音量最大値が変わることがあります。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。
大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

Sビデオ/ビデオ入力に関する初期設定を変更する

画質が悪い

ゲーム機などを本機の映像入力端子に接続してテレビやプロジェクターに出力しているとき、映像が鮮明でない場合は以下の設定を変更することで画質が改善されることがあります。

Video（ビデオ） Attenuation（アッテネーション）
規定を超える強いレベルのSビデオ（セパレート･ビデオ）信号、またはビデオ（コンポジット･ビデオ）信号が入力してきたとき、ゲイン（利得）を減衰（Attenuation）させて適切な感度を保つことができます。

- **Video ATT：0（お買い上げ時の設定）**
- **Video ATT：2**

ゲインを2dB減衰します。

設定のしかた（本体ボタンで操作します）

1 **設定する入力切換ボタンを押しながら、Setupボタンを押す**

設定できる入力切換ボタンは「DVD」、「VCR/DVR」、「CBL/SAT」、「Game/TV」、「AUX」です。

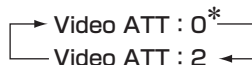
2

◀/▶ボタンで設定したい項目を選び、Setupボタンを押す

設定が終了します。

*お買い上げ時の設定です。

Video ATT：0*
Video ATT：2

用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルやDSPの音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。

ドルビーEX（Dolby EX）
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の3つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の5.1チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジックII（Dolby Pro Logic II）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。ステレオ音源を5.1チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビープロロジックIIx（Dolby Pro Logic IIx）
ドルビープロロジックIIをさらに改良したマトリックスデコード技術。ステレオ音源を7.1チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビーデジタルプラス（Dolby Digital Plus）
ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネルをサポートします。

ドルビーTrueHD（Dolby TrueHD）
ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネル、192kHzのサンプリング周波数で最大5.1チャンネルをサポートします。

DTSデジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国のDTS社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常4:1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD-ROMに記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド
(DTS-ES Extended Surround)
従来のDTS5.1chシステムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ESには「DTS-ESディスクリート6.1ch」と「DTS-ESマトリックス6.1ch」の2種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来のDTS5.1ch対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート (DTS-ES Discrete)
5.1チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応したDTSデジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した6.1チャンネル音声を再生するDTSシステム。

DTS-ES　マトリックス (DTS-ES Matrix)
映画館におけるDTS-ESと同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して6.1チャンネルとする方式のDTSシステム。マトリックスデコーダーとしてNeo:6に対応した機器を使用します。

DTS96/24
DTS96/24フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1チャンネル再生するDTSシステム。サンプリング周波数96kHz、量子化ビット数24ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

DTS-HDハイレゾリューションオーディオ
（DTS-HD High Resolution Audio）
DTS社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。96kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネルをサポートします。

DTS-HDマスターオーディオ
（DTS-HD Master Audio）
DTS社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネル、192kHzのサンプリング周波数で最大5.1チャンネルをサポートします。

Neo:6
DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含むすべての2チャンネルソースを6チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「Cinema」モードと音楽に適した「Music」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックスのセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding)は、AT&T社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS）、そしてソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来のMPEG音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

音声

アナログ
一般的な再生機器に装備されているL/R（白/赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。
音質は同軸デジタルと同等です。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号でＲＣＡタイプのピンコードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。
音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換するときの精度。44.1ｋHzは1秒間に44100回、96ｋHzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

7.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー2つで7ch（7チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この8本のスピーカーを使って再生することを7.1chサラウンドと言います。

映像

コンポジット
映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

Ｓビデオ
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）、同期信号などを複合した形で扱う信号。
コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続にはＳビデオコードを使用します。テレビにＳ端子がある場合使えます。

コンポーネント
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）を2つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
Ｓ信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルを使用します。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。

D端子
ケーブル1本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビにD端子がある場合使えます。
D1～D4までの解像度のランクがあり、D4がもっとも高画質です。画質はSビデオより良く、コンポーネントと同しベルです。映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

HDMI
30ページ参照。

主な仕様

アンプ（音声）部

定格出力：
全チャンネル
120W(6Ω､全高調波歪率0.08%以下､1ch駆動時､JEITA)
実用最大出力：
全チャンネル
185W（6Ω、1kHz､1ch駆動時、JEITA）
全高調波歪率：0.08%（1kHz､定格出力時）
ダンピングファクター：フロント、8Ω負荷時で60
入力感度/インピーダンス：
LINE：200mV/47kΩ
出力電圧/インピーダンス：
REC OUT：200mV/470Ω
周波数特性：
5Hz～100kHz：+1dB/－3dB（ダイレクトモード）
トーンコントロール最大変化量：
Bass：±10dB（50Hz時）
Treble：±10dB（20kHz時）
SN比：
106dB（LINE、IHF-A）
スピーカー適応インピーダンス：4Ωまたは6Ω～16Ω

映像部

入力感度・出力電圧/インピーダンス：
1.0Vp-p/75Ω（コンポーネント、Sビデオ Y信号）
0.7Vp-p/75Ω（コンポーネント Pb/Cb、Pr/Cr）
0.28Vp-p/75Ω（Sビデオ C信号）
1.0Vp-p/75Ω（コンポジット）
コンポーネント映像周波数特性：5Hz～50MHz

総合

電源・電圧：AC100V・50/60Hz
消費電力：450W
待機時電力：0.1W
最大外形寸法：435（幅）×172（高さ）×391（奥行）mm
質量：11.6kg

●映像入力：
D4：3（D4 VIDEO IN1、IN2、IN3）
コンポーネント：3（COMPONENT VIDEO IN1、IN2、IN3）
Sビデオ：5（DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME/TV、AUX）
コンポジット：5（DVD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME/TV、AUX）
HDMI：2（HDMI IN1、IN2）

●映像出力：
D4：1（D4 VIDEO OUT）
コンポーネント：1（COMPNENT VIDEO OUT）
Sビデオ：2（MONITOR OUT、VCR/DVR）
コンポジット：2（MONITOR OUT、VCR/DVR）
HDMI：1（HDMI OUT）

●音声入力：
デジタル：5（OPTICAL3（内 フロント1）、COAXIAL2）
アナログ：8（DVD（マルチチャンネル）、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME/TV、AUX、CD 、TAPE、TUNER）
マルチチャンネル：7.1

●音声出力：
デジタル：1（OPTICAL）
アナログ：2（TAPE、VCR/DVR）
サブウーファープリ：7.1
スピーカー：左右フロント/センター/左右サラウンド/左右サラウンドバック
ヘッドホン：1

●コントロール端子：
RS232：1
IR入力/出力：2/1
12Vトリガー出力：A、B、C

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

高調波抑制規格 JIS C61000-3-2 適合品

修理について

■保証書
この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より3年間です。

■調子が悪いときは
意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または次ページの「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お 名 前
- ▶ お 電 話 番 号
- ▶ ご 住 所
- ▶ 製 品 名　DTX-5.8
- ▶ で き る だ け 詳 し い 故 障 状 況

■オンキヨー修理窓口について
詳細は次ページの「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は
万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について
本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ONKYO®

オンキヨー ご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

■ 製品についてのご相談、カタログのご請求

お 客 様 ご相談窓口	**コールセンター** 受付 9:30 ～ 17:30（土・日・祝、弊社休業日を除く） ＊ WEB : http://www.jp.onkyo.com/support/ ＊ TEL : 050 － 3161 － 9555 ＊ FAX : 072 － 831 － 8124 ＊ 郵便 : 〒572－8540 大阪府寝屋川市日新町2－1 オンキヨー株式会社 コールセンター

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページ。 → http://www.jp.onkyo.com/

快適なオーディオライフをサポートするセレクトショップ。 → http://www.e-onkyo.com/

修理のご依頼は、取扱説明書の「困ったときは」、「故障かな?と思ったときは」または「故障?と思ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。
転居されたり、贈物でいただいたものの故障でお困りの場合は、下記へご相談ください。

■ 修理、部品・付属品についてのご相談、ご依頼

修理窓口	**首都圏サービスセンター** 受付 9:30 ～ 17:30（土・日・祝、弊社休業日を除く） ＊ TEL : 050 － 3161 － 9555（コールセンター） ＊ FAX : 03 － 5819 － 2940 ＊ 住所 : 〒130－0004 東京都墨田区本所2丁目16－5 京王本所ビル6階
	大阪サービスセンター 受付 9:30 ～ 17:30（土・日・祝、弊社休業日を除く） ＊ TEL : 050 － 3161 － 9555（コールセンター） ＊ FAX : 072 － 831 － 8124 ＊ 住所 : 〒572－8540 大阪府寝屋川市日新町2－1

● 050-3161-9555（コールセンター）で集中受付を行っています。

2007年4月現在 お客様ご相談窓口・修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。
（http://www.jp.onkyo.com/support/ で最新の名称、所在地、電話番号をご覧いただけます）